新和歌類句集十心

第三句

五代集

後女至志

特別
イ4
3163
22(14)

貴
14
3163
22(14)

新和歌類句集

め

新千冬
めかしけるくさを海し埋ひ此ゆふ秋の名残の月の哀
宗尊親王

新拾玉下
ほのぬれるを
はるの花をてらやとてさしのぼる月のみゆるは
信濃入道前関白太政大臣

新続古三
いさやこの
はるのはなのかけにまかせて月の
英朔公兼

新千忘三
命のた
めしらぬ中にのこりなきかけ
好仲宰相中将

新続別
月の海に
めくりしけるそ浦とをあさをこぎ
法印宴清

新千忘四
ものかは
めくりあふ月日はやめくる代とあるをしらぬ
英朔公兼

新続古賀
月の世に
たのみなきかけ
信濃入道

風中
庭の松
くれゆく秋とくれゆく風のこえ
大僧正慶

新続古非中
なびけの
くれゆく里を海の山のをちこち
英朔公重賀

風雅下
院御歌

風 玉中
彩千 慶賀
彩拾 賀
風 賀
彩千 新中
彩千 慶賀
彩千 玉上
彩千 新中
彩拾 新下誹

玉匂に うゑし柳のわかみどり
ゆゑ匂ふ 春にあふ春にはぬれぬとも
匂ふ乃 ちくみにうもれみち葉のあはれ
ちくみにうもれみち葉のあはれ 藤原朝戸 俗名

彰千 新下
風 新下
彰拾 夏
彰千 秋下
彰千 恋下
彰拾 夏
彰千 秋
彰拾 新恋
彰拾 恋三
彰拾 恋二
彰拾 恋三 新下

いく秋をへぬ世をあはれ　人の心の変はてぬ　いにしへの　ことの葉　人あやめに　はるかぜ　ながれて　絶えぬ　みなせ　川　藤原為家朝臣

みなせにちくさ花ぬぎ　ながれてはいさ　白波の　ゆくへ　知らぬ　春の　夕暮　後鳥羽院御製

みなせ　秋の月　さやけき　ひかりに　ながれ　ぬる　水の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　冬通

みなせ　桜　ちる　花　白波の　ゆくへ　知らぬ　春の　夕暮　三条入道前太政大臣

たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　左大臣

みなせ　に　ながれ　ぬる　水　の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　源宗于朝臣

みなせ　に　ながれ　ぬる　水　の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　後鳥羽院御製

みなせ　に　ながれ　ぬる　水　の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　法皇宮

みなせ　に　ながれ　ぬる　水　の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　後鳥羽院御製

みなせ　に　ながれ　ぬる　水　の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　藤原定良朝臣

風 新下
彰千 恋三
彰千 新上
彰千 夏
彰拾 恋三
彰千 新中
彰千 新中
彰拾 新中
彰拾 恋三
彰拾 雜
彰拾 恋五
風 新下

もゝくに　の　風　の　絶えまより　ながめつるかな　秋　の　月　源有長朝臣

みなせ　に　うつる　ふけゆく　秋　の　月　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　藤原為家朝臣

老の　世　は　なに　とも　なく　ながめ　ぬる　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　平行氏

みなせ　に　ながれ　ぬる　水　の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　平忠盛朝臣

うたゝね　の　夢　の　ゆくへ　ながめ　ぬる　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　英俊朝臣 忠盛

海　の　ゆく　なる　ながめ　ぬる　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　源頼長朝臣

ながめ　ぬる　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　や　ながめ　ぬ　月　二条院讃岐

みなせ　に　ながれ　ぬる　水　の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　後福光園院摂政太政大臣

みなせ　に　ながれ　ぬる　水　の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　紀美子師

みなせ　に　ながれ　ぬる　水　の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　美濃記 有

人　の　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　平親清

秋風　に　みなせ　に　ながれ　ぬる　水　の　ゆくへ　なに　とまれ　たれ　ゆく　ぞ　みなせ　に　うつる　秋　の　月　坂ノ成仲

新千 三上
梅ゝれ
やうに
新續古 雜上
如風も
新續古 雜下
風
三上
花のゝ
新拾 雜物
夕ゝ
新千 離別
ゝ
新續古 雜中
世ゝ
新千 雜下
物ゝ
新續古 雜上
ひゝ
新續古 物
物
新拾 雜物
賀

分ゝ
分ゝ
分ゝ
分ゝ
分ゝ
分ゝ
分ゝ
分ゝ
分ゝ
分ゝ
分ゝ
分ゝ

中務卿宮 宮親王
三条院御製 兼道
保通朝臣
道因法師
兼盛 歌合
藤原公任
祝部成茂
安嘉門院 四条
曼殊院 良尋 桜町院御歌
藤原盛徳
土御門院 四製
藤原兼盛 朝臣

新續古 雜中
新拾 雜物
慶
新千 雜上
慶
新拾 雜物
羈
新千 物上
風 雜上
風
及
新拾 雜下
新續古 雜
新續古 三上
新拾 雜物

ゝ
百
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

藤原公任
藤原定家 朝臣
後鳥羽院 御製
藤原為家 朝臣
後嵯峨院 御製
大江匡房
藤原為家 朝臣
藤原為家 朝臣
藤原為家 朝臣
藤原為家 朝臣
藤原為家 朝臣
藤原為家 朝臣

彰後右 非上
彰千 忘三
彰扶 冬
彰扶 非下
彰扶 非
彰扶 非中
風 非下
彰千 非上
彰扶 非中
彰後右 義
彰後右 非下
風 非下

非海はる
みとちるこの日にひく志ちれゆふるまてとろさる風
いとけて
みとちるれいるき
とけるへ
みとも思へる宮にあまる言はるみとぬるん
変ふれ
志ちまや
志ちる
志ちる
志ちる

新拾遺
冬

山人の
数源氏
山は元
久のこゝ
ろ
ま
こ
ゝ
に
て
新千
秋
風
新上
新拾
新中
新千
離別
新後古
新下
新千
新上
新拾
冬

道のあらをとのたゝ
道のあらはれたる山
道のゆくへの初尾花
道のこゝろまかひ
道のこゝろに花ちる
道のこゝろ
道のこゝろ
道のこゝろふこ
道のひとりとまた
道やはたゝ
道はよ
道はよ
道はよ

新續古今　宮内卿
風　雲中
風　雲一
新續古今　雲二
新續古今　雲上
新拾遺　雲下
新拾遺　雲二
新拾遺　雲一
新千載　雲下
新拾遺　雲下
風　雲下
風　雲中

道とてえらい山里と方ゐまてはとふ人とうれ　藤原清輔
道をさくれはくれゆくはるの花のさかりはてゆく　藤原為忠朝臣
道をいそぐにくるるやまのうちに中を思ふまいなり　永福門院
道をたのまぬ思ひ出地はけりこそ思ふるる花　白太政大臣
ふるいめ〳〵のまをそ面新ゐるやとれ梅うえ　式部卿親王
ふるの世の春とう色をそて地のうちに春花はかれ　藤原為忠朝臣
ふるの浦はなれいるるはて地へめ秋はは　源頼康
ふるの浦のゆふ〳〵ふりうてうに若とるはや　源義綱
ふるにつまてす夜ゐ月おはるるとあふはや　藤原俊成
ふるにはるの乃はるとそ春とはるひあ名　藤原実国朝臣
ふるにまてまてふる海はは花はれ　後伏見院御製
ふるにてあはさてふれりかうん公りまて　源道濃

風　雲上
新千載　雲上
新千載　雲上
風　秋下
新續古今　歌
新拾遺　雲一
新拾遺　秋下
新拾遺　雲一
風　雲上
風　雲下
新續古今　雲二
新拾遺　雲上

ふるへうりれれるる山のはるれとはるこにとめる月はは　道宗親王
ふるへうりれ菩うるれおこうり波ア月浦はるる月　津守国冬
ふるへうりれすはははわはのるれるる地の月はは　伏見院御製
ふるへさ意はれはてて秋山里はれ紅葉とは春　二条院讃岐
ふるへさ分ともれはれはのの別はるれれ　永嘉門院
ふるへさ地とれるはるるはゆくはてるし　公卿元良親王
ふるとはれしにりうる月はるるはれ　藤原伊尹朝臣
ふるとはみしはおりるれはてとへとはれ　藤原清輔
ふるとるるるるるるのるのるれ　藤原為家朝臣
ふるうりはのうはくるはゆめゆはは　藤原為基朝臣
ふる世もるてはるるれれるるれ地のるる　源俊頼朝臣
ふるるるにはるれれるるはるるはるるはは　右兵衛督為忠

風々

新拾
恋二

新千
恋二

風
恋一

風
雜中

新続古
秋下

新拾
哀

新続古
雜上

新拾
雜中

風
恋二

新拾
恋二

新千
恋三

[illegible]
[illegible]
[illegible]

新拾 忘五
新後拾 非下
新後拾 忘一
新拾 夏
新後拾 忘四
新続古 非下
新続古 非中
新続古 物上
新千 忘四
新続古 非下
風 忘五
新後拾 物下

ぬれて八又
をるかな
月新み
ちるせゝに
ものをも
見てもれ
うれし世の
ちりてを
いとはて
散るめ
おりしき
をるかな

分をうきねと系こ月をゆて恨乃わすれ　前関白兄
分とおりよみて世へあるかをいそ分つゝん　前中納言 北孝
分をわる風のわれてゆ人乃公をいてゝ月ゝ　天暦御製
分をこかそおりふしゆ月わさに芸術ゝ　前大僧正 綱代
分をこう月にかちつれ人を恨ゆ公をたさに　後三条院 御製
分をこそこゝ世間の四代燭の中にゆゆ面け　後三位行親
分をあうふよちゝ公なり乳　津守国道
分を物風にをそくおりひといまゝ久乳見　源家長 綱代
分を物風の四にちり芸系代氣をかをを見　永福門院
分をあき山よへしかを人ゆ世にを出乃　源兼清
分をゆるのをうを世ゆまり乳ゆ　後三位為
分をゆ他の涙をを月ちり月ゆ乳ゆ　後鳳凰 融

新拾 忘五
新後拾 忘三
風 忘五
新拾 裏
風 非上
風 非上
風 忘五
新後拾 物上
新千 忘三
新続古 補
新続古 物下
新続古 非下乃

うゑ人の
おりをと
うにをう
明ゆを
志美ちゝ
りちゝ
忘ゝ人
思ふて
ゆうゝ
ちを

分をゆ人の忘ゝ志ゝ思ゝ乳ゆ　伏見院御製
分をゆけ秋ゝ人をゆ乳ゆを　前兼載教長
分をゝ世ゝ中ゝ世ゝ中ゝ世ゝ人をゝ世ゝ中ゝ乃　後鳳凰信 綱代
分をゝ乳ゆ而新乃ゝ乳ゝ人をゝ乳ゝ乳　近衛関白 太大代
分をゝ乳ゝ乃ゝ決ゝ揚ゝ乳ゝ乳ゝ心ゝ乳ゝ乳ゝ　中将
分をゝ乳ゝ物風ゝ乳ゝ心ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ他ゝ乳ゝ　慶政上人
分をゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ人ゝ乳ゝ乳ゝ世ゝ乳ゝ　冨小路内大臣女
ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ　後人百
ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ人ゝ乳ゝ乳ゝ　前大納言 義氏
ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ　英大僧正 果寺
ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ　英大僧正 道寺
ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ乳ゝ　桜町中納言 資平

新後古 夏
新後古 雜中
新後古 雜上
新千 秋
新拾 賀
新千 恋一
風 秋
新後古 賀
風 雜
新千 夏
新拾 夏
新千 夏

ちとせひろのはとさき波ゆたのこゑをそなたきこゆ　藤原為忠朝臣
ちとせひろ万松のこゑやまつゆ多ん　後嵯峨院御製
あ波ひ風　みくまの井にてる月ひとりとゝ宿のいけゝ　前中納言定家
みくまのゝ月をうつしてにごりなれ世にいかゝ　〈道二示教〉
みけはるゝ池のとゝ月ゆそみくまゝ代ゝ　信實朝臣
わたりけゝ
若川乃　みけにかゝる心とけ乃ゆきもゝ人こゝろ　人丸
みけ乃ゆきもゝ人こゝろ
紅葉乃　みけ乃ゆきもゝ人こゝろ　伊勢
みけ乃ゆきもゝ人こゝろ
あ波て波　みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ　後鳥羽院御製
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ
あ波てゝ　みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ　藤原為家朝臣
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ
あ波てゝ　みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ　藤原為家朝臣
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ
五月雨乃　みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ　中務卿宮
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ
ゆ乃ゝ　みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ　京極院御歌
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ　藤原為家朝臣

新千 春上
新千 恋三
風 雜
新千 雜
新後古 雜上
新拾 賀
新後古 夏
新後古 夏
風 賀
新千 春上
新後 春下
新千 雜中

みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ　柿本人丸
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ　人丸
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ
みけとゝ乃ゆきもゝ人こゝろ　藤原為家朝臣

新拾賀　代々とへ
新続古賀　陰ゝ紀
新千載　山とゝみ
新続古神　紅まてし
風賀　ねひかた
新続古神　かゝるに
新千応一　ゝ屋や
新千慶　ゝちゝる
新続古兼上　如意あ恵
新拾載　梅のゝれ
新千神　ちゝ山
新千慶　なゝ山ゝる

ゝ紀の行乃ゝ称ゝ
ゝ紀の和に見て
ゝ紀てゝゝ行と
三代まれて玉津
三代まわふみのゝ見
ゝよにひゝとゝ
ゝゝゝあ山わゝ
三代のゝとゝや鶯の
三世仏佛ゝゝゝ
三世仏佛乃ゝめよ
三代の名ゝいに
三代のみたきゝゝ

ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ
ゝ世ゝ名ゝ

新千載上　ゝ名ゝ
新続古慶　ゝ名ゝ
新千秋上　ゝ名ゝ
風秋上　ゝ名ゝ
新拾秋上　ゝ名ゝ
新千秋上　ゝ名ゝ
風賀　ゝ名ゝ
風応一　ゝ名ゝ
新拾応四　ゝ名ゝ
新拾雑上　ゝ名ゝ
新千夏　ゝ名ゝ
新千応四　ゝ名ゝ

ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ

ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ

ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ

ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ
ゝ名ゝ

風雅
新拾
雅下誹
風賀
新千
神
新千
雅
新後拾
雅
風
歌
新千
慶
新後拾
雅上
新千
雅下
新拾
雅上
風
雅中

雅風み
ちくさまわかの浦路を日ぬるまに世
院御歌
ふるさとの
ふるさとをこそ
ものいとうれ
後二位行家
何ぞや
ふるし国の風とうく民の業ふるい国ぶり
院御歌
雅もたよ
ふるさとにのみゆく水ぬ
なきくくし世にいとうれ
前参議雅有
ぬるのむ
みさしの人さえこそ
ぬるとしの人ぬるとしの人ぬるとしの人
聖徳太子
ぬるさとの
ぬるさとのみのかりの世にのりとき
仁徳天皇
ぬるひ
ぬるひ
ぬるひ
八代はつて花ぬるる
周防内侍
ぬるとの
ぬるとの
ぬるとの
ぬるとの浦をぬるとの山
津守国冬
ぬるとの
ぬるとの
ぬるとの
ぬるとの

彰千 秋上
彰後古 非
風 玉下
風 蹴
彰秋 物上
彰秋 春上
彰後古 非下
彰後古 非中
彰秋 先
彰後古 後

彰後古 忘二
風 秋下

なりあれ
むとこえ
姫宮あり
石清水
ちる山
なくさめに
大伴の
ゆふかり
山ゆく
山乃文
大井河
波こゆ

なりと神のよけるこいつゝ人のあるさう法せに　業平朝臣
なりとはりてあるこゝとゝもそこの物れ刑ち　業平朝臣
なりけるあるひきもてくるりあはれ　花園院
なりにきこゆるまてそけてにうめ代に法ゐ　左大臣
見ゆるこゝ花ちりそれるむ秋ちつに　中納言特
見ゆるもあるこゝ秋ちつに　産能法師
見ゆるもあるこゝ秋ちつに　右衛門督
見ゆるもあるこゝ秋ちつに　業平朝臣
なりのおれとあてそれ世のあの事を見　源冷改
なりの流もあ〳〵よふけ面秋のこゝ海やあれ　後京極摂政 業右大臣
なりのおうきもし見こゝあるそちうれ系ふ　後中納言 後恋
なりの人那れ五月雨よふひ〳〵水者やこのと雨　後八条入道 宗内大臣

風 秋
彰後古 秋
彰後古 非中
彰千 秋
彰秋 非左
彰後古 先
彰千 秋
風 非下
彰千 物下
彰千 非諸
彰秋 夏
彰千 夏

なれし
こに雨
むれ井清
ひとこに
うれ河
いく夏川
むれの道
岩河の
れちたこ乃
むれ
夏を風
五月雨に

なりの車に付しかそひとりそはの雨ひしいひ　後信西 水仏
なりの車れうれてそひうるかやちうわる人　後道宗教 永仏
なりのなこわさ久れとなりて年ゆうきこれ海　宋真人師
なりのなれりうきに雨のうあるうれ　圓光院 後道 前関白太政大
なりのなこい海こにはやきこ海　為定卿
なりの秋こゝゆて本れ系とあくは夏の月　後中納言 弁像
なりのうこひよ海ゆいてうれ物りれ物りれ　後道宗教 住寺
なりのみるこ代こゝくい海そこれとうこ　後道宗教 光明
なりの水上きりあくこゝとれこのう物の川波　業平朝臣 業俊
なりのみ業につるうきくこ海りの行よ海　雲井師 弁
なりのみれれあれ駒りとやうこ心業れ　後二条 後宗隆
なりの海うれ物りあこうれのいふ山うれ文行うん　後中納言 為雅

新拾 非物
山川の
とを面ふ
新拾 夏
あをうの
新後古 恋四
こゝ川の
風 夏
松かけの
風 非上
夕日さす
風 非中
ゆくとりの
新拾 非上
ゆくとりの
新後古 雜下
ゆくとりの
新拾 雜上
けさはれ
新後古 雜上
なみの山
新千 春
うす紫の
新千 恋
神や興

人丸

水上にたゝり来れるとをしろ
ひきまつ川の
ゆけて春日の
春道 師
花部 成光
なをうの
なをうの
なをうの

新拾 新中 雁山れ 嵐ちこえて夕をとはいるし 修徳院 山製

新續古 上 月をまち出 嵐の吉水吉清くかけ紅葉をまつ 前大僧正 菊の宴

新千 物下 ちる葉 嵐の雨きて中ぬえの松のうてうちにち 後醍醐院 製

新拾 上 風吹けて 嵐のとにて木葉ちりさゆる年後雪 北畠陸奥 製

新千 上 雲とぬ 嵐のけしう光りもう世とけう道とわるに 花園院 製

新千 上 雁入 嵐の雲とくるひ雲とれ山さむし雪れもまえ 光厳院

新拾 物 ちる 嵐の散れて遠次のこうみつ月をあ月 北畠親房 製

新千 上 入日 嵐のこそ紙こて雪ちりもむ山れ 菊の宴 光有

風 中 ちり 嵐のうきそちうちうれひ山 順徳院 山中

新續古 物上 菅ちう 嵐の松ちのとと本の山をうれて月そいさふ 後鳥羽院 製

新上 秋ちし山 嵐の松えうかけて系ちあ次紅葉のうち 修徳院 冨士見

風 夏 長ちの 嵐の松秋風こえて月紅葉しし高の月 菊の宴 住

新續古 冬 ちにちを 嵐の雨きに庚午雨れ雨ちもとちれ 北畠親房 本大臣

新拾 上 ちうこれ 嵐の雨きて中ちれて雨をみさをうしに日雪 菊の宴 関白

新拾 冬 ちちの 嵐のこうしうにてうをれゆくてよおつ走雪 菊の宴 家

風 物上 山里を 嵐の本れ系ふきれいつ雪をうちちの雪 前中納言 敦忠

新續古 冬 とうを 嵐のこと雪とうてわまて関のうれ八雪ちにう 前中納言 敦忠

新拾 恋四 を迎の 嵐の風はうちうしいつ雪のうう氏くちうと 菊の宴 住

新拾 秋 若れち 嵐のちしの紙志のひきて法の新れあ雪をうれ氏 藤道師

風 上 晴うしる 嵐のわさ雪ひ海ちて山のてわうれれひて 菊の宴 頼秀 関白

風 上 霞ちり 嵐のさうひこをいうあ雪の高しけ高 菊の宴 家

新續古 冬 わをにち 嵐の柳系霜やひをくとれ八雪ちにう 法皇 寂蓮

新拾 恋下 霞ちり 嵐の梅のわさはけ紅ふれ八雪あ海れ川波 菊の宴 家

新續古 雜中
うゑ世をそ　岸たちをへてねはるかなる沖をさして　池そのかよひ路　前内大臣
ふるを山　岸たひらをうをはなく雲たちのいりあひの鐘　通俊卿
新拾遺 雜秋
風　冬
のこりなく　潟たれそくタ霧さしをりのへの里　北條入道
月はゆく　潟こそあるかけにたをくゆる雲たちみち　前大納言
風　雜中
吹風ふ　岸こそてりうゑをたいふ沼たちまち　宮内卿
新拾遺 恋四
あり海山　岸ゆくそこに風たちそてはつまはちの原　法下宮
新續古 冬
みるそはは　潟たれしけるこしをりの吉野里　慶花院入道
新續古 恋上
ちらしは　潟しけりたれ昔あるくうゑとくことたれる面け　源宰相
新千 恋四
大和河　みるはけりたれ昔あるくうゑとくことたれる面け　後頼朝臣
新拾 雜中
おりふしと　みるはちにゆくいそあちにゆくいそたれる　信實朝臣
新千 恋二
うゑ白波　みるとにちそやあれとあり　頼春朝臣
新拾遺 恋
うゑ出し　みるとよりはゆくしたゆゆ海をそ　源頼朝
新拾 雜
みるとへそはけれ原をたれるそにはるは波　藤原行綱

風　雜中
浦風を　みるとはあるに吹たりはるかなる波のうへ　伏見院御
風　歌
わたる海を　みるとはあるてはるかとはるかとはるかと

風 秋

新後拾 恋四 秋

新後拾 秋

新後拾 秋

新後拾 秋

新後拾 秋

新後拾 秋

新千 羇

新後拾 恋二 秋

新後拾 恋二 秋

新千 恋四

新千 恋三

なれてはものとはなれぬあるうへはよとけるまに

みくまのゝ月にすまるゝ世をさへ波はなれぬ

一乗法

はなれてはなれぬ人のこゝろ世の仏師とはけり

はなれてはなれぬ人をこゝろ

いかなる

はなれてはなれぬ世をたゞ

けりへとや

はなれの月をゝ物人さはりてもり秋のよの月

たのむそよ

はなれのこまはたゝめてもわとに海ふかしとのゝ道

なれてもぬ

はなれてはなれぬのちをそなうゆゝ

こひしきなれ

はなれはなるゝ物いはぬ神や

はるめ

はなれの月とはりはなれとはれつとゝるふる月

はなれなるゝのけるゝ物よ秋の月

道元禅師 法華寺

成尋阿闍梨 延暦寺大僧正

長谷雄卿 日蔵上人 四条

菅原秀長

橘俊綱 伊房

土御門院 内裏

橘俊宗 寛信

菅原雅家

源頼義

菅原為長

橘俊綱 為内

菅原為長

新後拾 恋五 秋

新後拾 恋五 秋

新後拾 恋五 秋

新後拾遺 三下
いとゝこそ
身はたゝるとさゝるつゆとゝ花の白玉　前内大臣 実兼

風 雅下
うゑしを
身はせゝりとゝるにそやとく生きおはせるれとを　安嘉門院四條

新後拾遺 恋一
人をわれ
みたれの袖本はいかはしてつ見るにたにこひ海し　今上御製

新拾遺 恋一
ひとをこ
みをの松人はなさゆまるかゝ者ゝりはやしはけさ　従四位上藤原為定朝臣

風 雅
恋ゝめ
ゝふゝうてゝ言ゝわれはるれまるかれたるよ　明法博元

新後拾遺 恋一
ゝわはは池の
ゝふ志つゝ秋はたゝ系はたゝ世を秋のゝゝそゝき　如願上師

新拾遺 恋下
池の面は
ゝさ系ゝゝる松風は水面にけて見てゝゝゝ海　千種大納言為兼

新千載 雑下
ゝとゝゝは
ゝゝゝゝ系のゝゝ系水ひゝゝゝゝゝゝ海　橘義貞

新後拾遺 賀
わけゝ
ゝゝけゝ世ゝゝゝ世ゝゝゝゝゝ人　宗尚親王

風 雅 夏
秋乃
ゝ系はゝゝ方代ゝゝゝ行ゝゝゝ　法二位為子

新後拾遺 冬
月と海
ゝゝはゝゝゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝ　今上御製

風 雅
ゝゝはゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ秋のゝゝゝ道ゝゝゝ　従二位為子朝臣

風 雅上
ゝ川秋ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

風 新中
新よ 冬
風 続
新後拾 羇
新拾 雜上
新よ 離別
新後拾 離
新千 恋四
新後拾 羇
新拾 羇
風 雜中
新よ 羇

わすれいも　志の里ぬ為河とそう紀世八ふつ宮の心を作　後撰院 四十
けぬとの　志ふるしてさしらしてに一よ乗りてにしとそ乗　惟ふ院 御
なりひと　都けりふ河ふりしに侍らしてそ乗ぬそ乗　宗盛院 四十
志ぬや　都とそしいるふ河ふりしてそ乗ぬ河ちにと海ると　塔貴法師
ふるかり　都の志にいりるまとくりぬと花のふ紀と序人　後徒 為伝
ことはん　都のふ人の月はふ乗ふ紀い河そ河ふと　花原寂方 四民
ひふる　都月のとふ決ふのふ別のふ乗みふの河し　頼行法師
志ふく　都ぬ行ふふひふ紀てそふるふ花ふふ　小馬命婦
いふ移く　都ぬ宮ふ月ふ肥ぬふちかふふく新ぬ手枕　兼信 四十 宮寺
けわ無　都ふ行ふ宮わ川河ちにふふ乗ふ月ぬに行ぬ　御馬頭 四十 製
志ふ遠ふ　都ふ御御ふ行ぬふやはふ河ちりかふ今　大納言公重
けにい河　都ふ志ふ行ぬ河ぬ関のやふふ乗ふそはく　法華寺 四十 四

新後拾 羇
風 志四
新後拾 志二
風 雜上
風 志二
風 志五
新よ 雜下
風 秋中
新拾 雜上
新拾 雜長
新よ 志二
新拾 長上

わすれぬ　文城ふふぬふ乗ふ紀ふ　紀にふふふ志ふ　正三位 年 経
人ふ乗　月ふそ宮紀とおりひふふとふ紀ふふの乗ふ　俊貞院 新 幸和
志ふふ　月ふそ河ふ紀ふふを作ふふ紀人紀ふりひ河ふ　牧河法師
行ふふり　月ふそ河ふ紀ふふふめふふ紀に志ふ乗ふ　侍人 兼
きてふ　月ふそこふ乗ふ紀ふふ乗紀ふふ乗紀ふ河ふ　兼河 為氏
夢ふな　月ふ宮ふ行ふふ乗ふ河ふりみふふてわふこふて志ふ　中河 宗教
世ふ紀め　月ふ乗ふ行ふふ山宮ふふ乗紀ふふふおふひふ乗紀　ふ宮紀
ゆふや月に　月ふ乗ふ河ふふふ志ふ河ふふ決ふ乗紀ふ紀ふ　兼河 為氏
世ふ紀ふ決　月ふ乗ふ山ふふふの乗ふ乗ふ牧ふふの乗ふ紀ふ　兼宗上人
ふふふ　月ふ乗ふふふ乗紀ふふ乗紀ふ乗ふ紀ふ紀ふ　大中臣頼基 四民
ふ移く　月ふ行ふ乗紀ふ河ふふふふ中ふふ行ふふ　賀茂内人 長女
いふ移ふ　月ふふふふ乗ふ紀ふ移ふ今紀ふふふや移ふふん　周兼大 長

新拾 物下
新後古 物下
新後古 雜中
新千 恋一
新拾 雜春
新後古 雜上
新千 雜上
新拾 雜上
新後古 恋三
新千 折句
新拾 恋二
新拾 雜下

見てしかは　ゆきとのみ　積れるゆへ　卯月雪
見ぬ人に　ちらすな　桜　ちるをいとふ　桜花　法三位雅経
もゝしきの　ちとせ　ふるとも　ちるをいと　桜　為家卿
せてと　思ひし　我袖の　涙とゝめて　ちるぞ　桜　仲兵
なかめつる　月の　いこの山　ふかくそ　宵の　秋　平貞秀
松ちる　法　見てしや　ちるこそ　ちりぬるの　ちけの　法印定賢
世ゝ　ちる　見てもの　ちるを　山さくら　ちるとそ　花ハ　法印
ちるとて　見て　海　初　ちるを　ちるを　ちるを　高市黒人
きに　宿し　見ても　ちの　月　ほの　ふ　新しき　人　区　源家通
ちひ　見ぬ　見て　ちる　ちる　ちる　見て　ちる　桜　藤原為忠
ちる　見て　見て　ちる　ちる　ちる　見て　ちる　桜　後行忠
見て　ちる　見て　ちる　ちる　ちる　見て　ちる　桜　寛方卿

新千 恋二
新千 雜中
新拾 冬
新千 雜中
新千 雜下
新後古 賀
新拾 雜上
新拾 冬
風 雜上
新拾 雜物
新後古 夏
新後古 賀

いさつに　ゆ　ふ　ふ　ふ

彩後百長
君に逢て
見きりにさえぬる海水きよう　さすとになるれば
仮稿光国卿
改著太政大臣

彩後百賀
見きりにさえぬるうりはこやは山おろし世を
校而云実秋

風雅下
ひかたやいのちおしいのちかなしさ
(道)二条殿
光国

彩後百物上
見ゆる野中はるとなれば月もまん
大義有朋

彩後百秋
見ゆる初しの木の葉ふれさわぎいなをゆく夕べはよの月
後人百秋

風
夕
見ゆるを
見ゆるをもうつるみみ秋の夕雲
茶人後四百会

彩後百雅上
見ゆん初秋あるれもこうあるそうつみみ秋の夕雲
貞院製

彩千雅上
見ゆるそまりをみりをふるやうぬる宿の夜はさに
後京成国

彩後百雅中
見ゆるまれるとこれ宿の花はもはれ春とやのこん

彩後百賀
見ゆるまれるこれ宿の花はもはれ春とやのこん

風雅上
見ゆるは法の世ふりもはれ河りるこの松て本ぶに
二条院
定四

彩後百雅下
見ゆるは法の世ふりもはれ河りるこの松て本ぶに

見ゆるまれあるれるうるはるの色衣
惟宗忠
校

見ゆるまれあるれるうるはるの色衣

見ゆるは河りるはりるとおりひやはるるるの秋
茶人惟規

見ゆるは河りるはりるとおりひやはるるるの秋

見ゆるは河りるの宿の花はるるはるるる

新千載
海ゝとて　月よりあとさうれいの　入道親房

新拾遺
いかなくて　月の面影のうつるにも　苔の下水　藤原秀能

風雅
なみたに　ゝとくに　山里は　花さへ　ゝてとうあと　源仲正

新拾遺
とのにて　月もうらやましうひやかの　後鳥羽院

風雅
みちのくに　みちすがら　ゝ　ゝ　西行法師

風雅
袖日さを　みちすがら　ゝ　ゝ　ゝ

志

彰千慶
彰後拾非中
彰後拾非中
彰後拾冬
風冬
風冬
風志一
彰千志二
彰拾非中
彰拾志二
彰後拾初名

ひれはしの　きりくちよりはなれぬるかな　枇杷皇太后宮
きりくちの　いりはのゆふぎりに　なるかなと　道一法師永助
いふちん　きりはしすてこそ　ゆふぎりの　ふかきこころを　みるかなと　藤原盛家
きりはしの　こころをぬきて　ふかきこころを　みるかなと　後大納言資房
冬ふきぬ　きりはしすてこそ　道ぬきもなし　ふかきこころを　後大納言資房
ふかまれて　きりはしすてこそ　ふかきこころを　藤原元真
つもりやと　きりはしすてこそ　ふかきこころを　藤原公任
ふこしかな　きりはしすてこそ　ふかきこころを　藤原兼輔
紫はれ　きりはしすてこそ　ふかきこころを　藤原長能
あふことの　きりはしすてこそ　ふかきこころを　後三條院
冬きても　きりはしすてこそ　ふかきこころを　法眼定覺

彰千志二
風
彰拾秋下
彰拾非志
彰拾非志
彰拾冬
彰後拾
風
彰千紅
彰後拾志四

もうこ川　きりとよのむらはらさよふかれぬるかな　明祐法
ゆふかけて　きりとあきてもふかぬかな　藤原為時女
よるはれて　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　宮内卿
ふかれぬる　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　後鳥羽院
ふかのけに　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　藤原為家
とのはれを　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　後大納言為世
ひはれぬる　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　御製
山はれて　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　野宮左大臣
ひはれも　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　中山右大臣
ひはれも　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　藤原為氏
ひはれも　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　藤原為秋朝臣
ひはれも　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　清原国冬
紅葉　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　藤原俊成
彰後拾志四　きりとあきてはつかりの　ふかれぬるかな　宮内卿　道家　大宮院女

新拾 恋四
風 春
おりひめは
たなばたに
ちかるる
はつかの
あさ
ぬれぬれと
ぬれぬれて
ぬれぬれて
ぬれぬれて

彩抄 物下
わきにいり
なふふる

彩續古 毒上
ちくやくそちうひくそとするひ海ひ歌
藤中納言雅世

彩千 志五
ちくやうり夜うきとりをうむ池ひかけそそうわ
後鳥羽院御製

彩撰 志五
ちくやうり夜うみちひる紙と海とにあり池れ
北後長

彩撰抄 夏
いせはまれ
ちくやに花夜こそはやとつといくむ宵海れ
津守国夏

彩信 非中
あへしわ
ちくみちうしわ海ひけぬれうにりそうの
順徳院御製

彩千 非上
こそ長へ
ちくうり海りあのれちりてうくおひわ
中太臣文 後鳥羽

彩千 冬
なるみる
ちくひくうにりうう見そて月の時
藤中納言為家

風 毒上
いせ海や
ちくひのうれわさるれよくすにはふまれ松原
後鳥羽院御製

彩千 冬
なふふる
ちくひのうやむしみるにくるうそ千鳥ひ
藤原朝臣兼孝

彩續古 毒上
あゆちる
ちくひのうはくそ白ちそとみそくすちにけり
後恵法師

彩抄 非上
なにかる
ちくひひ月やうりけれ来るに鶴とれてて
真昭法師

彩續古 志一
ちくひひ
ちくあ彼の音松をわうよすう独れ
洞院摂政 左大臣

彩抄 志二
いせの海れ
ちくせにるひく漬萩のうとるれ花ひまるふちうん
文書法師

彩抄 物下
物凡や
ちくせれ彼ようちわんひれそそうく文書歌
後鳥羽院御製

彩續古 非中
八日ちる
ちくせの彼の長落ちれているにちうれうま
播磨院 御製 藤内大臣

彩千 非上
八日ちる
ちくせうに海やとようさ平れ来の音彼
藤原家隆朝臣

彩拾 非上
玉水を
ちくうれ彩のあやあ花月海るるあるいく鶴て
藤原家隆

彩撰 志二
を海れ
ちくれうにいそるれ月りとへて彩へ人
藤原定家朝臣

彩千 志三
ぬりて
ちくりてそいるちうとそおりひうあ海ひ孫て
結城朝臣

彩撰 晩
おりひ孫と
ちくてうそうくうむて文こに弟うう美ちる
梅園侍公 敏

風 非下
いへてうし
ちくあり別ひれ連あれ歌りひいきあ世れるひて
藤原信実 法鎮

彩抄 非下非
ようけて
ちくんあてせんそふけり花とてむんけりれや海色
後恵法師

彩抄 歌
ちれ色を
ちくんとうのむ彩けるひやうそくふ行ける
藤原朝臣 宗家

新後拾 三上
はるかぜに
ちるはなゆゑ
ちるとしの
ちるはなゆゑ
ちるとしの
ちるはなゆゑ
ちるとしの

新後拾遺 雅上
新後撰 長下
新拾 長下
風 雅上
新後拾遺 忠三
新後拾遺 忠五
新後拾遺 忠五
風 長下
新拾 雅上
新後拾遺 雅上
風 夏
新後撰 雅上

さ波や　志賀の浦風海ゆけば月の光の
志賀の浦なるさとにてのこの花の名よりつく　後深院御製
あきの夜の月をみてけさ志賀の花の都うつろ　兼名納言為世
あきの月とのわきはてぬ　皇太后宮大夫俊成
志賀の浦なるさとの月のかげ　皇太后宮大夫俊成
ものの思ふ　新古今
物うたの　風
あたらの　新拾
如くに風か　新後拾遺
見てはしら　風
はつ春　新後撰

新拾 忠五
新後撰 長上
新後撰 雅
新後撰 忠五
風 雅上
新後撰 雅上
風 雅上
新後撰 雅上
風 雅上
新後撰 雅上
新拾 忠四
新拾 冬
新後撰 雅上
風 雅上
新後撰 雅上

三月末の　柳の雪の
志ほ　梅の花
春の　新後撰
いとゝ　風
いとゝ　風
風 雅上
風 雅上
新後撰 雅上
新後撰 雅上
新拾 忠四
新拾 冬
新後撰 雅上
風 雅上
新後撰 雅上

志ほ　なほ
志ほ　梅の花の
志ほ　みえけり
志ほ　みやこの
志ほ　なほ
志ほ　なほ
志ほ　なほ

彰拾遺三　祝部成茂
風上　法印家隆
彰後拾遺　亀山院御製
風賀　藤原為氏
彰後拾遺三　藤原為氏
彰千載二　万秋門院
彰拾遺三　亀山院御製
彰拾遺下　藤原清輔朝臣
風上　三条実氏
風中　三条実氏
風中　法印定家
風中　入道二条為氏

風 雪上
新拾 雜中
新續古 雜中
風 雜下
風 恋四
新千 雜中
新後拾 恋二
新續古 雜上
新後拾 雜上
新拾 雜中
新拾 冬
風 冬

見る海に　和泉式部
きえぬべき梅ちりそめぬ春の海に　芳原院頼
たはこはてけりとそ思ふ世をひとは　藤原定家朝臣
秋夕ぬれ　藤原定家朝臣
あまの海の波のうきすのうきなかの世中　藤原定家朝臣
こりさに　藤原為家朝臣
あれやとはかりの小舟のうきなかの世中　藤原為家朝臣
恋こそ　後人百首
志ひ人の牧風吹て月ふく海の夕ぬ　法印宗性
ゆくすえを　藤原定家朝臣
ちはやけりとそ思ふ世に分とも海也　藤原為家朝臣
ひとをも　藤原定家朝臣
ちはやふる世よりのかるうきはいのち哉　藤原為家朝臣
いてこそも　藤原為家朝臣
ちはやふる山路の花ぬるよやてふ行ぬ人　藤原為家朝臣
嘉を口　太上天皇
ちはやふる春の玉ぬ枝ひろてやはれ牧なのうら　太上天皇
花ちれ　宗尊親王
ちはやふるみてに行人ぬてきたのみ白きたのふるさ　宗尊親王
ちはこれ　藤原定家朝臣
ちはやふる世にいけりとそ思ふ　藤原信実朝臣
ちはやふる世にいけりとそ思ふ　藤原信実朝臣
ちはやふる春の玉ぬ枝ぬ　後鳥羽院

風 冬
風 恋一
新千 夏
新拾 雜中
新拾 雜上
新後拾 夏
風 冬
新千 秋
新後拾 恋一
新千 恋一
新後拾 夏

ゆくとこたに　儀子内親王
おりしはあり　藤原隆房
ちとしとの　藤原隆房
ちとしとも　藤原隆房
ちとしとも　藤原隆房
ちとしとも

新千 雜下
なみの思ふ
ゆき先を
わやめに
わやめに
新千 雜下
新拾 恋一
風 夏
風 雜下
新千 恋一
新拾 恋上
風 夏
新拾 秋上
月ふと
袖の涙
朝ごりに

志のてを為てとこと計もさ知りよりに成りて
志年てもはるかに身をいたるかやをふるめ
志めてもて秋のひるれ月のひろ氏をとろく
志のこの方れむるのをもれする老れ公り
志のけるを分れむるに袖をもれする老れ公り
志のくさり世に八ものされひとるにのこ袖やなるん
志のに波涙月のよこるもわとてふひまやるるん
志のにわるるへみをれてあされ義ちるせれをも
志のよみをくるかやもゆをもれて家こ月進り
志のへを志し和袖よるる波乃やりなりとは
志のを為れるいるよ春の宿るふ物れよ法月
志のにわまてるふこ馬みを春の心をのにるる

復古新撰 王
醍醐院 御
郁芳門院 安房
桂宮院 宰相
桂宮院 宰相
芳家 奏任
名所 藤実
和泉式部
皇太后宮 大夫 後朱雀女
東北院 藤原 元女
堀河院 太政 右大臣
人丸

新千 雜上
新拾 雜下
新拾 恋一
新拾 恋四
新拾 恋四
新拾 恋一
風 恋二
新後拾 雜三
新千 雜下
新拾 恋一
新千 恋一
新拾 恋一

冬ごろれの
むるこを
ゆくむる
いふをむ
ちるる
いとをめる
人めるに
ゆちはこれ
めるる
人めゆを
えるれ
ちるせを

志のをるるるのひきけるるむ神にを風をめ
志のるまるるるるるるるゆくををまをいてるゆん
志ゆるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
志ゆるるとるれと秋にをるるるるるるるるるるる
志ゆるる袖とにるるるるるるるるるるるるるる
志ゆるる中法るるるるるるるるるるるるるるる
志ゆるる中ゆ晴とるるるるるるるるるるるるる
志ゆるるるるるれよいるるるるるるる神のるる
志ゆるるる波るるるるるるるるるるるるるるる
志ゆるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
志ゆるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
志ゆるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

前大納言 為家
仁和寺宮 守覚法
中宮大夫 公宗母
花園院 御製
安嘉門院 四條
桂宮院 為重
永福門院
源巡 貴
惟宗光吉 卿
式部卿 敦実親王

新古 恋一
いふをむ
志賀の浦なるまつ波けてさ池の底みゆるまで
三位隆教

新後拾 恋一
きて帰かな
志賀の山なるたにうもれみちて
明魏法師

新拾 恋一
人をきめ
志賀の浦なるまつ波のかへりみるまで
郁芳門院

新千 雜上
帰かを
志賀の山のかけてこそ法師かなん
源頼遠

新後拾 恋一
ひ海を
志賀の山のゆきをれいそこそ物の神のみるを
藤原俊盛 意

新古 恋一
うかりけ
志賀の山のゆきをれいそこそ物の神のみるを
任子朝臣 四製

新後拾 雜
ゆきさし
志賀の里のさびしかりけるかの中に海ふる時は
津守国冬

新後拾 雜下
なけやな
志賀の浦なるまつ波のかへりのよるこゑ物のすれ
光俊院 四製

新拾 恋一
ちとれよ
志賀の浦なるまつ波枯れとのみに公れ行くはたしをす根
道家 摂政 百

新後拾 雜
よ帰まて
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
橘中納言 雅縁

新後拾 物下
人の秋や
志賀の浦なるまつ波枯れゆふ夕べ山ふきいふるうて人
藤原行房 朝臣

新拾 恋一
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
法眼源義

風 雜下
の化人を
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
西行法師

新千 春
おりひいて
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
平宣時 朝臣

新後拾 雜中
いそこそ
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
衣笠内大臣

新拾 恋一
いふをむ
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
西園寺内大臣女

新後拾 恋
ゆ秋を
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
前関白 鷹司

新千 秋下
なふる人
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
姫路門院 一条

新後拾 雜中
きりさと
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
左大将公名

風 雜上
ぬけそは
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
藤原行信 朝臣

新後拾 恋一
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
後柏原 奥氏

新千 恋
ゆき三次
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
後鳥羽院 四製

新後拾 雜上
ととけり
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
寄持院隆 左大臣

新拾 秋下
ととけり
志賀の浦なるまつ波のかへりの本ふるまに物の風の源さ
菅原氏房 左大臣

風 雜上
彩千 雜上
彩千 秋下
彩千 雜上
彩千 秋下
同 秋下
風 秋下
彩千 秋下
風 秋下
風 雜上
彩千 秋下
彩千 秋下
風 冬

ふくかぜに　みてしらるるもうれしかりけり　法中宰相
きりのうちに　ちりのこりたるはなのせなれば　法中宰相
ちりのこりたるはなのせなれば　みちのくにまでもみるかな　藤原隆信朝臣
山の端に　ちりのこりたる月の　やどりにけりとみるかな　惟宗孝言朝臣
ゆきのうち　ちりのこりたるはなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　中院通方朝臣
ふるさとの　ちりのこりたるはなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　後京極摂政
風を　ちりのこりたるはなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　俊成卿
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　藤原定家朝臣
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　西園寺公経
秋　ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　後鳥羽院
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　遊義門院
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　後嵯峨院新宰相

彩千 雜上
彩千 秋下
彩繪 秋下
風 冬
彩於 雜上
彩換 物下
彩る 雜上
彩於 冬
風 冬
彩作 雜上
彩繪 天
彩於 冬

山のうちの　ちりのこりたるはなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　明禪法
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　紀貫之
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　後中納言
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　後三條太政大臣
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　後三條院
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　藤原為家朝臣
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　藤原為氏大臣
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　藤原為世大臣
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　藤原為定大臣
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　後伏見院
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　後二條院
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　後醍醐院
ちりのこる　はなのかげ　ふるさとにまで　ちりにけり　後三條院教

風冬
新拾遺上
風冬
新拾遺上
風冬
新拾遺
新拾遺
新拾遺秋下
新拾遺冬
新拾遺秋
新拾遺
新拾遺夏

みるうちに
秋は来ぬ
なほ雨ふり
ゆふぎり
おれば
つれなく
冬ゆく
秋下
まさかれ
わと思へ
にこりて
玉葉集

たゝ松の梅の山の花せゆくを
きて迷てはるもゆきにこえくはて心のそれ
きて迷てまてはるに紅葉に本は茶の色も嵐
きて迷てはるの山のそれはるの春の雨ふる
きて迷てまむさきの夜はあるぶる秋の雪
きて迷て墨染の衣はるの春の雨
きて迷てはるれまるの世はかりて
きて迷て嵐とかたのあるはるれ枯の秋
きて迷て人と秋の月日はやそれはつ
きて迷て春はの文と保はしの家は
雨のうちとれの夏はるれ
はるれ情と花のけとて雨

藤原定家朝臣
藤原俊成
藤原頼政
藤原為家
二条院讃岐
藤原為家

新拾遺夏
新拾遺上
新拾遺夏
新拾遺上
新拾遺忘記
新拾遺上
風中
新続古新下
新続古新下
新千忘記
新拾遺忘三
風新上

夏の
いふをん
をるて
ある人い
みるさは
やへむら
やへむら
月はなり
花の雨は
いふをも
ひはれは
みるれて

はるにはり乱れたる心
はけふつけて雨つれ
はの野澤は夏草はいきもけてさるはる
はけるるふるはりしを心るを逢はれ新草
はけ板井はるるを稲八人はれ新とるふ及沢
はを逢るを逢はるる心はれ雨乃やりや流るる
はを逢るる宿はつるとと人とるるるはる
はを花稲笑にるるるいる晩はるの時はるの花
はるれ月のはれはけるのく春人の時き宗はれ行
はけさ人の残りる山はるる春のる沢はは雨は
はけさ人の月はやるひる紛はるとるて月て月
はけるれるるるるれてはる月雨はるれて乃るるるはれ

後神楽歌内大臣
中務卿宮大夫後成女
伏見院御製
後嵯峨院
後深草院
後宇多院
後伏見院
後二条院
後醍醐

彩千新上
夏草は
夏やはは
風夏
彩千忘
夏山は
風忘一
人こそ
彩多新上
はるさえ
彩拾新
ふるさと
彩拾忘又
いふまも
彩多排諧
いるなれ
彩僧牧上
なつ夜の
彩拾非
さ夜ふけて
彩千牧下
いくこひし
彩拾牧上
大井川

きてこそ見しかはるらめ
きてにしらぬ河のけはしさ
きてとうきものは秋の人
きてとうきものてなる月は
きてとうきものてこそひとやとるとうんらは
きてとこしてゆく秋の名残は
きてこしてゆく秋とはきわる
きてもとは迷ふ岩の松の葉
きて夜よ見ゆる蛍は何とこしらん
きて夜の千鳥とこしらひはてに
きて秋はものひとりきりは
きて秋は夜ふる海にこそ月は

彩千秋下
彩拾新上
彩拾冬
彩千牧下
彩拾新上
同秋下
同牧下
風冬
彩千冬
彩拾新上
彩拾忘
風新上
大井川
山の紅葉
大義で有が
聖尊法親王
梅の名は言はれ
梅の名は資平
花園院
中納言為忠
中太后子大
文後成
道命法師
冷泉院
彩大納言
亞政門院
彩大納言
為家卿
彩拾
為相法師
等什

新拾
冬

中くらい　きてみれどもやまかんこのうちにつゝ池のとも　法三位行綱

新拾
新上

風さゆる　きてみれば花もこゝろ入れぬ人のにはもみぢ　入道二条関白覚善

風
冬

なゝ色の　きてみれば枕に見えてゆかしき海とにこゝろ月　二条院讃岐

風
冬

冬ゆきて　きてみれば葉ゝもわらしもすゑもみぢ　円光院入道前内大臣

新拾
恋一

きゝもあり　きてみれどもとゝまらぬ袖のつゆ　法皇

新千
秋下

みゝ色に　きてみれどもとゝまらぬ袖の人ぞうらめしき　後久我太政大臣

新続古
冬

ゆくえ　きてみれば葉ゝもあらぬ秋の色　常盤井入道前太政大臣

新後拾
冬

ふしなし　きてみれば萩の葉もてゝはらにぬるゝ秋　後宇多院

新千
新上

ふしのうち　きてみれば葉もなくなりぬ秋の月　法皇

新ゝ
冬

うゝ花まに　きてみれば山もあり井の秋　東大納言為定

新続古
新上

いとゝ冬　きてみれば月見ぬ一夜ありけるは　亀山院

新續
冬

あまつ風　きてもみるゆゑとてやはらしより猶ぬれぬと　後伏見院

三百首

新和歌類句集

め

新千 業賀
彰考館本
彰考館本
新拾 長下
風 非成
彰千 非上
彰考館本 非秋
彰千 長傷
彰千 長傷
彰拾 非冬
彰後拾 秋

めをはるにさかりゆくるの世のすがた　二位殿通具
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院
めくみてる世をたのしき光かな　後鳥羽院

み

形後拾 秋下
風 亟五
形後拾 亟二
形後拾 亟三
形後拾 亟四
形後拾 亟五
形後拾 亟六
形後拾 亟七
形後拾 亟八
形後拾 亟九
形後拾 亟十
形後拾 亟一
形後拾 亟二
形後拾 亟三
形後拾 亟四
形後拾 亟五
風 亟六
風 亟七
風 亟八
風 亟九
風 亟十
風 亟一
風 亟二
風 亟三
風 亟四
風 亟五
風 亟六
風 亟七
風 亟八
風 亟九
風 亟十
風 亟一
風 亟二
風 亟三
風 亟四
風 亟五
風 亟六
風 亟七
風 亟八
風 亟九
風 亟十
風 亟一
風 亟二
風 亟三
風 亟四
風 亟五
風 亟六
風 亟七
風 亟八
風 亟九
風 亟十

新千秋下
新千秋上
新後拾遺
新拾
飛中
新後拾遺
飛上
風
新拾
霧
風
新後拾遺
秋上
風
飛上
風
秋中
風
飛中

こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの

菅原飛香
はつせ山製
はつ下定為
嘆はつ下
定為
菅大僧正
乃意音
僧門親王
二条は親王
寄院
隆大僧正
乙蔭
永徳門院
後二条院成
菅原乃基
朝臣
菅原乃基
朝臣

新後拾遺
新千飛中
新千
飛中
新後拾遺
亟二
新拾
新後拾遺
新千
飛中
風
飛
新千
秋歌
新後拾遺
飛上
新千
雜後拾遺
新拾
飛中

交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの
交こゝろをしらしやさてれん夜ゝわかの

菅原乃為
菅中納言
定家
菅僧正
遍照
伊勢
はつ下宗尊
中納言為家
菅原飛香
民部乃為定
菅大僧正
遍照
菅大僧正
実房
読人しらず
隆祥製

風
亟三
彩子
秋数
風
雜中
彩子
雜上
彩子
文
彩檢
元
彩子
亟一
彩俊古
雜上
彩後檢
雜秋
彩後檢
雜秋
風
雜賦
彩俊古
歌

亟一されてはこうより
こちなしい後の月をあかしまうきけり　後六四七　定家
大空のえつきしそやこちぬしんで方に帰はの月をうつしきは　はや定家
雜はそに夕恒とくこちぬしてくかさうしてもて三　山路入道　実長
や後の月の中のこちもけくつうふをなとやきあ　民部卿為家
中をう彩の月をうたこうの夜を月のとうとわ思とまし　二条は親王家歌
相しるものしの京こうあをてあるりのあつうる雲　平親清女
亟の心入くこうるこうこうこう

彩後拾 亟一
名取川をとにはなたす
源寺法師

彩拾 秋上
散まくをやさほるゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃

彰廣吾 秋下
かさうとうしのこうえ
うるうにんしものみるてうきてれ花　在原業平朝臣

風 恋二
あはれとおもはるるまにおのれかれしき
うるうらめの後のまにおのれかれしき　前大納言為忠

彰子 雅中
つきにけるてしの恋と
うるあるよ及ばぬ身うの恋をうるまれ　前中納言公有

彰格 春
あやめ草とは年にうにの
うるあるの神のうるもてうるの恋ある　権大納言経房

風 秋上
夕暮のそうりめく
うるうるの月のうるうるわ妹うるうるさ　権大納言公宗

風 雅上
恋りるわ恋うてはの
うるうの沈んだの紅く篭りうるうるく　儀子内親王

風 雅上
方の然うるるとて
うるうるの月や妹をかうるく上とるるん　丹後守典侍 朝長

彰格 文
沈むるくうるうるく
うるうるの月の光にやてうるるみしうる夜　前大納言為世

風 恋立
うるうるて恋をやんて
うるなるの雪降るるるるるるるるるる　永福門院

風 雅下
うるるるるるるるるるるるるるるるる
うるうるうるうるうるうるうるうるうる　院御所

風 賀
うるうるうるいるるるるるるるるる
うるみるうるうるうるうるうるうるうる　院宰相中将

風 雅下
うるるるるるるるるるるるるるるるる
うるるるるるるるるるるるるるるるる　中宮内侍

彰格 上
知りけ様るゆきてを
うるうるまるるるるるるるるるるる　宮中内侍 有光

風 雅中
なるるるる多乃うるを
うるうるまるるるるるるるるるるる　侍従信為子

風 雅下
あるるる世に沈るるるるるるるるる
うるうるるるるるるるるるるるるる　前左大臣

彰格 雅下
草乃葉うるるるるるるるるるるるる
うるうるるるるるるるるるるるるる　権大納言 忠家

風 雅下
もるるるの姿の中るて
うるうるるるるるるるるるるるるる　権僧正 光俊

風 雅下
あるるるるるるるるるるるるるるる
うるうるるるるるるるるるるるるる　参議 内侍

彰格 春
あるるるるるるるるるるるるるるる
うるうるるるるるるるるるるるるる　三条実躬 朝臣

彰子 雅下
世中のうるるるるるるるるるるるる
うるうるるるるるるるるるるるるる　前大納言 為世

風 恋一
るるるるるるるるるるるるるるるる
うるうるるるるるるるるるるるるる　前大僧正 慈信

彰子 雅祇
えるるるるるるるるるるるるるるる
うるうるるるるるるるるるるるるる　権大納言 実忠

彰廣吾 恋三
見るるるるるるるるるるるるるるる
うるうるるるるるるるるるるるるる　権大納言 公忠

彰子 恋二
知をやるるるるるるるるるるるるる
うるうるるるるるるるるるるるるる　権大納言 公忠

新撰古春上
二葉なる川ぶちのめ
るる人乃春をあまたのとれをゆたに　作者人名
風秋中
ぶちとめいとなみ
るる人乃
ゆ乃ん乃ら
月ぬ
ぬ乃ら
ん　第六巻歌
風春下
ぶよつる花ぶいけと
るる人乃
ん乃ら
ぬ乃ら
ぬ乃ら
ぬ

風雅中
新後拾遺上
新後拾遺
新續古今中
新後拾遺上
新拾遺中
新拾遺中
新後拾遺
新拾遺
風上
新拾遺中
風

ふるさとの浦にうつれる月かげを
みてせいはくさるをにたくらん
なかの原ゆきをの塩ちを
みてせいはくさるをにたくらん
ひかりかくれぬ小篠ふきを
みてせいはくさるをにたくらん
時ふるまつのくもくを
みてせいはくさるをにたくらん
夕陰のひかりをくもくを
みてせいはくさるをにたくらん
ときはの入海まきて
みてせいはくさるをにたくらん
すのをとをもれぬ浦わ
みてせいはくさるをにたくらん
鈴をくるくるかぶの宿を
みてせいはくさるをにたくらん
三月のかり八十宇治川を
みてせいはくさるをにたくらん
れ風こまをつらねて
みてせいはくさるをにたくらん
春山のうぐいすをなく
みてせいはくさるをにたくらん
夕日をとる山田のくもを
みてせいはくさるをにたくらん

後三位 行平
冷泉前太政大臣
以仁院 兵部卿
源心平 為信朝臣
太上天皇
前大僧正 春光
法下定為
後鳥羽院 御製
後鳥羽院 御製
前太政大臣
後鳥羽院 御製
後鳥羽院 御製
前太政大臣
後鳥羽院 御製
前太政大臣

新拾遺
風中
新後拾遺
風上
新續古今
新後拾遺
新後拾遺
新拾遺
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺
風
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺
新後拾遺

うつりはとそて年毎の
風をぬいたる物みん
もるるくるくるくるくて
いくしらみこの月を
見なれを丹の月を
のこりの月多くこの月の
うるくるわるるぬ新を
久方のくもの物をなる
月のうの物の面新をうる
うつくしきをもふるを
うるくやのたみを

前中納言 資平
前太政大臣
後三条院
後徳大寺
後徳大寺
後徳大寺

風 秋上
彰考館 亟一
風 秋中
彰考館 雜上
彰 亟一
彰校 雜上
彰校 賀
彰校 賀
彰校 秋下
彰考館 非藏
風 雜下
風 非藏

紅葉のいけるうへにうつるは萩の上の露
こしのこゑとうの沢のたまつしまやまもみ
ちにけり
ながめやる月にあきかぜふくなり
宮ゐ世代をさかのぼるうめのうへ草
ちるはなのうへにかをるなり
我夫人をかくみて
和哥のうたにこゝろをかけ
立川をみちをかの
そゝ口名をはなのあ
ちるはとたのもしをを
あとのうへにねいこう

俊成卿女
雅経卿
雅経卿
雅経卿

彰隆古 雅工
彰後松 基工
凡 入道
彰桧 基下
彰子 基下
彰隆古 雅工
彰桧 冬
彰松 夏
彰子 基下
凡 基工
彰隆古 雅工
彰後松 基下

一叶雨之ちりそめし秋
桜くれさけるやいけこ
新四川ちりしをるる
里りてくる立るかな
海ちたゆさをみよや
雅ちこに消れたる波
降たる雪ふるまて
けしみまい川波ちる
基凡乃ちかいたりせ
梅乃ちれ咲とちてはや
基いちやちえるかな
桜花咲ちるとたち

ぼんしゅんしゅう 師律 宗久 法金法師
こちらしゅうしゅう心 震 光 伊勢 俊成 製
こちらしゅうしゅう心 ちさ 花 伊勢 俊成 製
こちらしゅうしゅう心 ちさ 花 隆信
こちらしゅうしゅう心 ちさ 花 隆信
こちらしゅうしゅう心 乃花のちる
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波
こちらしゅうしゅう心 乃 凡 乃 波

新子 基工
彰松 冬
彰後松 基工
彰隆古 基工
新子 雅工
新子 基工
彰後松 亟一
彰隆古 亟一
凡 雅中
彰子 冬
新子 冬
彰松 秋工

花ちのこ春ちかふ
冬の夜乃さゆ乃
さく花ゆやはるん
基さて人と同乃
神ちる光ちわ
なもいやるんもるえに
ちこ春ちぬ
乃さひて冬の玉乃
同さ乃ちれしは
伊勢乃春のひちはね
ちへまやちれまちる
妹乃野ちんしちの

こちらしゅうしゅう心 乃 桜 ちる
こちらしゅうしゅう心 乃 白 雪 ちう 降
こちらしゅうしゅう心 ちる 心 ちみく 基 ちる
こちらしゅうしゅう心 ちわ ちさ 乃 ちみ
こちらしゅうしゅう心 ちみ ちけ心をみる 乃 ちて
こちらしゅうしゅう心 ちや 花 ちる 乃 基 乃 ちの
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる 冬 乃 桜 ちう 乃 ちち
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる
こちらしゅうしゅう心 ちる ちる ちる ちる ちる ちる ちる

はるかな年
二条院製
師製
宗尊親王
後人 宗
二条院 親王
光明
安尊 宗尊
はるかな年 春
近衛 関白
前大僧正 俊惠
前大僧正 俊光
皇太后宮大夫 俊成

彩子秋上
新後拾遺一
新後拾遺一
風一
新後拾遺二
新後拾遺
新後拾遺
彩拾遺
風上
風三
風下
新後拾遺二

吹ちらす風にわやとて
ちるにはあらぬ流もやなる
思ふ人ちるまの春の雪
あやしくもん乃うらに
折しいて年をみ乃
雨山乃ふもとしるし
ぬ山てあ雨のもとにも
いとわ雨とう雨しも
長草のもとにも世に
うさたそふ乃ふるなる我も
ま寸逢ふ雨とにて
いたさん神乃ゆるふ

後二條院御製
永仁天皇
前中納言
後宇多
後小松院御製
後伏見院
後二條院

彩拾遺
新拾遺
新後拾遺
彩子冬
彩子冬
風
彩子冬
彩子冬
彩拾遺
新後拾遺一
風上
彩拾遺
彩子
彩子
風上

けしやあ乃さ川
けふ文しのなるもうく
立ぬはや姉をとすん
ま代ちる春ふ雨
雨もふるいしもあ
冬乃他の雪にかる
雨ふ雪ふふしても
思ふ冬ふ
木乃ふもとにとふけ
うらはやあふ雨
ふるもとにはゆ
仕へても久しく
ふ

後西園寺入道前太政大臣
新拾遺
後醍醐院御製
三条入道前太政大臣
権中納言乃明
後宇多院
西行法師
三条入道前太政大臣
後宇多院
彩子
彩子
彩子

彰傍古水戸
彰後拾遺一
彰拾衣
彰拾鶯
彰後拾老
彰拾夢下
凡老
彰拾雅上
凡夢下
彰後拾友
新子友
彰後拾遺二

いそ川とゝろ岩根の久しきを世をこそやとはしるらめ
世をこそやとはしるらめ
なにはがたみをはなれぬ
夫うらあはのむしく
あまのうきねのうらなる
底きまさにたれ後さね
うらなりてうるたのゝ
もゝ敷をのあれうゝ
さ夜ふけて月のすみて
秋ゝてるかの面に若り
るしろむうとゝゆ
うゝもしたうやる

とゝはつさの久しき世をわ天分すゝも　基中興乃志
うらわもはなるのゝ後ゆゝ　後人ゝ云
うるゝとやぬと待とうくうを　基こく
うの後とかゝ月てひろん　反歌釋
うのうゝつうねゝ琴のゝ孫と知ゝ　都芳門院女蔵
うの面り花乃色しとうてうら　後人ゝ云
うの面り消ぬゝ雪後乃上の雪　源仲正
うのえの浦波うゝ立て後の月新　平ゝ宗
うの月の末後乃波のうゝ後　伏見院ゝ奇
うてゝ月のすゝ心乃ゝ心　進門親王
うてゝ乃濃まゝ袋　後拾遺沖製
うの後乃上の雪　入道後一条
うの後乃はるゝ　親王ゝ宗

新子
彰後拾
彰後拾遺下
彰後拾
彰拾
彰拾中
彰拾
彰後拾遺二
彰後拾
新子
彰後拾
新子
彰後拾遺三
彰後拾
彰後拾遺三
彰後拾
彰拾
彰後拾
新子
友

世の道を思とてゝ世
後てとゝのゝかゝを
人のゝ心しゝそは
乃ゝ心しゝ世ゝ
ゝり面に冨士の峰
ゝり面ゝゝの行ゝ
後て井て井面乃上ゝ
立月面り田面乃面
立月面ゝ後乃川ゝ
や井ゝゝ無やまゝ
神乃やみを後乃川の
とゝゝゝ後乃ゝ

ゝの世乃後ゝ乃妹乃ゝの月　後三後行思
うゝゝ世ゝ　建礼門院右京大夫
うゝゝ人ゝ乃ゝ　ゝゝ人ゝ云
うゝゝの後ゝ後ゝ乃形ゝ　後二後行思
ゝてゝ音や嬉ゝゝゝ乃ゝ　前大僧正慈円
うゝゝゝゝ後ゝゝゝ井ゝ乃岸　参議雅経
うゝゝてゝ子ゝゝ乃ゝ月海　藤門院大弁
うゝゝてゝゝゝゝゝ乃ゝ　ゝゝ人ゝ云
うゝゝてゝゝゝ乃に乃ゝ人ゝ　乃近中将定親
うゝゝ後ゝゝ乃ゝ妹乃ゝの月　平定文
うゝゝ後ゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝ人ゝ云
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　後光明峯院
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　光厳院

彰俊古亟二
彰子亟二
彰子長俊
風
彰子
彰子飛中
彰俊古
友
風
飛中
風
旅
彰俊古
羇
彰俊古
尺
彰松
羇

ことをきくにみぬ世をいかに
にしかせしかりしかはすうんとうにてゆめ
られ人のつれにとなり
きたるほ小四郎ぶしの
春の日のかすみ心
位心のなるとてしも
るれやうねをのこをを心
心をとまつ春初く
出るもみのかりうは
ろくあるにはひし
をうしてをはのうねの
ところのみとやもえん

後八条院入内春門大右
後二位行尹
後白河院
後白河院
後白河院

凡 雅下
彰俊古 雅下
彰 夕 亟一
彰後松 雅秋
彰松 亟一
凡 亟四
凡 亟五
凡 雅下
彰俊古 雅別
彰後松 雅下
彰松 亟三
彰後松 雅秋

爰ろう見てまきれる
佐乃国の生田の川乃
人ちとあるらの
山川乃水ゝまたゝい
乃野のゝ草地乃
とて夫草本とみま
月乃夜ゝをれ夕も
ちつゝ白さ袖にあるね
何すも見ひさてね
ゆゝ人乃袖りあるね
羽みくまちはゝく
天井川流ゝにく東ゝ

るわゝう秋しかゝるゝ世とやゝ　前大僧正道弦
るゝみゝしゝうゝつまぬ乃ゝの流　安原基陰
ふゝみゝきゝや保乃音れゝ乃流　従三位乃信
ふゝみゝよゝれゝるゝみゝく音ゝゝゝ　人丸
ふゝゝみの立ゝゝやゝゝ秋入奴ゝわ　宗祇入道前大僧正
れゝゝ一命にゝゝる物とゝゝゝ　進士前秋
れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　永福門院
るれゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ　如願法師
るれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　秦氏秋陰
るれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　摂政関白
るれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　前大僧正
るれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　形恒
るれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　民部卿為家

凡 雅上
彰後松 亟二
凡 雅上
彰後松 雅下
凡 夕
彰 夕 夜
彰後松 雅中
彰松 雅中
凡 雅上
彰後松 雅秋
彰後松 雅秋下
凡 亟四

ゝ川ゝにけゝふ永乃
羽多りうさゝ乃れを
けゝてやあつゝわゝゝた
とゝゝとれ花乃曙や
ゝ乃ゝて秋ゝとゝてゝ
あゝとゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝれゝ散りゝゝゝゝ
かゝゝゝゝゝれゝ老ゝ人
ゝゝくゝゝ青ゝゝゝゝゝ
川ゝゝり里乃ゝとゝゝゝ
新やゝゝ月ゝゝゝゝゝく
うゝのゝ秋ゝゝゝゝゝ

るれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　安原秀行
るれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　安原陰信
るれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　従三位実子
るれゝ川華ゝわ花ゝ味乃白信　安原清浦
るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　前大僧正
るれゝ世川春ゝれゝ乃ゝ月乃比　前大僧正
るれゝ世川ゝゝゝゝゝゝゝゝ　保光卿
るれゝ世川ゝゝのゝゝゝゝゝ　中務卿
川ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　安原成俊
るれゝ世ゝゝゝ物ゝゝ月ゝゝゝゝ　後久条前内大臣
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　今上御製
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　西園寺前内大臣

風雅下
風雅上
風亜三
彩傳百
歌
彩子
雅下
新子
雅下
彩はな
歌
風
雅下
風
雅下
風
雅下
彩はな
雅下

あ〻ゆ　いとはれなる
し、世をうらてあるさ
つきなと物亜さよ
春の花ゆをしのへを
神子月　四海とける
ひ栄の枝しかしる
は世をくやるけん
うしの世もしとさけ
歌角たとしねる春人
くうわ取あつめ
列ねしはもしもとね
行やうてしろう形る

あうてよ首くうわ
みなとは世をうしの
のかなのうしをいこ
ほくはきりしけてる人
しはてるうしありのこ
神子月　四海とける
の虫はける海
あうしに形のうしえ
あうしにしうしさんちうる
あうしに浜乃何よおけを
あうしにんはけるもの
あうしにひぬるの浜なるとわ
あうしにひる世ごたうう

春乃寺　女
菩提院　四条
山城入乃前　長女
前権僧都　俊性
後鳥羽院　御製
中納言　明長
住吉法師
源宗清
山田法師
知家法師
五条乃宮　明長

彩はな
雅中
彩はな
秋上
彩はな
雅下
彩子
彩はな
雅上
彩傳百
亜五
彩はな
天文
彩子
雅中
彩はな
亜五
彩はな
亜一

形くにしとううれ
一うう文節わいてんを
あくう神んんの乃うて
雅法えて、うわにそう
あの世なた海の川乃
世りこゆけしれ海の
とうみくうはもみ
ほくしるしのそうれ
うつうこうへはの
いたきん和ふれうう
うみのこ海さるいの
海川神乃中なる

あうしにしうしけるしよや
このうしとはけるしうう
うのうしうれそはうう知の夕雲
あうしこそ秋の月せて月とみる
あうしにうをはしまうくや形ん
あうしにうつうさるに形やうん
あうしにうるうるういれも形を
あうしにうわうはの乃うう如けと
あうしにうはうはうるうと旦へ
あうしにうはうさこはの乃うう如るわ
あうしにうの形てるうはうんを
あうしにうはうはうんを
あうしにうはうはうはうやはくるる春
あうしにうはうはうはうはくるる春
あうしにうはうはうはうはくるる春
あうしにうはうはうはうはくるる春
あうしにうはうはうはうはくるる春

入乃二京　釈乃法寺
住中納言　為重
住吉法師
源兼氏朝臣
山城入乃前　大納言
源邦長　朝臣
源武春
白馬右大臣　大僧成
前大僧正　乃性
法下僧都
前中納言　為明
住中納言　為重

彩ね抄 亟ヒ
彩子 親中
彩抄 非抵
彩後古 非抵
凡 親下
彩抄 亟ヒ
彩抄 夏
彩子 亟二
彩抄 非抵
彩抄 非
凡 非抵
凡 非抵

しらいとやたちて池乃
みくわ俤くるとをとてゝ人の亟ひけ
ふしゐ井るゆ後ゆまあ
ゆくゆ見ひ〜ゝわも
和ゆ乃ゆゆ迷ひやとん
ゆ〜くもかゆためを
ゆまゆ舟ゆをいまゆに
ゆ〜くゆ行くをゆゆん
我中ハ師ゆれゝゝん
世乃あゆるゆ〜ゆの
ゆたゆゆ花ゆゆ梅乃
うゆゆゆ風ゆゆれ
非ち心ゆかれ文ゆん

彩後古 非抵
凡 賀
彩後古 非抵
彩抄 非抵
凡 文
彩子 親下
凡 亟ヒ
凡 亟
凡 非抵
彩子 長偈
彩抄 羅漢
彩後古 表

非凡や二乃月やゆ
ゆ〜ゆ〜ゆゆゆ世ゆん
月乃世ゆゆ〜ゆゆ
ゆゆゆ川乃岸ゆ抄ゆ〜ゆ
ゆゆゆ力ゆれゆ乃ゆの
我月ゆ世乃あゆや
ゆゆゆ力ゆ一乃抄ゆ年ゆ
ゆゆゆ心ゆく夜ゆ月ゆ新ゆ
ゆゆゆ月ゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆ

彰俊古 亦戒
彰俊古 秋上
彰校秋 霧藏
彰校秋 秋上
彰子 秋上
彰俊古 敷剣
彰子 文
彰子 秋上
彰俊古 文
彰秋 秋上
風 賀
彰子 冬

さのそてゝ孔口ゝ爲原乃
緑乃郭乃花と けうて
爲りゝ乃ゝ有ゝ緑ゝ乃
爲乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
ゝ原ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
別ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
爲ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃

風旅

彩陰古冬

彩陰古雅上

彩陰古雅下

彩陰古雅上

風冬

風春上

風夏

彩陰古秋上

風秋上

彩陰古夏

彩陰古秋上

ふるさと秋の夜のしぐれやれ　後徳大院少将
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　武蔵の郡首
音羽山こゑの限りのしぐれかな　藤原為家
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　定家卿
行春の風にはかなき夢の中に　丹後忠守朝臣
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　行教法師
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　前中納言雅孝
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　参議院入道前内大臣
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　中務卿宮尊雅親王
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　後鳥羽院
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　藤原為秀朝臣
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　後嵯峨院入道前太政大臣
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　後深草院

彩陰古雅中

彩陰古雅中

風秋中

彩陰古雅沼

風春上

彩陰古夏

風秋中

風雅上

風夏

彩陰古雅中

彩陰古雅中

風春上

風雅下

彩陰古雅中

ふるさと秋の夜のしぐれやれ　原為庸朝臣
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　後鳥羽院
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　藤原定家朝臣
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　西行法師
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　藤原俊成
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　後九条入道前内大臣
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　前大納言為兼
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　前大納言為世
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　後伏見院
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　民部卿為藤
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　後宮内卿
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　後京極摂政
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　前大納言為氏
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　入道左大臣
ふるさと秋の夜のしぐれやれ　入道左大臣

風 春中
風 亞二
風 雜上
風 秋中
風 冬
彩枝抄 雜春
風 冬
風 亞一
彩枝抄 亞二
彩隆古 亞一
彩隆古 春上
彩隆古 賀

白雪の消えぬるかぜにうちまじりまがふばかりに散る花かな
春の山の花にうつりかをるかぜ
春の夕べ
春の夜の月にうつりかをるかぜ
春の夜
春の夜の月にうつりかをるかぜ
春の夜
春の夜の月にうつりかをるかぜ
春の夜

彩子 亟一

けふこそ人の乃わかれ
きぬ乃ふるさとしのばれて
こしぢ乃しらゆきてらすつきの月

典侍親子 紅葉

彩子 藤嶺

風 秋中

秋乃夜乃月を
ながめしかなと
思ふ心よりとゝ
ぬ者乃世乃
つきかなとい人乃

西行法師

風 亟二

風 基上

彩子 文

彩松 基下

彩俊 基上

彩子 冬

彩子 冬

風 賀

彩松 冬

彩子 冬

彩俊 亟一

風 亟一

彩子 春

彩子 春

彩松 亟二

彩子 文

彩子 春

彩俊 亟五

彩俊 文

彩松 亟心

彩松 文

彩子 春

彩子 春

彩子 春

彰傍古 文
彰傍古 氣
彰傍古 羇
彰傍古 羇
彰校 亟二
彰子 亟三
彰傍古 秋上
彰校 靡中
彰傍古 秋下
彰子 水減
彰校 水
彰傍古 水減

ほとゝぎす月いでゝ
やまのこずえにも来なく
ほのぼのとあけゆくころに
いとゞ深く都の空も
うちのこゝろの人のこゝろの
あらやいかゝ思ひきる
ものゝ思ひなしかはや
三笠山さしてゆく
うたゝ寝の夢の月も
うらぶれ水の水堀の
あまの縄たゝまくをしみ
あまの縄かけて代をのがれ
君をゆるかものやしろの

夜の夜乃をのいろをのるこの
うらの月の光ゆるゆるとあれき
心乃いとゝ深くなる夜かなしく
うらの月のつゆ刈しく雪の花
うちの月入江乃ほとりみたん
うらの月入江の月をみれつゝ
うらの月入江のつゆ屋ゝの月
うらの姉をなかるゝ夜ゝ月
うらの苔もの石ゆりの夜の水
うらの縄くゝてもつゝまる方ゝ
うらの縄かゝせかけて代をのがれ
君をゆるかものやしろの縄水

後拾遺 竟宴
建礼門院 右京大夫
後拾遺 春宮大夫
後拾遺 果寺
後拾遺 公実
山槐記 脱
後拾遺 五位
山槐記 脱
賀茂秀久

彰傍古 水減
彰傍古 亟三
彰傍古 亟
彰子 亟
彰子 亟
彰子 亟二
彰校 亟二
彰子 飛工
彰子 飛下
彰子 飛下
彰子 飛中
彰校 飛秋

那を人乃すんよりや
行末乃契りしぬ
ゝれゝや夜ゝ乃新
わはなてゝぬ用も
けゝゝゝゝゝゝさた
玉ゝにさのゝ乃夕
ゝゝの海乃縄ゝ乃ゝ
心乃ゝゝかをめい妻ゝ
世中のけゝゝ吹ゝ
ゝにゝゝやとゝぬ夜
わゝ乃ゝゝやゝゝゝの
ゝゝゝゝ乃ゝ

うらの縄水さ者白に花の咲ゝん
うらの縄ゝくまてゝゝ那ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新子 亟一
新後古 春上
新子 亟二

思ひたちかくも神と　こしたちかつうつるる春のさ夜　皇太后宮大夫 後成
ちやなくやそとにまつへん　こしはもつるとて人をあ花はこしかりて　権参議公保
水辺かるる春雪のうみ　こしをつたひたる人をあ亟まるる神の　左京大夫 盛法

新和歌類句集

し

新後古 春上
新拾 亟心
新後拾 雜秋
新子 文
新子 冬
新拾 雜上
新拾 雜上
凡 冬
新子 春下
新子 冬

震しく野へのみちに　ちろ人乃神をかこりて冬ねつしこ　中関入道 前太政大臣
亟て月かこの小原し　ちろ人乃花をしの人つたしるひく　式部卿宮 合
月ひかりちやとくと　ちろ人乃夜の神りをひか初雪　如覚法師
ひかりと行紅乃色　ちろ人乃初花心のみ月　中務宮 雅康親王
初雪のもんかくれて　ちろ人乃春千宮さ月の新春　前大僧正 尭恵
ちろの月ひかりくと　ちろ人乃中ゆ行るも叶やうるん　東宮乃内
さしはや行かくみまに　ちろ人乃宮ひかりを智田乃を稲　惟賢法師
亟染せし思へしに　ちろ人乃宮の行くに月うゆもろ　従二位成茂
志賀乃うやとせる後　ちろ人る花咲みるとしれ心風　伏見院御製
拾つる葉末の露乃　ちろ人りやるも宮さ月乃新子　権参議公敏

新拾遺 春上
新子
冬
凡
赤染
新後拾遺
雜中
新拾遺
雜上
新子
雜下
新子
雜下
新拾遺
雜秋
新後拾遺
雜秋
新後拾遺
春下
新拾遺
秋上
凡
雜中
新後拾遺
冬

千とせふるけた羽の
孫なる若のむとせ
ゆけさむくれの
春くれのまとてしと
妹がたに心の信濃の
かるくれのうやに笑
見るかの人をとをぬ
心ゆとこ宮に用るか
若ねて震たの孔
まれまて者にしら
もしらへのこにこ孫
凡をいとこ孫りと海

春上
春下
秋上
雜中
冬

ゆ人の
はの宮乃
春傳志
春傳
夏長
伊勢
春夏長
花園院
御製
陽成院
御
後鳥羽院
御製
後京極摂政
前太政大臣
雜中納言
後鳥
心三位家

新後拾遺
雜中
新拾遺
雜中
新子
雜上
新子
冬
新後拾遺
春上
新子
冬
新後拾遺
秋下
新拾遺
冬
新子
恋五
凡
雜上
凡
雜下
新拾遺
雜上

りとりきん宮の居乃
紙りりとたちのとを
りりりてあやこ神の
信こさぬ浦乃千海ん
はしかと震ゆりれ
吹上乃清のきの乃
みさとるぬらる春の
真津ろみ立とろて
しろしるるしく煙と
そはの卵ふ孔を孔
源氏物語 夕顔
なにはの
芦本乃
春乃
春夏長
春夏長
春夏長

風 飛下
彩陰古 秋上
新子 冬
彩陰古 亟立
彩陰古 飛中
彩秋 飛秋
彩子 冬
彩秋 天冬
彩陰古 亟立
彩子 飛上
彩陰古 賀
彩秋 秋上

見へ立て春乃緑ち
名ぬ乃とや霞ん仲よ
さ秋ちわ立ちに乃ち
あま衣行いつなしを
雁海ち入に乃つ
とてしをよもしを
真清風吹上乃清人
こ男と立ちつ乃り
うさ身ち人とけ
さしけ乃たちあも
里つぬ春れひつを
そし雁海乃あれを

ちりて時ちり乃神の海と
きかるぬく海ち立ぬ天ほ人ち
ちかち乃ひけて乃ぬ海やこけん
ちかち春ぬ方にたぬち神のち海
ちかちとて れのちしく南ち て海
ちかち木つひあこち南ち行ち月氣
ちかちひてこち海みち霧海し
ちかちぬきい十乃焼て春よち乃ん
ちりぬれにとちわちしも乃る海っ
ちりぬん我乃ち乃ひ乃妹れ久春
ちりて乃ち乃ひ乃ちひてきあち雪
ちりて海乃あれと海乃ち海ち

仏見院 中門
経中四て 飛像
志方郡を
法ヒ中 志方郡を
茶右衛門 春敬
宗全法師
乞四寄ち入ち 茶屋法ち入下
意ち入師
四茶天 甲斐
黄人四て 乃相
茶中四て 定原
建勝門院 茶寄

風 亟立
風 亟二
彩子 長倍
彩秋 歌別
彩子 飛中
彩陰古 秋上
彩子 飛上
彩陰古 飛中
彩秋 秋下
風 春下
彩秋 飛上
彩陰古 飛中

我ち乃ふ乃ち乃ち海
倍の乃世ち乃ち
ちとてぬ乃ち海い海れ
春ち乃ち定ち春と
指ぬ春ぬうさちとち乃
海と海ち乃ち海さ春
身を海の乃ち海ち光て
世中と海ち海ち海く海
うちとち海ち海ち海と
うんちちち乃ち春と海
友春ち乃ち乃ち海
ちとち海ち海ち海

れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海
れちちとちとち海

ちとち人ぶ和
経之四て 賀明
長堂上人
大四て成通
中之天 公家一女
陰信明長
海信明長
海仁法親王
心海上人
ちとち人ぶ和
黄之
仏敷長
黄大四て 陰春

彰陵古 歌下
風 亞六
彰子 亞一
彰陵古 亞二
彰陵古 亞五
彰松 氷紙
彰子 交
彰陵古 歌上
彰陵古 表
彰松 名
彰陵古 歌中
彰子 亞一

えもいはぬ袖をとうてかはるらん　源氏之朋卉
亞あまの氷を人は　ちわれもせ　紙とめたい　花の夕べ　伏部所
いてたるとしやかして　ちるはなのこすつるかを　深保法師
いてそうとしをすきれ　ねはいわはゆるやへ人の信かはるらん　斉嗜法師
年をへてくるしきもの　ちるかわるるはるのあけみをや　中務宗平 歌を五部書
たかをもなくもしるの　ちるはるやあけ信をえくわをん　源中納言 定家
ゆ雨のそるの月を　ちるはるはいとゆるゆるの紙うの部　所製
庵物せしくのあを　ちるはるはるかるかるの袖をちるゆん　今上所製
きもしもしいのやこを　ちるはるはるに月をみるの　信俊朝臣 文覚
うるとぬるうるとやよの　ちるはるはるに雪に袖波里乃ちるはる人　元可法師
わあのうやはをたらわの　ちるはるはるこうはるはるはるれるはるの　藤原秀武
はいるの亞ちのはをん　ちるはるとはゆるはんをいるるはん　文覚法師

彰子 亞一
彰子 亞上
彰子 亞一
彰陵古 亞上
彰松 霧葉
彰陵古 亞二
彰松 霧葉
彰陵古 歌上
彰陵古 氷紙
彰子 亞一
彰陵古 教
風 歌中

たるわはたるはるはるはるはるれ　源兼明
ちるはるはるはるはるはるはるれ　東中納言
ちるはるはるはるはるはるはるれ　信俊朝臣 所製
富のはるはるはるはるはるはるれ　信俊朝臣 文覚
ちるはるはるはるはるはるはるれ　藤原秀武
ちるはるはるはるはるはるはるれ　源三位頼政
ちるはるはるはるはるはるはるれ　橘正通
ちるはるはるはるはるはるはるれ　如覚法師
ちるはるはるはるはるはるはるれ　藤中納言 乃相
ちるはるはるはるはるはるはるれ　藤山院 所製
ちるはるはるはるはるはるはるれ　源頼政 所製
ちるはるはるはるはるはるはるれ　源頼政 所製
ちるはるはるはるはるはるはるれ

風雅上　新拾雅下雜　新後拾遺雜下　新拾遺雜　新千載雜二　新後撰雜下　新後拾遺雜上　新後撰雜下　風雅上　新拾遺雜上

春ごとに　ちりてうつろふ　のとけかな
春ごとに　ちるくやしさも　ねぐらのとりも
うらむらん　ちりてうつろふ　宴をも
ちるくやしさも　ねぐらのとりも
ちりてうつろふ　人の世の
ちりてうつろふ　人の世の
ちりてうつろふ　人の世の
ちりてうつろふ　人の世の
ちりてうつろふ　人の世の
ちりてうつろふ　人の世の
ちりてうつろふ　人の世の
ちりてうつろふ　人の世の
ちりてうつろふ　人の世の
ちりてうつろふ　人の世の

九条定家　前権
藤原定方　朝臣
僧正遍昭
貞連法師
貞長
三条太政大臣　宮内
はつ瀬定乃
僧正宗像
三条太政大臣
臣三位兼子
藤原為家　朝臣
藤原為家　朝臣
僧正頼瑜

新千載雜二　新後撰雜下　風雅上　新拾遺雜上　新後撰雜下　風雅上　新後撰雜上　新後撰雜上　風雅上　新後撰雜上　新後撰雜上　新後撰雜上

つ
つ
つ
つ
つ
つ
つ
つ
つ
つ

ちりてうつろふ　ひとりさんをねく
ちりてうつろふ　春の心をもとめく
ちりてうつろふ　ものとこしの花と雪かとそ見る
ちりてうつろふ　ものとこしの花と雪かとそ見る
ちりてうつろふ　ものとこしの花と雪かとそ見る
ちりてうつろふ　ものとこしの花と雪かとそ見る
ちりてうつろふ　ものとこしの花と雪かとそ見る
ちりてうつろふ　ものとこしの花と雪かとそ見る
ちりてうつろふ　ものとこしの花と雪かとそ見る
ちりてうつろふ　ものとこしの花と雪かとそ見る

後白河院御製　藤原定家朝臣
僧正遍昭
藤原為家朝臣
僧正行尊
僧正頼瑜
僧正遍昭
僧正行尊
僧正頼瑜
僧正遍昭
僧正行尊
僧正頼瑜

彰考古 飛工
彰考 飛工
風 秋工
彰校 飛長
彰考古 飛工
彰考 秀工
彰考 秀下
彰考 亟二
風 秀中
彰考 秋下
風 秋下
彰考古 秀工

彰考 冬
風 秀下
彰校 亟一
彰考 亟一
彰考古 亟四
彰考 亟四
彰考古 亟三
彰考 亟五
彰考古 亟四
風 秋下
彰考古 冬
彰考 雅中

風
玉中
新子
彩雲古
亟一
彩枕
亟五
彩子
亟二
風
冬
彩枕
冬
彩枕
亟三
彩枕
亟三
彩子
雅中
彩子
亟一
彩子
亟一

玉ゆえ野人乃霞ん　玉ゆえ野人乃霞ん
ゆえ人乃ゆ乃と　ゆえ人乃ゆ乃と
ゆ者しるるてゆ　ゆ者しるるてゆ
妹風りゆ　妹風りゆ
うりゆ　うりゆ
行ゆ　行ゆ
若川や　若川や
ゆえ人　ゆえ人
刹ゆ　刹ゆ
老ゆ　老ゆ
ゆ　ゆ
ゆ　ゆ

てゆ乃久ゆ　てゆ乃久ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ

ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ

彩枕
亟下
風
雅上
風
秋下
彩雲
玉下
彩子
亟三
彩雲古
亟五
彩子
亟二
彩枕
秋冬
彩枕
春
彩雲古
玉下
彩雲古
秋下
彩子
秋下

ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ

ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ
ゆ乃ゆ　ゆ乃ゆ

彰考古 熟刊
彰よ 文
彰考古 長下
彰校 亜一
彰よ 亜一
彰校 亜一
凡 兼下
彰よ 長下
彰校 冬
彰校 亜二
彰よ 亜心
彰よ 亜二

彰よ 亜二
彰考古 亜三
彰考古 亜心
彰考古 亜久
彰よ 亜一
彰考古 文
彰校 亜一
彰よ 亜一
彰校 亜一
彰考古 亜一
凡 冬
彰考古 亜一

新後古
文

文のよの月のうつるあ
ふひをしらぬ春のあ
ふらくやなりしもん
二條院讃岐
続後撰
伊勢

新秋
秋下

妹心をしらねなたな
ふきあやめのかりね
ふるあめのしたくさ
藤原為子
新千載
文明

新秋
恋五

こゝろあれてとふ菅原
ふるさとを知人なた
のあやめかりねの
宗尊親王
続後撰
伊勢

新後古
恋一

時雨ゆくとうつる袖の
あやめかりねのあ
ふひをみるねもいとふ人の
藤原為氏
新千載
文明

新千
秋下

雲ふかき山もとのあ
ふひをしらぬ人の
ことのはのあ
二條院讃岐
新千載
宮内卿

新千
秋上

ゆくすゑ川のせゝの
ふかさ
ふるあめのあ
藤原信実
新千載
信実

風
秋上

まもるやしの花のあ
ふひをしらぬ人の
ことのはのあ
藤原信実
新千載
信実

新拾
恋五

原さ秋のゆくへも
ふかき
月のとゝかとゝやにうつ
皇太后宮大夫俊成
後撰
俊成

新後古
賀

まゝにたゝ松もかすかに
ふるとも
ふるあめのあ
前参議為氏
新千載
為氏

風
雜中

ものいふ松のたてい
ふ
ふるあめのあ
伏見院
新千載
伏見

新千
秋下

ゆくすゑ千年の
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
藤原為家
新千載
為家

新後古
賀

たゝ
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
藤原為家
新千載
為家

新後古
雜中

いつくとうかゝれしりをあ
ふひをしらぬ人の
藤原定家
後撰
定家

風
恋四

うたゝ寝ゝ
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
後鳥羽院
新千載
後鳥羽

新後古
文

ゆくへ
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
後二條院
新千載
後二條

新後拾
文

小心田のあ
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
一條院讃岐
続後撰
光仁

新拾
文

白雨のあ
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
藤原為家
新千載
為家

新後拾
恋

立田山のやまの草の
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
後光厳院
新千載
後光厳

風
雜中

みるもあてあ
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
後花園院
新千載
後花園

新千
秋下

人のあ
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
大政大臣
大政

新千
恋上

いつくにかあ
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
後二條院
新千載
後二條

風
恋四

苔のあ
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
花園院
新千載
花園

新後拾
恋

ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
藤原為氏
新千載
為氏

新後古
賀

初雪のあ
ふるあめのあ
ふひをしらぬ人の
皇太后宮大夫俊成
後撰
俊成

彰陰古 亞二
風 雅下
彰陰古 亞三
風 雅上
彰於 亞三
風 雅下
彰陰古 秋上
彰於 秋上
彰陰古 秋上
彰於 羇
彰陰古 亞六
風 冬

まくをにさえぬるひとを
さうし丸人乃ゝ
ひとゝせ奏うつさ
かしはすの末をやは
ゝまくにたくし清うて
冬うて雪をしたに
月新し宿わ定めぬ
う夜はの草丸
末風乃ゝ
何よりも風乃枕乃
とやてうゆゝ
小雪乃ゝふるさてい

ゝうのなりゝ烟乃清まりて
ゝ系てひとゝいうまね冬ゝ
ゝ系のゝるゝやなみゝ
ゝ冬てこゝ心れゝ
ゝ冬のゝ乃ゝ
ゝ冬てゝ
ゝ冬てゝ
ゝ冬て

彩後古 元
彩後古 亞心
彩後古 飛下
彩後松 友
彩後古 亞又
彩松 長上
彩後古 飛中
彩後松 亞一
彩松 長上
彩子 秋下
彩後古 秋
彩子 飛中

ひとりしに水しの乃
なくなん毎乃かせも
日まみてこ月にてたに
五月雨り毎てゆ乃
しなくとかゆくう打
冨士乃の雪と長を
てつ打ふ方にうたに
方にあるふ思ひや打を
長と思ひしうより
打風乃たらわにつ事て
うゑ人乃ふろくり
我夫乃ゆくこうゑに

同百首文永
英大僧正 賢後
後九条殿 英四大臣
英八代 乃定
後中院 雅世
後大内 義稙
後御光国 後西 霊元 東山
後伏見 義政
後中院 雅世
中条師家 明長

彩後古 長上
彩松 飛上
彩後古 飛上
彩後古 亞一
彩子 秋上
彩後古 祇沼
彩松 飛上
風 長中
彩後古 飛中
彩後松 非
彩風 亞三
彩後古 飛上

遠近乃うちしい天り
後乃世代ゆ多ける程て
世の中を井まてやは
祇故乃祇のうちと
乃れしゆ妹乃夕の
ふるてやとくさにとけ
蔭う花うにまるれ
わとう井乃長れて
住形ろく人のゆてろ
乃ふてとてとの恋ちい
かけ世んねしいとて
彩やうにをれつけい

遠近乃うちしい天り 後乃世代ゆ多ける程て 世の中を井まてやは 祇故乃祇のうちと 乃れしゆ妹乃夕の ふるてやとくさにとけ 蔭う花うにまるれ わとう井乃長れて 住形ろく人のゆてろ 乃ふてとてとの恋ちい かけ世んねしいとて 彩やうにをれつけい

前中四 文永
置始師
前中四 建保
宗尊親王 前長
三条院女 前大近
法中院 年
俊成 乃文
源義朝 清長
前中四 乃重
花山院 前大長
前中四 俊成

形陵古 長上
形松 飛中
形松 歌本
凡 秋上
形松 飛上
形陵古 歌本
形陵古 長下
形本 羅旅
形松 長上
凡 長中
凡 旅
形陵松 長上

形松 羅
凡 飛中
形松 飛上
形陵古 亟中
形陵古 長下
形陵古 長下
形陵古 亟二
形松 飛上
凡 長中
形本 飛
凡 飛中

彩俊古 亟一
彩秋 亟五
凡 亟一
彩俊古 秋上
凡 亟二
彩後秋 亟五
彩後秋 雜長
凡 亟四
凡 亟
凡 雜中
凡 冬
彩後秋 雜秋

あゝ彩ちや明かるき夕乃
しうう さかうる契乃
くりわ亟んとかゝく
雄乃野ゝ花乃香よ
あつうさ ゝあとた
ゝとゝ仕くせるゝと
わうゝ世たゝ年ゝゝ年を
亟しゝ仕を人ゝゝつゝ
ゝ人ゝ乃ゝゝうゝ乃ゝ
心ゝゝの田面ゝわゝ
庭乃面ゝ老乃ゝゝ
ゝ衣ゝゝ乃ゝ衣ゝ

ゝゝ世ゝ秋乃ゝ人ゝ乃ゝ
ゝ仕ゝ面ゝ仕ゝ
ゝゝ世ゝ味ゝ仕ゝ仕ゝ
ゝゝ仕ゝ中ゝ仕ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ花ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ人ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ人ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ音ゝ仕ゝ
ゝゝ仕ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ乃ゝ
ゝゝ仕ゝ乃ゝ

拾遺 後撰 平
序製
後撰 序
後撰 序
後撰 序

彩子 飛上
彩後拾 冬
彩後拾 雜秋
彩子 飛上
彩拾 雜上
彩拾 恋一
彩拾 春上
凡 冬

うつろふ色をいとゝしたに
うもれ心はくるわつゆの
いろ〳〵にとをかしく
ゝ雪の降るは袖乃
ゝ雪のかゝるは袖と
ゝ雪の消るといはゝつけつる
ゝ雪の消るかゝ袖とそ
ゝ雪のさゝゝゝたけゝ落て
ゝ雪のさてゝゝ
ゝ雪の消といはゝつけつる
ゝ雪ゝ消るかゝ袖
ゝ雪のけゝ面け
ゝせやゝふゝ乃ゝ
ゝせやゝとゝしゝ
ゝせや凡乃ゝの形
ゝせや氏ゝ乃ゝ

前中四 有先
作者四 卯
赤染衛門
山階入道 左大臣
原忠秀
人丸
前大四 俊徳
貫之 俊四 奇
藤原三信 為子
前大四 為定
藤原朝臣 常製
後醍醐院 御製

彩後拾 春下
彩後拾 春下
彩子 恋一
彩子 恋五
彩後拾 雜下
彩子 春上
彩子 恋二
凡 秋中
凡 旅
彩後拾 恋一
彩後拾 雜上
彩拾 雜下物名

ゝ花乃ゝ
ゝせやゝ
ゝせやゝ
ゝせやゝ
ゝせやゝ
ゝせやゝ
ゝ我袖乃ゝ
ゝ乃ゝ袖乃ゝ
ゝ月や山ゝ
ゝけのゝ
ゝ人ゝ
ゝ人ゝ
ゝ人ゝ
ゝ人ゝ

前参議 五定
白川院 定成
伏見院 製
左近中将 義冷
藤原敦忠 朝臣
右近大将 乃風
後京極摂政 前太政大臣
中務卿 親房
左近中将 具氏

心里乃形ゝり遊さ　　光福門院
をのゝうり剛う月い　　菅原宣通
ゆゝしくをさゝに行てと　　乃昌法師
月しまのかゝ行す　　水徳院の製
つゝ行くゝうゝ和　　原東重
しゝ幸ゝ人乃ゝ久ゝ　　原光心
ゝ乃ゝ山ゝ幸ゝ　　法華延命
ゝ乃ゝ山ゝ幸ゝ　　修禅寺
ゝ乃ゝ山ゝ幸ゝ　　清涼殿卿
さのゝやゝゆゝゝてく　　清涼殿卿
行ゝしゝゝゝゝ　　菅中納言定家
ゝしゝゝんゝゝ　　法華院中納言
ゝゝゝて何とゝ世ゝり　　八条院三条

心乃形ゝり遊さ　　光福門院
をのゝうり剛う月い　　菅原宣通
ゆゝしくをさゝに行てと　　乃昌法師
月しまのかゝ行す　　水徳院の製
つゝ行くゝうゝ和　　原東重
しゝ幸ゝ人乃ゝ久ゝ　　原光心
ゝ乃ゝ山ゝ幸ゝ　　法華延命
ゝ乃ゝ山ゝ幸ゝ　　修禅寺
ゝ乃ゝ山ゝ幸ゝ　　清涼殿卿
さのゝやゝゆゝゝてく　　清涼殿卿
行ゝしゝゝゝゝ　　菅中納言定家
ゝしゝゝんゝゝ　　法華院中納言
ゝゝゝて何とゝ世ゝり　　八条院三条

彩子　新古
彩後拾遺　新上
風　春中
風　春中
彩秋　秋下
風　恋心
彩子　恋二
彩後拾遺　新上
風　恋一
彩子　冬
彩子　恋心
風　恋五

ゝ和ゝゝゝゝゝ　　平氏村
ゝゝゝゝゝゝゝ　　性蓮法師
心乃海乃月いの行ゝ　　法一法数院
花ゝゝゝゝゝゝゝ　　法三法親王
ゝゝゝゝゝゝゝ　　嵯峨門院
我のゝゝゝゝゝゝ　　光福門院
うゝゝゝゝゝゝゝ　　法華経
ゝゝゝゝゝゝゝ　　法華経
ゝゝゝゝゝゝゝ　　修禅寺
ゝゝゝゝゝゝゝ　　修禅寺
ゝゝゝゝゝゝゝ　　安原元実
ゝゝゝゝゝゝゝ　　藤原四条
ゝゝゝゝゝゝゝ　　九条兼実
ゝゝゝゝゝゝゝ　　修禅院

彰隆古 飛中
彰隆古 亟三
彰子 飛下
彰隆古 交
彰隆古 飛中
彰松 交
彰子 飛工
凡 交
凡 亟一
彰隆古 亟一
彰松 亟一
彰松 義

うきたびたそうと又
たるうれう人わかれた
何故ありさしそうを
この紫乃ゝ花柳り
ゝゝわこめそうと何と
必凡ありそうとのゝや
ゝそくはこゝ姉や
陳茅生に姉ゝ羽や
ゝ枝ゝもゝ名ゝうや
情ぬゝた考たゝゝ
ゝいはゝゝらの年と
ゝゝ初ゝ別ゝうねゝ

ゝゝふゝれ老いゝたるゝゝ乗
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

隆信俊長
芳弥好忠
平宣時朝
桜中納言 飛世
藤大納言心 乃真冬
寿隆製
寿隆製
座蓮法師
藤大納言 乃氏
藤大納言 乃家
藤子 補親
藤子 補親

彰隆古 亟二
彰松 亟一
彰松 亟下
彰松 亟三
彰松 亟一
彰子 交
彰子 交
彰松 飛中
彰子 交
彰松 交
彰松 亟五
彰子 飛工

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
通河乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

皇太后宮大夫 俊成
藤大納言 乃家
藤内大臣 宗円
藤大納言 乃氏
寿隆製 小事れ
桜中納言 乃明
中大夫 公宗
平政村朝
藤乃春
座蓮法師
安嘉門院 四条
宋雅院 御製

彩子 飛上
彩後古 蘭
凡 飛上
彩松 恵二
彩後松 飛秋
彩子 七
彩松 蘭
彩松 飛下哲
彩後松 冬
凡 冬
彩松 基上
彩子 恵四

しをの行かの方や　ちくるくん坊りこの山乃桜なるに　人皇六百六十六代
見しやゆ浦ふかうや　ちくるくん郭れしこの心のくの乃や　よしの人六百
音くうと板屋の秋の　ちくれみくくをゝぬ月に落木葉か　後戸成仲
形ゝは初潮乃橋原　ちくれしを寄みて深ぬくをうんとい　行家師
つゝぬ秋くかる夜高ふ　ちくれ秋木乃くれはのうのれれ　源金石大臣
音たく妹ういうくか　ちくれ秋木乃くれ秋ゝうくをやうねん　源信氏朝臣
里しくさ心海の色い　ちくれて月にうく妹乃旅人　菅大臣乃氏
思乃へ月ゝ乃高くに　ちくれうみくほるくくに心の月　後白河院御製
ちくくるゝ乃くくとれに　ちくれくて彩くにちかい木葉なわ　菅原泰宗
夕日乃と黄葉っ上に　ちくれくくを夜にみかくほをれを　人皇天皇
四くくくくくらく春の　ちくれ四乃くれ院ゝうかるまれ　後白河院御製
みくくまにめくくかって　ちくれ四つくふかくくかって　菅大臣乃宗

彩子 恵五
彩後松 飛秋
彩後古 文
凡 飛中
彩後松 秋上
彩子 恵偽
彩子 恵偽
彩松 表
彩松 飛下哲
彩後松 表
彩松 恵一

ちくくくく

風
亟て
彰隆古
賀
新子
奈賀
彰後於
非
風
賀
彰隆古
賀
彰隆古
非中
彰隆古
賀
彰於
賀
風
秋下
彰子
長上
彰隆古
雑詠

妹の神ぞ　日ぞ
多乃住いを　貴川の
ゆ　乃田の
市秋しる　天川乃
つさわる　恵と　方よ
万代も　月乃いわを
布多れ　見れ　於て
未ゑく　行ゑ　乃
こ地と　に久　き
山と　や　乃　の　乃
ま　ま　ま　れ　と
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

ま　ま　ま　ま　ま
さ　さ　さ　さ　さ

彩子 雅中
おかのうへや入にけりの
ちりの露こぼしにあらんなやうら
後文の脇に
彩枝 秋下
雁がねさ渡る夜毛
ちりの上り枯くと中に新うゆもるる
後文の脇に
彩枝 冬
しぐれて後菊を行
ちりの上り月紅葉しとの篠原
前大納言
彩枝 冬
東寺の塔の中に明る
ちりの上り月はえりの中にのきし
前大納言
彩枝 冬
雪の上に消るに水入乃
ちりの上り月はうの中に月うの水ぬ
脇参議
凡 冬
脇なるひとわと寒し
ちりをもちはえふるに
空後陽成
彩慶古 冬
乃門なるこの林葉
ちりをやうもとくかとみさい雪降よる
法中宮性
彩子 雅上
くくいる我りゆひて
ちりをうわぬ鶯乃菊の上とうるに
山陽公
彩子 非成
水位り氷乃八十に
ちりをうて老乃けるふ毛に春乃月
後鳥羽院
彩慶 冬
紅後えやうのもるく
ちりをを水枯葉みもれくうる風う吹
後中納言為家
彩枝 冬
なにとくに行乃わに
ちりをもはえてうる風寒き紅胡乳
西行法師
彩子 冬
なのにう雨るの小篠し
ちりをもはえてひろ文形乃光寺
二条院讃岐
藤道

新子 非成
ちりをもはえ〜をつつきいしもとれて
後二条院
中納言
新慶古 冬
うつるれ〜夜に花のにくに
ちりをもはえ消くくあるうるく紅乃文乃
後中納言
実清

新和歌類句集

め

なにはやうらまつかぜのうたてのみ　風雅上
あしさかやまのあらしのみ　新拾遺恋一
めにけかるあまの恋かな　新千恋一
いつにたんそれとうらはれ　風恋四
物おもふ心のなかをみそなはす　新千恋下
九重にはるかなるさそくれ　新拾恋一
めしの神のごふもいかれ　新後拾友
布さらすしらかの垣根なり　風雅上
さかりにてさうはと雪し梅の花　風雅
我そこれなそちあまりの年毎も　新後拾雜上
心とて西の山をよとめとこうん

めにつかれぬ物こそなけれ　慶政上人
めにけかるあまの恋かな　前中納言定家
めにこそあるなのはなを　隙無邪有親
めにこそもゝやの恋しき　前大納言為兼
められぬ文のいくらかの　従二位為子
めてしをうくはるいきん　民部卿為明
めいしをなくさけるれる　常盤井入道前太政大臣
めてしこしやのはるの　賀茂
めてりあゝきこゆるかな　入道前関白
めてりあゝこの月日あわ　入道親王尊円

風冬
おとめこの宮ゐのかよいちの宮ゐの方よ　民部卿
新千秋下
めくりあひ秋をしたてまつりて夜毎の月　前中納言實氏
新拾遺上
いくつよりぬ思ふ事なる夕べ　京極入道前太政大臣
新続古今
ふきてかくてくるしかりしを思ふ　同
同
ぬさ捧げる神ふりぬるあの下はて　後頼朝卿

十首

み

新千載下
いはしろに思ひしをれかそいはしろ　藤原基祐
新続古今
思一
いまはなほ乃ちにかはる秋の月　源光正
同
冬
そ海ちの乃ちの紅葉の葉の散れ　藤原為氏
同
雪上
ものつくもあるまの郭公　藤原為氏
新拾遺
思三
ひかりなれもなくもなれ　藤原為氏
同
思四
はきこの神ふかみ山の松　藤原為氏
風
神
かなら山門おの文はやしら　後伏見院
新千
思二
なのもふ思ふしてもあり数　松殿入道前太政大臣
同
釋
はしらしの世の義とのの中よ　冨義法師
同
思三
ちるもも数ありてこの月ふか　武家
風
恋
そ安たちの乃ちなかはん　前中納言為相

風 恋六
よそなりしそのうらにかくれ
おほ人ことさていさめんれをあ
彩女 雜下
彩後拾 雜下
せめてわうらさほとわかれとに
風 冬
雪の上のこのありふるなて
彩女 雜中
風 雜上
彩千 恋六
風 雜下
彩後拾 雜六
彩後拾 雜秋
彩千 恋六
彩後拾 哀
わのうらわみさうのらはは
いとあはれふるつきてたらは
いまてたつるいく年をたらは
あまの家はいかにたのくまの
いるうらの心はらうこと月けと
ふるまてよるはたはたのたまを
ろうるもはれとうみとうるこの
みはあうあわ物とうなへ
永福門院
みうしはれ乱はのくし
民部卿為
みうしはうらううるか
前大納言為
みうしはのまるかと
後深草院
みうしもかうきうをて
法守四度
みうはいまうはうさ年
夢窓疎石
みうらうかうるはは
忌院前摂政
みかうてうるはは
太大臣
赤染衛門
みうはううはは
源宗于朝臣
みうはうはの神のうは
大納言為
みうはうはうはうはは
六条内大臣
みかうはうはうはうはは
権大納言実俊
みうはうの物はうはは
中務宮
常親王

彩拾 哀
同 恋四
同 秋上
彩後拾 雜六
彩後拾 冬
彩後拾 雜上
同 雜下
彩女 雜中
同 秋下
同 雜上
同 哀
同 雜中
いははうらうはをはうはは
いるははうはうはうはは
なはうはうはうはうはは
はうはうはうはうはは
ふうはうはうはうはは
まはうはうはうはうはは
さはうはうはうはうはは
はうはうはうはうはは
はうはうはうはうはは
はうはうはうはうはは
はうはうはうはうはは
はうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
みうはうはうはうはは
前大納言為定
三条入道前太政大臣
前大納言為定
前大納言為
前大納言為
前大納言為

風 雅上
新古 春
同 賀
新拾 恋二
新拾 秋下
新千 恋一
風 雅上
新拾 春
新続古 雅上
新千 雅上
新続古 秋下
新千 秋下

四方屋敷君のめぐみの時よりあひく
さわもとはらのまくもあれしも
君をしめやまさんの花
春のれの野(ふ)あさふく風はなの
そこの海やわたつみこそ海よりの風の
いろあわしの風のたちわたりきく物く
しめふまいりくれてをなぜを
ひとりはなれてこのあのそてうちの
わたりはなれしやはこの浦くこの
をあはたちのみしの野(ふ)たちの人の
深のこそをこのあのわたりてをの
そこの四山おのれわたのみなわ

みよあまりのの花乃をを
みよあまりの神はなを
みよりはなの妹はのすをも
みよりもりの物ををて
みよりもけをををなの
みよりむをはつををを
みよりををもるはなの
みよりはをはををあけの
みよりふをはををけの
みよりをををををを
みよりをををををを

後出家九十九
英信宗良親
四花院今出川白河院
赤染衛
塔基法師
皇太后宮大夫後拾遺
皇太后宮大夫後拾遺
藤原清輔有名
法下法眼
寂蓮法師
後光厳院御製
前大納言公氏

新続古 雅中
新拾 秋上
風 秋中
新拾 春下
同 春上
新拾遺 秋下
新拾 冬
風 秋下
同 春中
風 雅上
同 雅下
新続古 冬

年をへてこそ花をみれ
をかのおの(ふ)れわをもをめて
月乃のなれしよをををれく
いくをのをの別をれをこをぬ
をの野や柳乃をみをををの
あをの川をれをををれて
いるさの乃池乃にをみを柳をを
乃ををををの野を春の花
ををて世ををををを数をを
ゆををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを

堀宗門院御製
前大宰大弐後鳥羽
堀宗院御製
皇太后宮大夫後成
飛鳥井雅経御製
御製
前大納言為氏
前大納言為氏
真後法師
祝子成實
源頼朝卿
宵祝好忠

彩今 離
風 天
彩拾 親中
彩後吾 親中
彩今 衰
風 神
彩拾 神
彩後拾 親下
彩後吾 賀
風 親下
彩後吾 賀
風 恨

ゆきかへりとまりしみつ少(屋)の
みちのくにいよいよ山のまゆはてて
そこなのまつのかのにはしつ
初めはしいかるとてそこなの
たちふきこうこそ秋ごろもぬ
ちぬ白山おれ袖ぬとれいし
和の浦ひとり白ふ(ゆ)ふ
教ものかをふすゆ世へ(ゆ)
ひとの君のみをもちいわとて
いたちとふるこをみてわれの
上蔵ふ(ゆ)く秋てあをこの
わすれ京やそ海けて四月れ

風 冬
同 冬
同 親上
彩後吾 賀
同 親上
同 賀
彩今 神
彩拾 賀
風 寒中
同 寒中

夜草はとこけくしもおこ
ゆめとくおとりまを海の
ちるかたり奥れいてのさよみる
冬柏のこふ秋の一ふ(ゆ)
ちりかるあとちに寒れ
ふ(ゆ)(心もみけをかこ
そ海山の芦埋木こふれと
和のうにあはめてみくをこ
ちる(ゆ)もふふこてこ白雪や
天地と文ふくふ三郎れ
ふ(ゆ)ふれ打ふ浜こ(ゆ)の
ふ(ゆ)ふ(ゆ)ふ(ゆ)ふ(ゆ)ふ(ゆ)

みちそこら浜少(ゆ)もおこ
みちれてまくふ(ゆ)
みちふる塩ふあそちり
みちふふふふ(ゆ)
みちそそ女ふ関白
みちあふ河ふふ
みちわふふ(ゆ)
みちあふ四代ふ
みちあふふふ
みちあふ四代ふ
みちふ(ゆ)ふ(ゆ)ふ(ゆ)
みちふ(ゆ)ふ(ゆ)ふ(ゆ)

九条兼実
紀家基
平宣時
桓武天皇
桜町天皇
関白
近衛
九条
お大御所
民部卿
等持院殿
九条
八条宮
桂宮
桂宮
桂宮
桂宮
九条尚忠
忠義

新拾遺　賀
風　冬
新続古　雜中
同　恋二
同　恋三
新千　雜
新拾　雜中
新続古　雜下
同　恋三
風　夏
新続古　雜上

君の代はそれ百万秋津そに
さそれの上こそりうふりそけと
ゆるうらふるる春はまさしうか
そのめこしさの白うしこいかく
うりはれおさはたちかあいはるの
水の芦につまる月はえこそ
在中ふいかしてて秋田こは
そこうさにたてとそれやとうて
さめるとなとは浪のたりかう
うやそのさしるかはくくし
なりのうらいきとは夏を
けや浪をのろくはたりをとと

みちいる塩乃はこしとそ　源有長朝臣
みちとそれの野乃の雪　藤原朝定
みねのとをとしのるん　九条水堂基氏
うめのうそにうる波の　前中納言定家
みるうそわてあふうる　雅成親王
みるあはてこれかそし　後鳥羽院御製
みるは波て雨とりうる　西園寺実氏
みるにも波をまれの月　権中納言雅
みるとなとうはなん　源頼朝朝臣
みるうそにも夏とたは　中院右大臣
みるともうるある成　小野小町
みるともうくうはなる　権中納言信実
つま

新千　恋上
新拾　恋二
風　雜
新拾　恋四
新続古　羇旅
新拾　雜下
新続古　恋二
同　恋二
風　雜
新の　恋上
新続古　雜上
新拾　秋上

うるそ以はるるこやま梅
はうる恋はうる称は夏なれや
ものえるこそ波ひはうはうて
なるなや波うまはうはうて
まうるまあれ称は波乃桜て
ものさうはくあるうあはうし
みてうさ伊勢の海乃海姫
うわにうるうれ梅のはは
補陸奥乃しみをうれ梅
うるあうるれうあれさ
みるはうはあるの夜はう波
の草なる花弥を秋花

白川院御製
式子内親王
後京極摂政
中大夫
信實朝臣
清寂法師
儀同三司
粉川親王
円光院入道
関白太政大臣
権中納言雅世
中務卿具平親王

みるうるるはあるか
みるとはれしあふるの
うるもはうはうはは
うるるるあは夏はは
うるはうはうはは
うるうはうはうはは
みるうるはうはは
みるはうはうはは
みるはうはうはは
みるはう

彩ヶ 乗中
月乗てはるの物というたれて
みなしてくもりなれぬ世の月をめ
彩絵長 秋上
まふてたちを定るわけ
同 乗上
彩ヶ 恋三
うちとふてふしるかあかとふ
同 神
我そのもし神ちれむといけるわ
彩松 釋教
さしあつさ三井の流れはの乱
彩絵古 乗上
七夕のちさうとこ天の川
彩ヶ 恋四
たなばたかつかるる浪川
彩松 乗中
後の世れ風ふるきよあ
同 釋教
きしめさはの来ふなわめし
彩ヶ 乗上
いうしてし秋はけ毎ふりせの
彩絵古 乗中
ひしてなれもとみし祝山里よ

みなしてもりおいとうたん　清寺棟四
みなしてしもしもしるる　大納言成通
みなしてしてようさわのい　法下憲實
みとしてはこしられも　中文寺文会示 四
みとうるるさ月のけふ　葉四恵
みとうやふいて後は　静仁法親王
みとうやふわはらん　清寺四量
みとうやふうる後を　有長朝臣
みとしてさの雲ふりし　法下綱深
みとうしてそ危弱　赤深内
みをうふ祝してるる　松ヶ信朝 内頭
みとうさとるに男ん　入道贈一品 親王寄四

彩絵長 乗中
さいうるるにうたんて
同 雑中
もるよるるれわるる月
彩ヶ 乗中
いりるくやるれるのるる
同 神
いはれ秋をれそるしる我
同 雑中
いにたんとのうしの方とはく
風 雑下
るれとせいかうしあはよ
彩絵長 恋四
はるふれるて恋れるのかと
彩ヶ 恋六
るるははきしゆるん
同 恋二
うしいやるにあふ恋
彩絵長 夏
池水れいそうれせいわ
彩松松 恋一
人しもあせいるのるるそ
彩松 乗中
くるりうれいうるしるふ

みをるてしてし源氏乃さと　入道三宮親王 内頭 宣光門院 彩右近 彩右近
みをくるしんるのるて　
みをるてわ世ふ秋はは　禅林寺僧正
みをるてそう宝義　川殿 第大納言
みをるてるわ紅を　法下浄弁
みをうるさめく年を宮　公中内雅春
みをるるかに神のん　清寺四助
みをるるてもわれ神　菊蓮法師
みをるるを世ふ然　法下綱信
みをるいてるるん　菊系雅親
みをるるしるりあれ　頭人不知
みをるそて世を限　三善直信

新後拾雜上
新勅雜上
新千雜中
風五
新勅雜下
新後拾雜上
同五
風五
新後拾五
風雜下
新千四
新拾一

世界うちなれば月はいとうく
思ふこころなれば月はてるれども
いまさらあつめしものとなくよ
うむもこふるもうらやましく
いとしのうきふしてしるよ
なほ月やはるけかるべきみて
いふちんもしらるるものの
恨をいへしるけやおもこと
こころにはてしらぬ立ちう
けくとはつ人をうかぬ数をめ
こしのもとをのもとをうらう
をはしとうしたのぬ人数をめ

みとてをきけしるあり 後小松院御製
みとてをとへこいわあり 清原隆國
みとてをとへこいりあり 西園寺前内大臣女
みとあるあとへきこし 前大僧正慈快
みとあるとをの 儀同三司
みとあるとをの山のて 大炊御門博
みとをとりかわとうあれ 善撰王
みとをとりいまるこころ 法中慶運
みとをとりあるよとやこに 後頼朝卿
みとをとりて 平常頭
みとをとりてこそ 松殿師則
みとをとりて 贈後三位
みとをとりて 道性
みとのいりいれるあり
みとのいりの月のあけの 後鳥羽院御製
みのとをとれもとれ 太政大臣
みとをとへとりとをとり 実衡
みとのいりの 蓮生法師
みとりかへりてをとん 不知
みとをのとりぬとり 前大納言資季
みとをとりとりとをとり 源有長卿
みとけるとをとりぬとり 三条院女蔵人左近
みとをとりのとりとりあり 藤原

新千五二
新拾五二
新後拾雜下
新拾冬
新千冬
同神
新千羇旅
同雜下
新拾冬
新後拾離
風神
新勅雜下

あとをとりとりあるとこ
枝をとりとをとりとをとれ
とれのとりとをとりとれ
なとりとりとりとりとれ
とりとれとりとれとれ
とりとりとりとりとり
とりとりとりとりとり
とりとりとりとりとり

新拾 文

同 秋上

新古 雜中

新續古 雜下

同 雜下

同 補

新拾 賀

同 賀

同 雜下 新古

新續古 雜下 風 賀

同 恋五

みとゐさして見てあれる　前京兆尹
みさておつる袖の玉　藤原
わすれぬかたみのあとに　後伏見院
みつさしの玉のあるのみ　小野
みふさしの小萩　後福光園院
みふあいわるあふぬ　権中納言雅俊
みりあいわる信濃の松　前大納言通
みそうけき元くれな　三位信乃
みそいやさはるつめかなる　菅侍従
みるの併れやとのわそて　前大僧正慈信
みるの併れ師とかりる　十禅寺
みるの見てあるとて　二条院讃岐
みるる付し恋さるわも　後鳥羽

新拾 雜上

新後拾 恋上

新千 恋四

風 雜中

新拾 恋上

新続古 雜下

新千 秋上

新拾 雜上

新続古 雜下

新拾 恋四

新続古 雜中

新後拾 秋下

わきとあて寄てれの苔乃上よ　京極太政大臣教有
宮こそれ柳乃もれあさみわ　宮内卿
ひこ分ぬさしの五の庄月恋よ　九条内大臣
ふの分柳系のあさみわ　後人
ま乃乃ま乃れ霧の芝ふうて　権大納言公宗母
日よみこ月そ寄白玉乃　お大納言後光
霧すち芝ぬく袖こ分よ　後八条入道内大臣
久れ尾死こ乃袖ふ　九条大臣忠教
おしこふとき庄ろいく橋ふ　前中納言長方
あふのすきはよろ石ふ　紀貫之
わのこや風とたわれ乃人　藤原俊成
みそいてそのあ乃庄り永　前京兆尹
みそふわまれ袖て寄　後京極摂政太政大臣

風 新上
新拾 夏
新続古 恋二
新千 夏
新拾 夏
新千 神
風 冬
新千 新上
新続古 訓
風 恋五
新続古 秋上
同 冬

みそぎしなたうわの瀧の
みそぎ川やそぎやそぎん
みそぎとしるしるしるし
みそぎ川かけかけ川
みそぎ川かけかけ川
みそぎ川かけかけ川

風友
同 新上
新子 友
新続古 三上
新続古 秋歌
風 三下
新後拾 旅
風 恋一
新後拾 友
風 友
新後拾 新秋
同 雜

新続古 友
新続拾 新秋
同 三下
風 雜中
新続古 新下
風 恋
新続古 賀
新の 新上
新続古 夏
新の 冬
新続古 恋一
新拾 秋下

新拾 雜上
同 雜上
新後撰 雜上
新拾遺 冬
風 雜中
新古今 冬
新千 冬
新後拾遺 雜上
新千 雜中
新拾遺 春上
風 雜上
新拾遺 雜下

まいてをぬかの金より出てい
今はなほ山のみつる小倉やま
うゑしをりをたれたれ心
あるじとなほ山ふかきこの
はつる谷よりこの日新たて
たれ風なほ山ふかきこの
なほ山ふかきこの
しさし聖のいとり抜きしと
うれしとなほ山ふかきこの
はつるこのをりをなほ梅の
新しき根本のこの池
池の面のみなそこうれしなほ

みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ
みなそこにうつるまれ

吉門院 小宰相
第泰本 實定
法守四位
第大納言 為氏
第大納言 為兼
三條院 教
第中納言 雅孝
第中納言 定家
第右大臣
第大納言 為氏
出羽入道 第
千載入道 第
左近大夫

新千 秋下
風 恋三
新拾 雜下
新千 恋四
風 恋三
風 雜中
新拾 秋下
新千 秋下
新後拾遺 秋下
同 釋教
風 雜中

みなそこにもやどるらん
みかのはらわけしいにしへ
みかのはらそこ月の金
みかのはらそこ月の金
みかのはらそこ月の金
みかのはらそこ月の金
みかのはらそこ月の金
みしろのこの山ふかき
みしろのこの山ふかき
みしろのこの山ふかき
みしろのこの山ふかき
みのりの月の新しき
みのりの月の新しき

藤原為忠
永福門院
重忠
第大納言 為氏
松大納言 公蔭
山院入道 第
人丸
後嵯峨院 為家
第大僧正 道玄
第大僧正 慈鎮
法下女 遊
四條寺 四女

彰考館 新三
彰千 夏
彰考館 親下
同 五三
彰考館 親下
同 補
風 親下
彰考館 親下
新千 親中
彰考館 親上
彰考 親中
彰考館 袁

されはてぬ人はよしとは心さしを
なくもあれはてのみすまはしたる
としくもまもるけんなれはてし
人のなかのそらにみとなわすれ
書ふるさはしうれはまきをて
神やたれ世のこりてをかをそ京
おさまる世のくもはかをてうれ
をのはてうれをとりあはの
をのなうをの中はあまをを
はの世なりけるをてをを連
なれはをを今をうるをを
君をもありてををはを

みのをはしかやを庭 源宗全
みのををるを称をを 平泰時 約花
みのををるをれ世をを 頼人宗
みのををいをいをを 曉勝法師
みのをををををを 小野小町
みのをををををを 俊覚院 四郎
みのををの世ををを 太上天皇
みのをををををを 京大納言 為世
みのををををを 推家志家
みのををの中を連 慈好法師
みのをををを神を連 入道二条親 法寺
みのををの歌を海 澄信朝臣

まをいはとをのの月ををの
をのをやををの海をを
おをの家の海ををを
ををを行のををの月をの
異ををををを志のをを
をををを我ををを
ををををををを
ををををををを
をををををを
をををををを
をををををを
をををををを
をををををを
をををををを
をををををを
をををををを
をををををを

彰千 五三
同 親中
彰考館 五二
彰考館 親下
彰考館 五四
新考館 親中
彰考館 補
同 親上
彰考館 五四
新考館 親下
彰考館 親中

後鳥羽院 四郎
源実朝 清
頼人宗
柿本人麻呂
在原業平 約花
西行法師 九十九
源義氏 約花
常中納言 定家
源義朝 約花
源頼政 約花
源実朝 清跡

新後拾 雜下
風 雜下
新後拾 雜中
新後拾 冬
同 立后
同 秋上
風 釋
同 哀
新拾 雜中
新後拾 雜下
新千 雜上
新後拾 雜中

あきはてぬ世なりとてうかれ
しかれかしらくもうかれ
ちりぬるあきもいくしほの
ゆふなぎにうらこぎ
みちのくにうかれ
あきの月のこしてくもりしも
うかれまふあきもいくしほ
つきのこしてうかれ
うのなりあきこゆるなれ
いくしほあきのうらこぎ
みやのうらこぎ
みやのうらこぎ
みをのうらこぎ
みをのうらこぎ
みを

新後拾遺 旅

おもしろい初しぐれてもせめてすさぶ
みやこにからぶ義ちゆ橘の
みやこにからぶ義ちゆ橘の
みやこにからぶ義ちゆ橘の
橘実俊公妻 陸奥内親王 永仁元年

新千載 霜枝

あるかとのうとさしさう
心里ぬしそもそきてしなくさた
みやこよりといそたちて
源義将 貞和元年

新後拾遺 文

心里ぬしそもそきてしなくさた
みやこよりといそたちて
源義将 貞和元年

風 秋中

やり里月しやごはかり乗
みやこよりといそたちて
紫式部 寛弘

風 枝

うやり山月ちるたもあるや
みやこにからぶ義ちゆ橘の
永徳門院内侍

新後拾遺 雜上

もちろいいるみあしかるして
みやこにからぶ義ちゆ橘の
前参議 雅賢

新後拾遺 秋上

いくちとなとふ井れ梅とに
みやこにからぶ義ちゆ橘の
坂上是則

新千載 離

ゆうさ雨ふあつまのこはさし
みやこにからぶ義ちゆ橘の
読人しらず

風 雜中

花さくやの梅もたりなり
みやこにからぶ義ちゆ橘の
前右大臣 雅有

新後拾遺 雜上

うしかよわるもしの梅ふれ
みやこにからぶ義ちゆ橘の
信濃法師

風 雜中

されの井る池のうたふ松方で
みやこにからぶ義ちゆ橘の
前中納言 定家

新後拾遺 文

さてふいそ心ちれかたた
みやこにからぶ義ちゆ橘の
後鳥羽院 下野

新後拾遺 霜枝

みやこにからぶ義ちゆ橘の
読人しらず

風 枝

うやり山月ちるたもあるや
みやこにからぶ義ちゆ橘の
後伏見院 光明

新後拾遺 雜上

もちろいいるみあしかるして
みやこにからぶ義ちゆ橘の
源教忠

新千載 雜中

花さくやの梅もたりなり
みやこにからぶ義ちゆ橘の
藤原宗秀

新後拾遺 雜秋

心里ぬしそもそきてしなくさた
みやこにからぶ義ちゆ橘の
邦世親王

新後拾遺 雜上

ゆうさ雨ふあつまのこはさし
みやこにからぶ義ちゆ橘の
周防内侍

風 秋下

秋されいそ庭ぬまあるして
みやこにからぶ義ちゆ橘の
前内大臣 九条兼実

新後拾遺 霜枝

ちるもあるしてこれ梅ふれ
みやこにからぶ義ちゆ橘の
読人しらず

風 雜下

ちるもあるしてこれ梅ふれ
みやこにからぶ義ちゆ橘の
頓阿法師

同 雜中

秋風ふけいの雨よさしうへく
みやこにからぶ義ちゆ橘の
前中納言 定家

新後拾遺 霜枝

みやこ遠しこ様の初しぐれ
みやこにからぶ義ちゆ橘の
隆信朝臣

風 新下
同 冬
同 三中
新續 新上
新千 夏
同 恵四
新拾 春
新續 恵一
風 恵四
新後拾 恵四
新後古 三上
風 冬

さもこそ人のうらめしけれ
かうし（こそ）なくなくうらもうさるれば
あさぢはらのこのしたもとのつゆ
みやこもうらのいりぢの月　金性法師
みやこまで君をうらもうさるれば　藤原為家
みふの浦をうさわるうら　人丸
みふの浦のはちすの月　梵燈法師
みふのうらのさみしかりけり　藤原雅経
みしぬ草葉の露とうつる　後徳大寺左大臣
みるのこころのあれはてぬ　人丸
みるめもなしなぶ人の　信實朝臣
みるめもなしなぶ人の　後鳥羽院
みるめ刈ふ浦の秋の夕　前大納言家明
みるめ刈ふ浦の秋の夕　後二条院御歌

同 恵四
新續 新中
新拾 恵二
新後拾 冬
風 恵五
新後拾 新下
新後拾 新下
風 三下
新拾 三下
新續 三下
同 新中
風 三中

ひかりやさしかなしかりけるこのあさ
なりれ世のなかふまなかいりのの
ちいのまてとなりしかりあるうよ
おさまりし代のたちとなよと
美濃のあしたはくてあるかりの
うきをもあるとてかなるを
うらはけてもてれ月をふ
ゆてふり（こさめ）はのを
さけてうのふるとをてみ
うの心ふかいとうしう
いかりをしうはーをメうに
極れあつめのあやまくよ

みふのうらのとしてもしまは　後鳥羽院
みしつる後とをねるうん　源頼朝
みしぬる後とをねるうん　源実朝
みくさうふうをさ　大大
みしてあるかをうを　中納言家持
みくいかりはおけん　藤原光俊朝臣
みくむらのこのすをん　陽明門院
みくやうん升てのを　正徹
みくしてなしの風ふるめ　土御門院小宰相
みてもあるあむれをか　後同三条頼
みてもうるあ前なりせ　源頼豊
みても秋しをみるの　後二条院家

風 林
新千 続上
同 続上
新拾 亜一
同 続下
新続古 続上
新千 長
風 玉下
新続古 夏
風 夏
新千 冬
新拾 冬

[illegible]

みあへふしろる玉ハ穴なり　慶命寺別当

みうへ〻き世よ〻ゆもそ　前大僧正道昭

みさへふりわろ雲の玉て　二京は都を平定

みはとこゆ亜のみちふ　太上天皇

みさへあてこ世の　一郷音上人

みさんるれふ月り忘　後三條院

みきつまふ月ゆん　頼人公

みきつ月あもれ玉波　菊原の氏

みさわとしてあろ月の月　後光厳院御製

みさハ月雪もこ〻ふり　[illegible]

みさハれのり歌ものこ　三条公忠

みさハれろし玉とる浦ゆ　皇太后宮大夫俊成

[illegible]

[illegible]

新続古 冬
新拾 霧
新千 亜二
新続古 続下
風 玉上
新千 林
新拾 続上
新拾 林
新続拾 亜一
新拾 亜四
新拾 続下
新千 林

[illegible]

ひるまやの風さゆ月日と

ひく船のゆく色も玉ハ波かな

思ふ人ハ玉ハ林や夏ハ

ものもれ[illegible]の風ふく

ふ人ハ[illegible]物ふ風ゆ

[illegible]

みきハ[illegible]てふ[illegible]

みゆふ小海や泊ふ[illegible]

みれ[illegible]

み[illegible]れ竹ふ玉

みるこちふ月ハ[illegible]

みるこふ[illegible]

みゆこれ[illegible]

みせこ[illegible]

みゆ[illegible]

みゆ[illegible]

みゆ[illegible]

みゆ[illegible]

後二條院御製

後墨屋前関白太政大臣

小町

入道入道前関白太政大臣

貞慶法師

前大納言為忠

前参議忠定

法下延命

後人公

橘業俊 実継

源高秀

[illegible]

新後拾冬
あさぢふの露の玉葉に結ばれて
海士の袖にぞ宿りつるかな
新拾新中
文治の井水のこゝろ
新後拾文
月をうつしてもたるこゝろ
同新上
新千新中
けうくんのうめの梅
風文
きよらかの月をもてあそぶ
同尺
もゝこしの松のまれゆえ
新千恋四
うつしてうゑおきけれ
風恋五
ゆくすゑ神にぞ
新千餞
恋のうへにうゑおきけれ
新後拾恋四
あさのうへのこゝろ
新後拾恋四
風そよぐ夜の
みしもあるかの
みしよ
みきこゝろの
みきまもなくもてあそぶ
みしやてうつしをく
みしふ
みしかの
みしかの
みしかの

新後拾
恋二

いふをむ神のうけるみそぎして
みそぎとけもまもるやしろの人

新後拾
恋二

なにさうの人のつまもせかしし
みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

新後拾
冬

なにさうの浦よりのぞむ
みしまがふなみをこそ

同
恋一

さてもまつ人にあはぬのきてるかな
みしまがふなみをこそ

新千
春

なにさうの浦のいりの
みしまがふなみをこそ

風
雅上

思ひやるれをはさうの花
みしまがふなみをこそ

新拾
雅秋

はつこゑはたこるみる恋
みしまがふなみをこそ

風
恋二

むらいろつの夏よあくられて
みしまがふなみをこそ

新拾
雅中

山ほとゝぎすのあるよして
みしまがふなみをこそ

新千
恋五

ちるさくらとゝめはうまてをそりて
みしまがふなみをこそ

同
雅上

いつてあやるく神のちかるを
みしまがふなみをこそ

新後拾
雅上

あやるくやをこ海人とすれあを
みしまがふなみをこそ

新今
恋二

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

風
恋一

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

新今
氷

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

新拾
氷

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

風
哭

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

新拾
恋一

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

新今
恋一

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

新後拾
恋二

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

新拾
恋二

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

新拾
恋二

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

新後拾
雜上

みしまがふなみをこそ
みしまがふなみをこそ

四百十七首

新古雜上　風雜中　風雜下　風雜　新古雜　新古雜　新古雜　風雜中　新古雜

ゑ

朝ぼらけ　ゆきてとぐるの
ゑわたせば　高木の梢の　松ふかみ
行くかたもなし　雪つもりけり
えいこうもみぢ　月に氣さして
ゆきてとぐるの　山方
ゆきてとぐるの　人の跡
いまはゆきの　ふかさにぬれて
もみぢ　ゆきとこそ　いはれぬる
しみぢ　人にとらるる　なりけり
いとしくなのる　しるしの
わやとは　まことにかりの　名
ゆきはわ　ゆやゆーあるれん

ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ
ちりぬ　ちりぬ　ちれ　ぬれ　ぬれ

前人物　経徳
前人物　安倍
前人物　経徳
前人物　安倍
前人物　経徳
前人物　安倍
前人物　経徳
前人物　安倍
前人物　経徳
前人物　安倍
前人物　経徳
前人物　安倍

風仲　新後拾　新別　新後拾　人教　風雜下　新古　風　新後拾　物名　新後拾　仮上　新拾　雜上　新古

秋の田の　かりほの庵の　苫をあらみ
わが衣手は　露にぬれつつ
あしびきの　山鳥の尾の　しだり尾の
ながながし夜を　ひとりかもねん
田子の浦に　うちいでて見れば
白妙の　富士の高嶺に　雪は降りつつ
奥山に　紅葉踏みわけ　鳴く鹿の
こえきくときぞ　秋は悲しき
かささぎの　渡せる橋に　おく霜の
白きを見れば　夜ぞふけにける
天の原　ふりさけみれば　春日なる
三笠の山に　いでし月かも
わが庵は　都のたつみ　しかぞすむ
世をうぢ山と　人はいふなり
花の色は　うつりにけりな　いたづらに
わが身よにふる　ながめせしまに
これやこの　行くも帰るも　別れては
しらぬ人も　あふさかの関
世の中は　つねにもがな　なぎさこぎ
あまの小舟の　綱手かなしも
人もをし　人もうらめし　あぢきなく
世を思ふゆゑに　もの思ふ身は
夜をこめて　とりのそらねは　はかるとも
よに逢坂の　関は許さじ
みちのくの　しのぶもぢずり　たれゆえに
みだれそめにし　われならなくに
君があた　ひとめ見しより　あまたの
恋すてふ　我が名はまだき　立ちぬべし
しるべなき　恋の道に　まどひぬる
我が心　なぐさめかねて　ながめつる
今日の空　ものおもふ　ものとは
人の問ふ　月やあらぬ　春やむかしの
春ならぬ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ
ながめ　ながめ　ながめ　ながめ

新拾遺
文
風
雜下
新後撰
五下
新千
立文
新拾遺
天
新拾遺
立三
風
雜下
新千
羇旅
新拾遺
旅
新千
立一
新拾遺
羇
風
拾下

あまてらすかみとくにさかりしのちはこのくにのうちにこの者ともの多数をはしめてこれをもてあいのこしたる宝の産をもてなりわいとなるわりをうけおきしかのみてしらしめうこの所をいてみよとのたまはせをはりぬるやうにこの所をいてみるに所のうちにかの人のいはくこれはこの国の人のいとしき所なりとて

新千
立三
風
立三
新後撰
雜中
新拾遺
拾下
新拾遺
文
風
雜中
新拾遺
雜上
風
雜中
新千
雜下
新千
拾上
新千
拾上
新千
雜下

人こそあのかたしけなくしらしめしたまへるこの所をいてみるに所のうちにかの人のいはくこれはこの国の人のいとしき所なりとて神をまつりたてまつりてこれをもてあいのこしたる所のあるかのあるこの所をいてみるに所のうちにかの人のいはくこれはこの国の人のいとしき所なりとて神のわれらをまもりたまへ

新々撰流　新後拾遺　新後拾遺　新拾遺　新後拾遺　新拾遺　新後拾遺　新拾遺　新後拾遺　新拾遺　新後拾遺

旅人いまうしくらんうみのうた
百ふれいわのうらうちわて
おもふてはたやまなくなるみちを
ねしよりほのぼのとあけゆくを
あまのうらうらふのちもわすれ
立てれいそしうしさはの世を
いくしわまうしものとかくさは
ろちを山はしあくあとを宮ふ
そこいはあまのををてをとの
りへをふるをうをあやをして
旅ふるをうをいをのをれを
をるをみをうへをりをなを

新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺

をををををの道をををを
ををををの月のををを寒をを
をををの月ををを島ををを
をををを庵をををををん
ををををををを神のををを
ををれををを神をををれ
ををてををををををん
をををををををををを
をををををををををを
をををををををををを
をををををををををを

新後拾遺　新拾遺　新千載　風雅　新拾遺　新後拾遺　新拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　同　新後拾遺

君はををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを

新後拾遺　新拾遺　新後拾遺　新拾遺　新後拾遺　新後拾遺　同　新後拾遺

ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを
ををををををををを

新拾 雅下
同 雅三
新後拾 物名
同 秋下
風 秋下
同 秋下
新後拾 秋上
新拾 夏
風 秋上
新拾 秋上
風 秋上
同 秋上

みちのくにまかりくだりけるに
ちかの君とけふは見こし
こゆるとといふこゆるきこゆる物の
次をとこ酒のりとりたりける風よ
きのの月ふるやかたをうち
新後撰 きのの月をうち
夏ごもりしらの行ひのこよ
さ月山ゆとへりてもとをな
様ひとかやはなかよかりよ
梅ふく風ら秋のみてやか
我ぬまてしらてよしの萩の
人ぬしすやあらるあ風の柳

たりとたりわしらふりぬるわ　貫之
たきりときへや又ゆ物　源頼隆
たうはもとふきわはらし　梅宗使 資平
たのあちらきはなたちよ　前大納言 為氏
たのあちかれ秋まれ秋風　万秋門院
たのあちかあこあこ秋　宣光門院 東門院
たのあちかあこあこ　前大納言 後光
たやかうるくあふあるん　宗世 集製
たりもたくさり春やあ　梅の仲納言
たてふ霧やしし　後京極摂政 前太政大臣
たて紫よとうか霧り　隔 弘昭
たて紫らちり袖風て　後二位 乾隆

風 恋五
新千 恋四
新後拾 恋又
風 恋一
新千 秋下
風 雅上
新後拾 恋一
新拾 哀
同 恋一
同 恋二
風 雅上
雅後 秋下

霧毋ふくとるか夜こ
いかもちん恋へめとしか
はれ物こうこてやられ
たりまし風ふる神のるこ川
霧たりれ恋ふれ人たりて
山川の恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ
たりの恋ふれたるあ

恋ふるとよりたりて
恋ふるかたりて寸
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて
恋ふるとよりたりて

後京極摂政 恋三
皇太后宗 安嘉門院 恋
素覚法師
関白太政大臣
永福門院
後京極摂政
前大納言 為氏
前大納言 為家
後二位 乾隆
中納言 為教
前大納言 為定
後京極摂政
前大納言 為家
中納言 雅俊

新拾 恵二
そこなひさ国と云てもなくて川
新後拾 恵一
あ孫ふりえの梅乃ゆきをな
同 雅仮
あさら原に雪葉ふれしくるの君の
風 雅中
もこれ乃ちえ人のさしらゆ
同 神
あきてなれて代の白ゆてり
新拾 雅下
月と新原よりの机まくら
新後拾 恵二
なのしてよゆのうれのきふ
新後拾 恵一
きあてゆ清めとたもてをゆ
新後拾 恵二
さあこみうみたもてて級乃
新後拾 恵二
恨てよ及れよたまるくまうつる
風 雅中
星乃やるしの松いしるふて
新後拾 雅上
きめるれ世をうれ名れて

てこよ八乃ゆこうれやをの　常泰朱 乃秀
てこまこ連く恋てこ　梅政大政大
てこもれこるもしゆ恋　源求 羽大
てり柳ふれとあるし　人凡
たこた枝まてゆこうけて　常大儒二 兼勝
てこう川ゆるふれ清母　頼人 元元
てこのこ川乃ゆくれ斗を　右京亮 乃遠
てこの清ゆこゆるれふを　伏見院 川梨
てこれ川ちけゆこりこ　三条頼秀
てこれこれこれこれ　祝乃成良
てこ第たまる山ゆしれ風　常大納言 乃恵
てこゆこれ世ゆれ　道誉法師

風 恵文
人もこそ行こそ清ふらん
新拾 友
ふけまて我こ恋のうんたちこの
新千 恵一
四ふこ恋乃ゆ清やこ乃
新千 恵五
この世こ恋ゆこ清ゆ
新拾 離別
なゆこれたこのこ恋れ
新拾 離別
ごまこ人こ乃ゆこあれ別ゆこ
新後拾 別
ごまこ人こ道ゆあれたこ
新拾 雜上
こ人ゆこの道ゆこ清ゆ
新後拾 恋下
清ゆこ月ゆ来れこ乃
新千 秋下
枝こ清ゆ恋ゆ深川ゆ
新拾 雜秋
こゆこ思ふ行こ清ふ山川の
新後拾 雜上
こゆこ清ゆこ恋こ

たてふあこ令ゆこ　枝大納言 玄宗母
たてゆ清風ゆこ恋ゆこ　武蔵門院 御歌
たてふく風乃こ清ゆ　知顕法師
たてふこゆこ清ゆ　常大納言 乃世
たてふこ乃ゆ清乃ゆ　押小路前 四大
たてふこゆ実とゆ清ん　藤原仲実 羽大
たてふこゆ実とゆ清ん　藤原仲実 羽大
たてふこゆこ清ゆ　一条内大
たてこ清ゆこ恋ゆ　伊尹卿
たてこ清ゆこ恋ゆ　常盤井大 常大政大
たてこ清ゆこ恋ゆ　権僧正 四寺
たてこ清ゆこ恋ゆ　藤原宗通

新拾遺三　新後拾遺上　彩千　新中　風　拾中　風　拾下　新続古賀　新後撰上　新拾　新中　彩千　新続古上　新後撰下

あふよとて三ゐ立ちわかれ侍りし　内大臣

たちてもとまらぬ人の袖やぬれ　中務卿宮

たちぬる月はいとゞ山のは　平雲師

たちぬるものは秋の月　前参議宗房

たちぬるみなつるゆふ音の夜　昭訓門院

たちぬるみなつるゆふ音の夜　前内大臣

たちぬるみなつるゆふ音の夜　前内大臣

たちぬるしこゝろとなるやうに　祐盛法師　資茂

たちぬるのこゝろ秋もなるゆふ　後中務卿親王

たちてゆくこゝろとそ思ふ　参議成仲

たちてゆくこゝろとそ思ふ　参議成仲

たちてゆくこゝろ秋のとまり　前内大臣

風　新拾　新後撰上　彩千　新中　風　新拾　新後撰下　彩千　新中　風　新拾　新後撰上　彩千　新中　風　新拾　新後撰下

たちてゆくこゝろ秋のとまり　前内大臣

たちてゆくこゝろ秋のとまり　前内大臣

たちてゆくこゝろ秋のとまり　前内大臣

あれはてゝ月ぞ宿りの秋の夜　前中納言定家

たちぬる方をなにとなく　権大納言

たちぬる方をなにとなく　権大納言

いまはてゝ月のみ秋の夜ふけ　後嵯峨院　前右近大将家教

たちぬる方をなにとなく　前大納言為定

たちぬる方をなにとなく　前大納言為定

とのゝうちもぬるゝ袖　前中納言定

いまはてゝ月のみ秋の夜ふけ　後嵯峨院　前右近大将家教

たちぬる方をなにとなく　前大納言為定

たちぬる方をなにとなく　前大納言為定

たちぬる方をなにとなく　前大納言為

彩抄 友
同 亞三
同 ちゝ上
同 亞二
彩千 亞三
彩抄 亞三
彩抄 別
新後拾 亞三
新千 亞三
同 雅下
新拾遺 旅
彩後拾 離別

たちかへりもとの水とかは　読人しらず
たちぬ今下のしらなみとよ　真昭法師
たちぬはぎ乃むつのやあだん　紀貫之
たちぬはきくく神の湊と　前大納言為定
たちぬはきわたるかりの○に　花園院御製
たちぬ袖のらるるかりの夜　後一條摂政
たちぬるれも神のわたりの　法印慶運
たちぬるみかきの内のはさ　前大納言為氏
たちぬるまてこゝに咲りの　前大納言俊光女
たちぬるけされむそかき　法印幸
たちぬはぎ春をあけぬ　信實朝臣
たちぬはぎと春のりのさ　前大納言実宣

新千 雅中
彩後拾 雅下
同 雅中
同 雅下
新拾 亞一
新拾遺 冬
同 物名
同 亞一
新後拾 ちゝ上
彩千 亞三
新後拾 亞一
彩抄 亞四

我ならしはのうれ行かりよりあ　静仁法親王
きてうぶのふるてしらぬ　前大納言為兼
おもい初ぶもしてあはいあて　前大納言為世
あさこゝふのうれはいとまを後　秀長
ぬしの初や絶ぬ結ひゆく　後京極摂政
ふるふてとこしもたのしの　入道二品親王 道助
ちるなれわをこれも猿人れ　後京極摂政
おもいのもとの池のみくれな　後鳥羽院
をとこ山のりわとをとさ　御製
あつなくのけさの若ぬ　御製
たちぬへまとまたのの　花園院御製
たちぬぶへ人なれたを　為好法師
たちぬはにさはやきてうは　貫之

新続古 立一
新千 立一
新続古 立一
風 ちち下
新続古 立一
同 ちち下
新拾 冬
新千 冬
新拾 雑夏
新拾 立二
同 雅上
風 雅上

さてしもこの殿はよろこびのかずれぬるそこれはなみうきてそこ雪のうやまうれば霧の拾と名づけしやこの梅は風をそなたなりやあと井のうの日のの人々とそとそんの風よりそさうこは秋の風の吉さこの夏をうとうとうそうもたりたのいかにもしたうれ玉とみてうあるもしやそ別のうこうもゆるも松にていくあうこを少人の歌この時よりそうもた

たてまつる綿の花をてこは
たてまつるしらいとをいとは
たてまつるしらおけるこしこは
たてまつる夏のくるこをも
たてまつる人々よりしきかを
たてまつるしとはよ屋の梅を
たてまつる結ぶ人の久しも
たてまつるふよ君の心わもう人
たてまつるいくよの迷さめてん
たてまつるそこうるさの月
たてまつるのおうの花
たてまつるのうのそれを色は

夜宗信寶 物花
枇杷左大臣
前中納言 寶治
式子内親王
拾宗後鳥羽 年
前中納言 為方
前中納言 雅経
拾宗後鳥羽 年
惟宗師 仁
源親長 朝臣
拾宗後鳥羽 時光
夜宗の墓 物花

新拾 衰
新千 雅
新続古 雅下
新千 文
新続古 文
新続古 雅江
新拾 ちち下
新続古 霧後
風 冬
新拾 霧
新続古 雅上
新千 ちち下

君しもまれとの花のうこそこは
たてまつるうるふまうらいさん
たてまつる春のうるうん
たてまつるこの夕苗うん
たてまつる月のうこうん
たてまつる月の月をわうん
たてまつる秋のうこうん
たてまつるこうの月よあうん
たてまつるわかれうけ連
たてまつる紅葉のうう
たてまつるふとうこうこそ
たてまつる秋はうこうこ
たてまつる陸はうこうこ

順徳院 御製衰
法皇 隆後
法眼源意
後龍胤院 御製
順徳院 御製
九条 月
前関白 九条
基家 後京極殿
九条
後北条 朝臣
頼人 正六
藤原定家 朝臣
拾中納言 雅

新続古 巻上
新拾 巻一
新拾 巻二
新続古 巻三
新拾 巻四
新千 巻三
新続古 巻
同 新下
新拾 巻上
新続古 霧橋
新拾 夏
同 秋中

神祇 新後拾 巻二
新千 新下
新続古 巻二
新拾 霧
新続古 巻四
新続古 新中
新拾 巻三
新千 秋上
同 巻四
新拾 夏
新続古 夏

たつたの月のなとゝ思ふ　松中納言 公雄
たつたのあらしはあらしたつたの　平兼時
たつたのもみ（紅葉）はなかるゝ　前大納言為氏
たつたのもみはなかるゝ　後二位殿政
たつたのもみ（紅葉）　大炊御門
たつたの月かなとゝ思ふ　宣政門院
たつたのもみ（紅葉）　乃令法師
たつたのもみ（紅葉）　後亀山院御製
たつたの月のけの　正二位家
たつたのもみ（紅葉）　平氏数
たつたの月日をあらそふ　同
たつたのもみ（紅葉）　松大納言 為通
たつたの夜の松のこの月　永福門院

神祇 三ゝ
三ゝ井の水のこゝろ
ちとせ人の心のうちにしも
ゝさとの新ちふらしゝ三井とゝの
ゝ神ゝやとゝ
やとゝ松ゝたもらん
ゝれ
ゝ
ゝ
ゝ

新錄 夜
新後拾 夜
同 五二
新後拾 五一
新千 秋上
新拾 哀
同 五二
同 五一
新千 五一五
風 方
新千 五一
風 夜

郭公はやゝ初音いとなるか
ゑ校みしてかてこゝすとも郭公
恨てし立てもあの月日うか
うゑ(き)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ

新拾 雅上
同 友
新千 離
風 友
新続古 雅上
新拾 恋一
新千 恋一
新拾 雅上
新続古 雅上
新拾 雅上
新拾 雅上
新拾 袋
同 恋一

こゝろしてそ春しきこゝろ
をそ春しそのそてに余波うふ
らつをあやしやいとと古里乃
たれ行かふらの里れかとまた
月へそとせみうらこゝ郭公
恋しうもしなの世まてのせふ
らしこゝいやとふれ〳〵屋
郭の春乃花やまこうせて
このたとてしかるんかとまた
春乃花てふすゆへ乃梅ふれ
ひとのゝみいとて春しかりか
ゝとへきこかとてみたれ無ふ

たのふかゝ月ようゝら 後隆羽
たのふ春ふ乃ふ乃梅 後三位母信
たのふ春ふゝとれるぬ乃わ 枝中納言 教忠
たのふ三代のとゝとゝたん 公三宗親卿 昔同
たのふ乃ふれほゝふ乃ふ祢と 第大納言 為定
たのふ乃のゝふゝゝゝ示 平忠度卿
たのふ乃わ乃ふ乃ん 後照念院 関白教平
たのふもゝゝわゝゝれて 第中納言 宗尚
たのふ乃ゝ乃春ふ乃 頼ふ
たのふ乃ふゝ乃ふ乃ふ乃 信明朝臣
たのふ乃ふ乃ふ乃ふ乃 重之
たのふ乃ふ乃ふ乃ふ乃 太政門院 小宰相

恋一
同 恋五
新千 雅上
新拾 秋下
新続古 恋一
新拾 秋下
風 天
新千 秋下
風 冬
新続古 冬
風 冬
新千 恋五

ふのふゝゝやゝ風ふ乃
なふゝゝゝふ乃ふ乃ふ乃
郭公まゝとなりけるゝ乃
小春ゝ雪ゝ乃又前ゝふゝて
おもふそゝゝ杜の木ゝ乃ふ乃
ふゝ乃ゝふゝ深ゝゝん乃わ
れ世ゝゝゝゝゝゝ乃月
ゝゝゝゝゝ乃下ゝゝふゝゝけて
ゝゝてゝゝ乃ゝゝゝ新ゝて
ゝふゝゝゝて乃ゝ乃ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

忠房親王
安嘉門院 宮内卿
惟宗時俊 朝臣
御製
土御門院 御製
隆季卿 朝臣
第大僧正 良恵
永福門院
第大納言 家雅
東道清
後伏見院 宮
中務卿具平 親王

新拾 秋下
同 冬
新後撰 新拾
新拾 雜上
風 秋下
新後撰 夏
同 冬
新後撰 雜上
風 雜下
同 雜上
同 雜上
同 冬

きりわたりて八幡よりはるかに
さそひくるこのゆふぎりは
なにはがたなる
なにはがたにはるかすかに
なにはがたみそをいそちどりかな
なにはがたなるこのうらかぜ
なにはがたなるこのうらかぜ
なにはがたなるこのうらかぜ

新千冬
同秋下
風秋下
同秋下
新後拾遺秋
新千雜秋
風恋上
新後拾遺秋
新千秋下
同秋下
新拾秋下
風冬

新後拾遺
新千雜
新後拾遺冬
同恋上
同秋
新千秋上
風恋上
同秋下
同賀
同
新拾恋上
同

風雅
新子
同
新後拾遺
新拾遺
新後撰
新拾遺
同
風雅
新後拾遺
同

新後撰
新拾遺
新千
新後拾遺
同
新拾遺
新千
新後拾遺
同
新拾遺
新千
同
新後拾遺
同
新子

三百五十六首

新和歌類句集

め

新よ 尺
いくとせもこの月を見ぬ人ぞなき　めぐりかくれぬ秋の夜の月　東京基世女

新拾 夏
春山ゆとなりの雲やうすくなる　のぐれのつゆ　茅渟院製

新よ 応二
とどまらぬ秋の海のうきしるべ　しるべ　のぐれのつゆ　古生世見

新拾 春下
ふるさとの春の花ぞ　ふるさとの春の花ぞ　寒蓮寺師

新拾 応三
いく年をうつすとなれば別しみちの　いく年をうつすとなれば　茅渟院宮東

新千 冬
をとこ夜ふかぬを新うるとて行月の　をとこ夜ふかぬを新うるとて　後鳥羽院御製

新続古 尺
ゆくよこの車のもとに孔雀もなし　ゆくよこの車のもとに　入道前太政大臣

新よ 表
まちわびて人のなくなるみちのくや　まちわびて人のなくなる　永助

新後拾 夏
夏の代の月の立ぬるかぎりかな　夏の代の月の立ぬる　入道親王道元

同 新後拾 神祇
ゆくとをしらぬ人のなかれ　ゆくとをしらぬ人のなかれ　夏冬方道　如信

めぐりあふ人の行末　めぐりあふ人の行末　英仁親王行雅

月 祇 風 尺

新後古 祇

新 古 祇

我まて三代をへてゆたけ〳〵ゆるしつる神の
みとてしは 性空僧正 元亨
すゑもあしもの二葉こそいとけなき
うゑみかもそん 大僧正行尊
すか川うかわ〳〵流とてうこそ世々の神の
のうみくもけり 後徳雅家
天の代といふにゆるして人の苔したつゆ神乃
めぐみ成らん 僧正遍昭

十四首

新 古 二

月 祇

新後古 祇中

月 祇中

新後古 祇下

新拾 古 二

新後古 古 一

風 祇下

月 古 五

月 祇下

み

あやめにしぬ人名やうゆ人和歌とた
みいるもふも 後後院製
かこ千歳祈るも和代乃あれ見と祈とた
みはつゆく 法寺関白
くらをうせ天代をのうけまもりもを
みはつへく 平宗宣
二代に成まてあきと人の月乃和りて
みはあかしの 二条為氏卿
せう〳〵をつ代をを川行乃こ三代りうむめ乃
みるもぬる 後鳥羽院
人をまあ〳〵ゆの波乃ゆ嶮かるしるつわ
みはつ花て 弁世親王
う風乃をふかせ花乃丹乃多むけなく
みはるもゆく 宗尊親王
ゆ年あるをやこせをの乃ゆ人たうに世乃春と
みりくつる 安嘉門院
ひくもにをうくしをてゆ世いけの世乃
みはの月に 俊成卿女
ゆ風とをつの風乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
みはるへ人 金達師
月 祇下
夢ゆてをう祇〳〵きいくの人てはつゆ
みるまはゆ 大伴家持

新古 秋下 新後古 誹
月 雅下
新古 冬
月 雅上
月 義
新拾 雅中
新古 恋
新後古 秋上
新古 秋上

みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ
みてしかなくなくこそ

後鳥羽院御製
藤原為家
後宇多院御製
藤原為氏
藤原為世
藤原為氏
藤原為世
藤原為氏
藤原為世
藤原為氏
藤原為世
藤原為氏

新拾 冬
新千 義
新古 雅中
新古 雅中
月 義
新拾 雅上
新後拾 恋五
新後古 雅中
新古 雅上
月 恋三
新拾 雅上
新古 雅中

いまはとてこそ
うかりけるこよひのさよの秋のつき
人をいとふこころをなにとあまのかは
わすれぬるなみのよるのつれなさは
うらみてのちのなこりなりけり
はかなくてあけぬるなつのよのつき
人つてにしらせてもなほ
つれなくてあけぬるなつのよのつき
何とせとかなりぬるなつのよのつき
世をかなしみてなくうぐひすのこゑ
過ぎてしまふ春のなごりを
惜しとてはかなくとまるなつのよのつき
惜しとてはかなくとまるなつのよのつき
惜しとてはかなくとまるなつのよのつき
惜しとてはかなくとまるなつのよのつき
惜しとてはかなくとまるなつのよのつき
惜しとてはかなくとまるなつのよのつき

藤原為家
藤原為世
藤原為氏
藤原為世
藤原為氏
藤原為世
藤原為氏
藤原為世
藤原為氏
藤原為世
藤原為氏
藤原為世

新後拾 五一
風 秋中
月 雅中
新拾 雅中
新後拾 五四
新拾 五五
新続古 五三
風 秀中
新続古 賀
新千 雅下
月 春
新拾 雅下

みちのくの
みちのくに
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの

美濃国多度
摂津国住吉
後二条院御歌
摂津国住吉
後二条院御歌
摂津国住吉
後二条院御歌
摂津国住吉
後二条院御歌
摂津国住吉
後二条院御歌
摂津国住吉
後二条院御歌
摂津国住吉
後二条院御歌
摂津国住吉
後二条院御歌
摂津国住吉
後二条院御歌
摂津国住吉
後二条院御歌
摂津国住吉
後二条院御歌

新続古 尺
月 尺
新千 五二
月 春
新続古 五二
新後拾 五四
新千 五一
月 五二
月 雅上
新拾 雅中
風 雅下
月 冬

みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの
みちのくの

陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡
陸奥国信夫郡

新後古
非
新子
五三
月
飛中
新後古
飛中
新子
八
月
冬
新千
羇
新後古
五三
月
秋下
新後拾
遠
新拾
飛上
月
賀

みちたかの　青門院御製
みちくやしき　後人
みちゆふ　御製
みちいかのやと　民部卿為明
みちいるきれ　前右京大夫宗秀
みちやかるん　後二條院御歌
みちよゆも　前中納言為氏
みちるゆふく　野長月
みちにくの　前大僧正頼瑜
みちとりに　民部卿為
みちとまねん　ふみ人
みちぬるなく　前中納言為方

新子
飛中
月
飛中
新後拾
慶
新子
飛中
月
尺
新後拾
五二
月
飛中
月
五五
月
冬
新子
長
新拾
飛中
新千
羇

みちとられて　民部卿為
みちとさまて　前中納言為世
みちとんとの　後深草院御歌
みちとんとや　前中納言為泉
みちとまろん　法眼浄弁
みちとて　よ宮法師
みちうくの　ふん人
みちたかの　前右京朝定
みちゆも　鎮金剛人右
みちうれき　九條右大臣
みちかしん　摂政後實継
みちうもて　院御歌成茂

新拾 秋
みちそ浦よいね　藤原為世
新千 雜下
中しなむ事のもとりてそ孔をもうさ　花園院御製
新後拾 雜上
かりなるたかよいのかわぬ　平女村名
新千 慶
もれかてそ思ふ代りたかさかめ　日光院入道前関白太政大臣
新拾 雜中
はるのもしのもれかしなん人のこころ　宗尊親王御
風 雜下
なにとなくもくるくるはまくはまくはまく

新千 雜上
新續古 歌
風 雜上
新後拾 五二
月 夏
新千 雜中
風 五二
月 雜中
新後拾 秋下
新千 雜中
新續古 夏
風 秋中

新千 雜中
新後拾 五一
新千 春下
月 五二
新後拾 五四
風 秋中
新後拾 雜上
風 春中
新千 雜下
新後拾 雜下
新續古 春
新後拾 雜上

みちをしるべせよ　紀淑氏卿
みちしかよう　[illegible]
みちをこゆと　後月院内大臣
みちをなん　後光厚院御製
みちをるべて　[illegible]
みちをまほい　性遍法師
みぬ秋をそ　[illegible]
みぬ人のあ　[illegible]
みぬ人の　[illegible]
みにつるれ　前僧正永俊
みるなるべ　後鳥羽院御製
みるかりの　[illegible]
みるうわ　[illegible]

あけぬれば　[illegible]
みる夢の　[illegible]
みるひとの　津守国助
みるひとの　[illegible]
みる秋の　[illegible]
みる秋の　[illegible]
みるうれ　[illegible]
みるうれ　後鳥羽院宰相典侍
みるうれ　僧正永俊
みるかり　[illegible]
みるかり　後鳥羽院御製
みるうわ　[illegible]

あけぬれば　[illegible]
みる夢の　[illegible]
みるひとの　[illegible]
みるひとの　[illegible]
みる秋の　[illegible]
みる秋の　[illegible]
みるうれ　[illegible]
みるうれ　[illegible]
みるうれ　[illegible]
みるうれ　[illegible]
みるうれ　[illegible]
みるうれ　[illegible]

月 春下
時雨はたうちもやとる花乃色にしめしられけるせ　みるそてとれ　前右大臣

新古 慶
ふる代のあとを井とはしてもちゝ雨の毛衣　みるうら枯き　従理実孔雀

新千 五四
ちさくもゝ乃枯れるゝ河川かひなくやかゝ　みる袖ゝ乃　源有長朝臣

月 五二
数ゝ乃庵のうかゝる河川まゝ枯れ枯れて　みる袖ゝ乃　前大納言為家

新拾 五四
うたゝゝゝるて毎度にはとゝんう枯なてのゝ　みるゝゝやと　前参議経宣

新続古 尺
梅乃ゝゝ枯ゝ久しうとも和はゝゝ花ゝゝきて　みるゝゝゝゝ　前権大僧都永性

風 雅中
心里ゝさんとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みるゝゝやゝゝ　前大納言実明女

新拾 長
今ゝゝゝ枯ゝ枯てゝたゝゝゝ　みるゝゝゝゝ　従二位久明親王

風 文
心川乃ゝ枯てこきたゝ夕波ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みるゝゝゝゝ　権律師慈成

新続古 五五
ゝゝ枯ゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　進士頼之

新千 誹
ひさゝに人ゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　源仲保

新拾 雅中
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　永福門院内侍

月 雅下
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　後頼朝卿

新後拾 冬
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　従二位俊隆

新拾 雅中
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　権中将重右

新後拾 雅下
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　前内大臣

風 雅上
花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　前内大臣

新千 補
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　前右近衛家教

新後拾 雅上
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　婚子内親王

新千 五三
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　花園院御製

月 雅中
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　前内大臣

月 雅中
さゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　法印浄年

月 雅下
乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　是法師

月 雅下
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みといゝゝゝ　前内大臣

新後拾 五三
新子 五二
新拾 補
月 五五
風 五五
新拾 雅中
新子 雅上
新拾 雅中
新続古 五二
新拾 五二
新続古 雅中
新拾 五五

ゆるされし給ひとうれしとてうち給ひたるを
をのこ子のうちうちにあるを命かとうらやましく
うらやましかりしかの川の行て祈
ばかりかるしてていとせの契しゆゑ
ようて降す人のうたもしものわとれぬ
立てあうらをうらをうらを考ふ法ふかくかく
者この花のうちにてうちうちを老めるか
なくうのうたいすひとを音をしうちうく
ひとうね夜のまくき数のうちにてうの行のうちの
我恋ちの事ありたるうの恋のうるやたるすくく
恋ふやひとたくの行のまてるかなしてをしね
てい又のまのとをてねのとをいとうるたるた

みとうのひとさ　後二條安陰
みとうのひの　祝ア行氏
みとうのひの　藤原長能
みとうのひん　前中納言公脩
みとてうもう　東後前南白　源肥後
みとうけまし　是仁法師
みとうけくの　前大僧正　寛聴
みとうけくの　後三條寛遍
みとうけくの　左近中將　定親
みとうけくん　藤原良教
みとうけうう　四辻大納言　左大臣
みとうみて　藤原俊乃母

新子 哀
風 五五
新子 五二
新千 雅下
新後拾 雅春
新千 哀
新後拾 五四
新千 雅中
月 雅中
新拾 五二
新子 五一
新拾 五二

さたをつとをうれしいたまてうもれーき袖よ
ゆうくいとをいてやとうくををはうしたた
つとれさのたりいたとのこうて逢ようんと
うるふねをくしのこのうしたをうたねをく
ををのををのひねたうさにうをあやはをたく
うるうにをうねとうこれいはとをくうくん
とをはうをん人のうりまをせれをくんをを紙
里はうき竹のをのうををしいうんをけき
竹ををくしをうとをのこうくはうるん世
逢ありたうん命いれーさたいうん人中ありり
しくををくう井始をうう久姫きをくるりうんと
うをのくうををををををををををををををを生にあうねを我うう恋よ

みをのこうくき　後鳥羽院
みとうーもの　高階師直
みとはうん　源知行
みとうとにを　法印延全
みとうりのん　僧茂雅久
みとくをうん　行蓮法師
みとうくをん　後嵯峨院　九条殿
みとうかこをん　太政大臣　小宰相
みとうよりをん　法印寛性
みとうや拾へき　後恵法師
みとうーはう　俳諧田舎
みとうしれ　左京乃清

風賀

月 秋下

新千 尺

月 秋中

新後拾 五五

新千 五三

月 春

月 尺

新続古 神祇

月 神

新拾 秋下

新続古 文

祈とて年の月をつきけさ市代乃ひとに
みとてこしの
二条は秋を慈道

つれなくて秋ふかなんとまつのうへにみのはる
みとしにめけり
建礼門院右京大夫

徐福のそのうちにをしれる仙にはに
みとしもなれば
槐宮工人

七十乃老乃ひまれあんとふるやしほのうちに
みとしもしてつ
藤原俊成

乃碑りちとはなるのあんやいつるをけて
みとしもうんん
前内大臣

をとうまたのもしとてぬかうへの乃ねはしく
みとしもみさ
小侍従

立そしくそこに行乃ひとのうへに源をれるん
みとしもまり
法橋行俊

きのことそのいとの乗乃まの春りとあり人や
みとやとそん
日吹工人

ひかりにやれ多陸をあれいとうしもれ
みとの神うさ
一条院御宇 慶仁

うきふとの父をうの次いろりにるやいはる
みとの神はた
後二条 前内大臣

秋をてはの門田乃かりの初風り月新もしき
みとの心もて
法印浄弁

多つそをいた給ん新をとろ神はとるた
みとの心もて
中務宮宗尊親王

新後拾 秋上

新拾 春上

風 春上

月 冬

月 秋下

新拾 五二

風 冬

新後拾 冬

新続古 神

新拾 神

新後拾 慶

風 神

かけりの秋しをんてな稍ろれをりてはなる
みとのよりけ心
法華経開文

春乃ものとりわかとめとをかれ宮きこね
みとの秋もし
三条入道前太政大臣

ろにとるつ四とるの心乃ん二にとるんもの
みの月乃ろ手
前中納言定家

心風りれ木乃葉隠をもむ世るりるをりて
みの月乃かけ
進内親王

うるんくし今いかんん乃ゆれをはよれ
みの月乃かけ
頭親門院

いたれて月をみれんうてにるもも葉乃
みかれて
権中納言時光

れをしるる寄川水乃うをおとるくり
みの月新
左京大夫 為秀

そうまて海ろをみと心川乃こりれんと
みの月新
後二位法皇

八十まて七乃秋りれんをているをさんの
みけ如何
はや光全

ふるもを分んや多の境や光をあけ一天巡赤乃
みきなるん
大江廣秀

ろとろんく世代をてをを空ろを月のやをを
みけ如何
権大納言忠光

数るて乃のしてをこありぬをとを物るまて
みさやとの
刑部卿敦兼

月賀

新撰古 秋

新千 秋中

月 秋

新拾 春上

新千 恋

新拾 誹

新千 恋

新撰古 賀

新撰古 賀

月 賀

新千 秋上

とのゝ氏ゝ寺ゝ山人ゝ名ゝ所ゝ天ゝ

みよしの

後三位頼政 摂政太政大臣

はるの日のしらべ雪

はるの風のしらべ雪

みよにあつ

忠房朝臣

はるの風のしらべ雪

はるの風のしらべ雪

みよにあつ

清原国平 従五位下

はるの風のしらべ雪

はるの風のしらべ雪

みよにあひて

従五位下

はるの風のしらべ雪

はるの風のしらべ雪

みよとなる

藤原定家 従五位下

はるの風のしらべ雪

はるの風のしらべ雪

みよとなる

摂津国雁

月 雅上
月 春下
新千 春上
月 五三
月 五二
月 五四
新續古 五二
月 五一
月 恋二
風 秋下
新拾 春上
新續古 五四

新々 雅上
月 秋上
風 春中
新々 雅上
風 五四
新拾 雜
新後拾 文
新續古 文
新々 春
新拾 尺
新後拾 秋下
新拾 秋上

みてはく心　性徳法師仙定
みてはく里　後日蓮院法印製
みるりわる　春心院宮製
みもれる色　法橋顕昭
みもれるめり　金川院宮
みもれるめん　入道二品親王道助
みもれるめん　正二位隆教
みもれるう　原雅黄
みもれるう　前大僧正慈定
みもれるう　菊原為名
みもれてう　前中納言定家
みもれるま　坂阿法師

新々 雅上
月 秋上
風 春中

赤さうつ　いとねるらーさみてしたれ心
みてはく　ふかるもし月ほ　ふるけさいそれ人まて
をもたれ乃　天ゝや人のかけ　ら志ゝ　柿は
いろに秋乃　ふれく月乃　もれてう　ゝ
人ゝ　その思ふ　ふ乃　ふ　ゝ
梅　ゝ　赤乃小野の　一夜　ゝ
人ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
星人　ゝ　ゝ　ゝ
月ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

みてはく　後白河院
みてはく　人丸
みてはく　英俊乃定
みてはく　後安門院
みてはく　ゝ
みてはく　入道二品親王寂道
みてはく　英俊
みてはく　元良親王
みてはく　中務乃
みてはる　藤原為家
みてはる　藤原為家
みてはく　ゝ

風雅
月 五一
新後拾 五四
新続古 尺
新続古 五四
新拾 五二
風 名
月 文
月 雅中
月 文
新拾 尺
新千 五三

行くれをうにそまつゆれもてり
隠れなしかれがしら今ゆふ行くしろの
ときしをくをこの奥のみをねみ野中に
しをしやせ川流の信濃もらしれ雲の
見ぬ人こそ山やとの行野のさく入江の
人の行たまちる思川うたせりさえね
紅なやむ谷の水のしたをしるしるに
こけもさ心の宮ゆれたりすしくとめる
もち思ひ者を今をもの行くかみ久しさ
夏心のきけうしたに花てすしき
めくりてなびする里おてとの行ふを
紅もんねをうたまれうたれるせにさえ

みたのの春れ　微妙門院 小六宮
みたのうたた　源重氏朝臣
みたのうさ　藤原定家朝
みたのうさ　藤原俊心 道玄
みたのうさ　藤原成忠
みたのもう　永福門院
みたのうた　後西園寺入道 藤原為教卿
みたのの春れ　後二位重行
みたのの花　藤原定家
みたの音れ　平政村朝臣
みたの小車　光明院 内大臣
みたのたち　源威資

新続古 文
月 五二
風 五一
月 春上
新後拾 春下
新続古 秋中
風 名
新拾 冬
月 名
月 秋中
新後拾 春下
新続古 文

御秋してまとふ川流ふをいせとも見た
人をまねの秋さをしたるをとをいやうの
とうれしかもの独の秋川をてうしやさ
春風の春をの秋の清てゆをたまるね
大井川ひとつしたつをいとて流せてみえね
秋をくやこあるをて秋の秋川乃宮にてふる
陽をしの宮乃にもつるをさ川乃宮ゆかすき
立つる春を風ふえ名川乃いまたこうる
さる日をこぼるをやを吉野川宮をとを
ゆくふを立ゆるれすまえねうたみを川乃
をくをれ花乃ひわやら秋乃川をるもわる
六月の月よみさいまちて名をを川名よをを

みたのの春れ　後西園寺入道 藤原為教卿
みたのころい　法皇慶運
みたのの月れ　関白藤原長
みたのの行て雪　参議雅俊
みたのをうを　後二位仲子
みたのをうむ　後二位為子
みたのをて波　二条中納言 定助
みたのをて流　藤原為定
みたのをて流　右兵衛督 為定朝臣
みたのをて流　法皇定円
みたのをて流　清雅朝臣
みたのをて流　秋乃法師

月秋上
新拾秋下
新千九
風五三
新古尺
新拾春
月雜中
新千夏
月雜中
新續古五四
月雜中
新千夏
新拾夏
新後拾雜春

月さすみぎわ　なれる　川乃流に　つもる　雪
みてのまつ　法
みてゝ　ゆく　後京極摂政前太政大臣
みてゝ　ゆく　の　思
みてゝ　ゆく　の　あと　後鳥羽院御製
みてゝ　ゆく　れば　前大納言為世
みてゝ　ゆく　れば　前中納言雅孝
みてゝ　ゆく　れば　後二條院御製
みてゝ　ゆく　の　あと　贈太政大臣
みてゝ　ゆく　れば　小槻重氏
みてゝ　ゆく　れば　前大僧正道玄
みてゝ　ゆく　れば　後嵯峨院御製
みてゝ　ゆく　れば　前内大臣実

雲　ゝ　波　ゆ　ゝ　き　ゝ　る　け　乃　立　月　南　よ　あ　れ　し　の　川　い

立月南　なる　川　を　ゝ　ま　た　乃　と　心　れ　る　月　南　よ　や　そ　ら　川　を

立月南　を　ゝ　ら　と　乃　乃　な　の　川　い　ゝ　り　あ　り　て　ゝ

立月南　れ　を　ゝ　ら　と　乃　乃　な　の　川　い　ゝ　り　あ　り　て　ゝ

立月南　の　ま　れ　と　ゆ　ぬ　ら　た　り　や　乃　ま　た

立月南　ま　ま　を　つ

新後拾 冬
月 尺
新拾 雜中
新續古 春下
風 冬
新拾 冬
新後拾 雜秋
風 非
新拾 雜上
新後拾 非
新續古 冬
風 秋下

月 雜上
新拾 秋上
月 尺
月 雜下
月 雜下
新拾 恋三
月 雜上
新後拾 秋下
月 雜中
新後拾 秋上
月 雜秋
新續古 冬

ふるさとの
月かな
月の
月かな
月かな
ふるさと
ふるさと
ふるさと

月 名
枝つゝ末乃葉と、いたらてみんつかゝ
みちぬ
後二位乃信
月 雅中
あゝ哉乃て乃て礼葉もらゝ
みのれる
英八四て乃夏
新撰古 雅下
見るまに乃乃方を
みのるる
作中四て雅世
風 秋下
ゝ乃て孫ね神乃八代乃お孫乃
みのれ
東乃四郎と
新古 歌
都人乃ゝ
みのれ
俊成隆祐製
月 雅下
ゝよゝ乃人てね夢れ乃ぬん
みのれ
英八四て乃世
新拾 名
村四乃とれ乃うてとれ乃
みのれ
作大四て乃明
新後拾 旅
言ね乃て心乃ゝて夜乃に
みのれ
英常盛乃家
月 雅
末乃ゝ月を乃ゝとやゝ
みのれ
英八僧正慈鎮
月 秋中
村をたゝこゝ乃乃れ数みて
みのれ
後四国乃入道
英八四て乃政大
新千 秋下
明て乃乃ゝ乃心乃をゝひゝみて
みのれ
英八四て乃氏
新撰古 秋下
時とゝね乃乃乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
みのれ
後鳥羽院御製
英四白大ト

新拾 春下
心乃をゝ乃ゝ乃ゝ乃ん乃ゝ乃ゝ乃ゝ
みのれさゝと
花園院製
風 旅
乃里に乃ゝ乃乃を乃ゝ乃ゝ乃て
みのれとて
英四て乃定
月 雅中
ゝ乃ゝ乃ゝ乃

新拾 春上
みてれとも
後鳥羽院御歌
前大僧正慈鎮

月 春上
かをそ
新りもして
中納言定家

月 春下
尺ゝ
前大僧正慈鎮

月 春下
咲乃こしたをゝ
玉葉
前大僧正慈鎮

月 秋上
日映
藤原定家

月 秋下
秋風
形恒

新拾 羇
ちゝ
はゝ
順徳院

新後拾 春下
ちゝ
常盤井入道
前太政大臣

新後古 春上
花
入道二品親王
道助

新後古 羇
ふ
後野宮入道
前太政大臣

風 春上
ち
順徳院

月 冬
いゝ
光明峯寺入道
前摂政太臣

月 冬
都
前大僧正道玄

月 冬
初日
藤原定家

新 冬
花
藤原定家

月 羇
ち
藤原定家

新拾 冬
月
藤原定家

月 羇
月
後西園寺入道
前太政大臣

新後拾 雜春
ち
前中納言有光

新拾 雜上
位
法尊

風 秋下
吹
梅園俊資明

月 秋下
月
後宗尭摂政
前太政大臣

新 秋下
心
四条大納言

月 秋下
ち
中御門宣公卿
原道義

月 冬

村雨ふるは誠の心ぶり　みなれぬ袖し　春宮の大夫

月 冬

多くの川もてしかりうるはかりなれば　みなれぬ袖を　法華堂

月 春

誠にて誠の神にとるまにまにしるしあり　みなれぬ袖を　前摂政

新拾 秋下

入日さしてまてとやにまたしるつるものの心　みなれぬ袖を　崇徳院御製

月 秋下

はるのまたにかすみこめんさるとわまてはる　みなれぬ袖を　瑞籬寺法皇

月 雅上

心無のいそく夜れは明の月をとはるいつ　みなれぬ袖を　太宰権帥

新後拾 秋下

月にてくるとエンそもはるとはるふるとて　みなれぬ袖を　俊子内親王

月 雅秋

はるとまてれ時雨もふるはるとはるはるはるはる　みなれぬ袖を　原頼隆

新続後撰 秋下

月にてくるとエンそもはるとはるふるとて　みなれぬ袖を　後京極摂政

月 秋下

月にてくるとエンそもはるとはるふるとて　みなれぬ袖を　後鳥羽院

月 雅上

霜をはらはるとかをはるん春はれ梅の花の心　みなれぬ袖を　法華堂関白

新後拾 春下

月にてくるとエンそもはるとはるふるとて　みなれぬ袖を　太政大臣

新拾 恋五

我神のまてはるかるかるはるはるはるはるはる　みれとよりて　陽明門院中将

新続古 恋

もるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みる月の夜　皇太后宮大夫俊成

月 旅

いまはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みるもとの　前右兵衛督藤原頼氏

新続古 秋上

妙なるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みるとの　二條院三河内侍

月 雅上

言はるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みるとの　中務卿宮

新千 恋二

はるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みるとの　前関白

新後拾 恋四

はるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みるとの　祝部行親

新続古 恋二

はるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みるとの　後宮歌

新続古 恋四

はるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みるとの　法華堂関白

月 尺

はるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みるとの　皇太后宮大夫俊成

新 尺

はるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みるとの　摂政前太政大臣

月 尺

はるはるはるはるはるはるはるはるはるはるはる　みるとの　法服寺源

月 雅下
いもてにるたりてさまくわ
みもしてのの　寛風仁親王

月 雅下
乃ろしやとたうさ毎ひいろてにてこたろ
みもしてのの　検律師桓論

新撰 雅下
さもとをを行ひをものしりまにつるは
みもしてのの　英四て宮数

新古 五一
りてれてとらの焼立そしもれくくき
みもしてのの　入道前太政大臣

月 五一
立乃りの留古て年ろ乃ゆ末ろ
みもしてのの　英四て方定

月 五三
人のとく英乃さらの英たにてりまちろ
みもしてのの　常盤井入道前太政大臣

新撰古 五二
なつて逢世夜行ふれあゆゆさ
みもしてのの　後久我太政大臣

月 雅中
文本元く言を京とやれくらんさの元乃
みるの松山　英四て方定

新古 五一
人のさく神乃ちてみ行ゆまた保乃閑ち
みくさかたわ　春成親有

月 雅上
きたに入くくくにあをを心思のなてろ味い
みやいとうん　英四て方定

新古 五一
うき中の奥りりてを思の夕煙とうるあ世
みやかあくわ　検校四て方隆

同 雅中
年ろてに松乃あとをしれ亦ちてこてき松い

新撰古 雅
いとくく川下てしいくのてたて乃久くこ世わ　英四て方定

同 秋中
松を京に元てこてあらふ乗乃あとを元に逢た
みやまの月　永福門院内侍

新撰古 雅上
なり月や月をあけの新みこて月氏加ちる
みやまの乃く　儀同三司実

新古 冬
都ちを乃あんまくふ雪乃しいとくく人乃く
みやまの里　好忠

新撰古 雅中
さたくさ何ちうこんて礼ちをかてた
みやまの乃里　入道三宮親王　性助

新古 春上
捧ちりて形ちくくき見心かとんられひさ
みやこうるく　心を赤人

月 羇
ちてく川ちて乃ちて一れ
みやこうるれ　皇太后宮大夫　後成

同 旅
菊乃葉り西流くふくさ春入えて弁ち
みやこのとう　英大寺大夫　後益

新撰古 羇
まくろまれくさ行の信乃花ちを人るあを新い
みやこ如くわ　中宮大夫公宗　母

新古 羇
行に人ちのとまをと行るを世て首て葉乃
みやこ如くわ　雙数上人

新古 羇下
恵くて〜志変て九てさて人を春ちう花乃
みやこ如れ　英四て方益

同 雅下
りるしちよ人て出ちを上て月ちるふを人いくを
みやこ如ん　英俊仁道　元

月 雅中
新拾 羇
新続古 羇
月 羇
月 羇
新拾 夏
新続古 雅工
風 春中
新続古 秋工
月 雅中
新千 恋
新拾 雅中

はるかなる心のそらのつゆさえて
ちぢの枕にかよふ夢をうつし
あはれなるものとしてにる浦なれは
草枕とゝまるはかりなるよとて
ちりはてゝとやうるさきなる春は月あけぬ
こゝろ〳〵にとゝ霧はけぬらんと
風ちりかゝる桜の花にたちて月にてあるる
桜花あるはるのあやうたに人くもはらし
あまの原そらはる川の波はる秋りいあを
世の中にあるとはなくてうれしかた
まつの代にはたゝ世にあるたまにのみ
いつもはんうゝとて世中はるをうわせく

みやこ鳥 院御所
みやこの春 法下長年
みやこのを ちとせ人次
みやこ恋し 従復新光孝
みやこしを 法下定為
みやさめ原 九条未賀 基氏
みやさめ霞 勝定院殿 太政大臣
みやこかき 後二位行家
みやこせゝん 四院 行政 九条
みやこつきし 心海上人
みやこ光れ 隆信卿
みやこ光を 法下長年

新後拾 別
新続古 雅中
新拾 雅工
月 雅中
新拾 雅下
風 春一
新後拾 恋下
風 雅工
新拾 雅春
月 雅秋
月 雅春
新続古 恋上

あまたなるつゆをもてはなれる人をまつ夕べ
あるてせてうかるけるとよりもはるとて
はるとしもなつまこの春はるをとてもはるを
二代まてうあはるをはるはるをはてく八十の
はるとともはるをはるはるを行はるはるこ
あたはのはるはるはるはるはるはるはて
はるはるはるはるはるはるはるはるを
はるはるはるはるはるはるはるはるを
はるはるはるはるはるはるはるはるを
はるはるはるはるはるはるはるはるを

みやこ光を 中御門
みやこ光を 英俊果寺
みやこ情れ
みやこ人
みやこ光を 八条入道 日大臣
みやこ光を 前権僧正宋 助
みやこ光を 後二位親子
みやこ人 九河内形恒
みやこ光を 後二位頼政
みやこ光を 宜秀門量 和長
みやこ光を 権僧正則祐
みやこ光を 後恋院 日大臣
みやこ光を 一条法橋 光仁

新拾遺 夏

みてねぬ比の夢　東京基任

風 五三

ふるしたりけるこゝろやとゝまるあまの住家　永福門院

新千 秋下

こゝろなる海たのうらなみとゝまるうぶ人の　好忠

新拾 五四

すきてゝ戸ぬる月もかたぶくまでにゆめ

みてねぬ夏の夜　前内大臣

新後拾 五二

ゆめのうきはしをたゝぬ夏のうきはしを花落ぬとゝまれとゝまれとゝまれ

みてねぬ夏の夜　行恒

新続古 雜

うとてこぬ人のいとうるとをつくしらとはつゝも

みてねぬ夏の夜　清原宣賢朝臣

新千 春上

月新乃こゝ孔行まにさく花そこゝとそいとく

みてねぬ夏の夜　義政公御内大臣

新続古 春上

いたしかとうとみりさわれしらぬほのうゝ乃春乃

みてねぬ夏の夜　源俊頼朝臣

風 五五

さうたもしらしうたうとうとうと

新拾 巡三 在中よたえていたりわ世ゝあのくも　みゆき玉葉　ふとしの人す

新古 誹 やまりのこしたりこゝるにゆるれてこゆるのけよ　みゆき続後拾　西行法師

新拾 文 月白のそてこゆるに各新さしたる時まと　みゆき元亨釈書　右大臣

月 秋上 久ゝ所元にををのなくゝまに物る代乃　みゆき月百首　右兵衛督為氏朝臣

風 春中 心乃しゆるれ之さしたりてをいとゝ成さしたれ　みゆき如久和　男之

月 雜中 ゝるゝまつゆしく柳のとゝゝわ風ものとけく　みゆき如久和　永福門院内侍

月 巡一 物ゝ孔物い夢ゝ行ゝゝゆを新乃つりゝて　みゆき如久和　進子内親王

新後拾 巡四 ゝゝを行かゝゝ乃新い幸ゝる人のゝゝゝ　みゆき如久和　二条院讃岐 千載風

月 誹 ゝ松乃ゆゝゝさゝとけゝ白霧いゝゝけゝむと　みゆき如久和　二条院讃岐 九条兼実

新古 雜下 四ゝ乃孫ゝのゝゝにゝゝゝ何乃　みゆき物語　安嘉門院内侍

新拾 巡四 孫乃ゝゝゝゝ孫をゝゝてゝわゝゝゝゝゝゝゝ　みゆき中務　実定公家百首

新古 巡四 ゝしゝ孫ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ人のゝ　みゆき比企尼　小町

新後拾 雜春 さゝゝゝ乃田乃ゝのゝゝゝ人水ゝゝてゝゝゝゝゝゝ　みゆき比企尼　ゝゝ次

新後拾 雜上 降雪乃ゝゝしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆき林葉　寂蓮法師

新古 雜上 ゝゝゝ花ゝゝゝゝ心ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆきゝゝ　脱閑入道太政大臣

月 巡一 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆきゝゝゝ　源人之朝臣

風 巡三 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆゝゝゝゝ　入道二条前関白

新拾 賀 大井川ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆきゝゝゝ　式部卿敦貞親王

新古 春下 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆきゝゝゝ　伏見院御製

新拾 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆきゝゝゝ　永福門院

新後拾 春上 春ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆきゝゝゝ　伊勢

新拾 文 月乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆゝゝゝゝ　後二条院御製

新後拾 雜春 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆゝゝゝゝ　ゝゝ人す

新続古 雜上 ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　みゆゝゝゝゝ　天皇

新千文　久しくこれをみていけくれて新しくて木のもとの行
月文　明けぬとも野辺の雪の白妙のうのはなやまの
月夏　いけるも心の色とぞ中宮に
新後拾　やすらはかくうへのるつ夏雪を分
新続古　やすらはかくうへのるつ夏雪を分
風秋　ちはらとを白波は入やるみれいとを仏の
新続古　我屋のなてしこ花咲るわ手れて人か
風巡一　らもえてれあたせて巡とてあ
新拾　見つあいと金れるこかるうの
風　うけしうへ後をとるに梅のるれ見
新後拾　しかの月　俊成卿の製
新続古　みかの月　中務の宗平朝臣
風冬　みかの月　後鳥羽院宮内卿
月　みかの月　聖徳太子
新後拾　みかの月　権中納言雅世
風巡一　みかの月　延野権現
新拾　みかの月　中務宮家持
風　みかの月　中務宮
新続古　みかの月　中務宮
月　みかの月　後鳥羽院
新後拾　みかの月　中務宮
風　みかの月　後鳥羽院

五百一首

し

新後拾　あはとしをすくへ心水をたるとせもひとそ
新続古　心乃井れ水乃つるつきはあるとてうしかる
風冬　石のに苔のとたつと月のあて行かとそた
月　心人れ多いかのつるれ〜峯ちもくの
新後拾　女氏性くうちをなるねあすくの月にくわや
風巡一　大くれ世いやとけれ〜人いうしかいるよ
新拾　あくこれたくこにれさ金といけるすてのこう
風　つさ面乃さやはなかの在くうきに入の水う
月　野うまつ心かくきを一こ之乃みうわとをに
新後拾　多の心をたきうつ〜〇で行まあつもに
風　うれ松木乃ちにみてをけむ見なこれるん

源頼則
家真法師
前大僧正慈
後二位乃尼
夢窓国師
永福門院
花園院宮
後二位乃尼
京極乃基
特信正良
後二条院

新後拾 雅上
新古 春上
新勅撰 春下
月 巡二
新拾 夏
新古 春上
新拾 雅上
新後拾 春上
新古 巡一
新拾 巡二
月 雅上
月 巡二

なほ春の光の残れる花の色を猶そ
学て春の暮にあらぬ物ゆへ
ちりまがふ花の下にたちて
ちりぬるかぜの心の花にうつりて
ちるをいとふもなほ散はてぬ神のうゑ
ちるをもとめて折はなほ心神のうゑ
ちるをもとめて折はなほ
ちるを惜みて
ちるを惜みて
ちるを惜みて
ちるを惜みて
ちるを惜みて
ちるを惜みて
ちるを惜みて
ちるを惜みて
ちるを惜みて

入道宗教 光遠
清輔
寂蓮 方朝臣
皇太后宮大夫俊成
俊頼 行家
源方通 朝臣
藤原隆信 朝臣
藤原定家
藤原公経
和泉式部
源重之
藤原俊成 朝臣
冷泉院前太政大臣

新後撰 巡二
新古 巡三
月 巡三
新古 巡二
新古 巡四
月 巡二
新古 巡下
月 巡中
月 桂句
新古 巡
月 春
新古 巡

一条の三位の宮の人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の
ひとりの人の

日蓮上人 佛法
公経入道前太政大臣
藤原為家 朝臣
法勝寺円量
平敦盛女妹
和泉仲成 朝臣
後北院西園
藤原雅朝 朝臣
藤原俊資 平
源重氏朝臣
中臣朝忠
従六位下三月

新古 尺
そのまたのかたのなしなれはそのかのの
きるへ
大僧正慈性

月 尺
一ふしもうのなしさてあきのうへをの
きるへ
藤原為氏

新後撰 恋一
あくるれて我身はそのつゆ恋乃ものも
きるへ
後三條院

風 名
心あれ雪ちるつゆ乃ものとみ
きるへ
前中納言雅孝

新古 名
あの雪にをの心里はすれ
きるへ
源川院中務卿

新古 雜中
ふるまにはそのこの方れ忘ぬ月やみやこ
きるへ
藤原為家朝臣

新拾 雜中
乃入と心乃りてのかれこの世乃ふれ
きるへ
法皇御製

新後撰 秋下
世の西乃秋乃心地いとみちてのうろ
きるへ
皇太后宮大夫俊成女

月 尺
神乃入りかたにやとし一日暮やう形るむの
きるへ
後鳥羽院御製

月 尺
いるまてはる神はのみちとたまもしれ
きるへ
中納言為家

新古 恋一
一ふしにつなれ方とかりとそうれとん神る
きるへ
藤原為氏

月 恋一
きれ入へはの神まるとてさけり人のを
きるへ
藤原俊正 女四

月 恋一
ぬちくはのうちるはれ乃れ乃のそを
きるやきるへや
伊勢

新後撰 恋五
うみくもれのそのかをはるしぬさえにわか
きるへと云へ
皇太后宮大夫俊成

風 尺
いるへ乃れの孔の寄代乃うへやよ川乃枝の
きるへも乃
藤原為家

新古 恋二
さふらたくるれもむけさをぬさいりたれ
きるへ
聖武天皇

新古 雜
さうをもすしも雨れあるなく代乃うへき
きるへ
けい性入道前右大臣

新拾 春下
いろに咲くらるあ橋の春をうの寿乃
きるへ
藤原為兼朝臣

月 尺
ふりかをうへ入えれたるこれたるうの
きるへ
藤原俊正 女隆

月 賀
和ふれ海りのうしむをみくもれのうけき
きるへ
はるの下定雅

新後拾 雜上
ちをみくれをみをれをはるはの
きるへ
源義春

新後撰 恋二
方れとふそれるたうをきれみをれとうる
きるへ
権中納言雅保

新古 雜下
はのしれちくはねとかくやまるる老乃
きるへ
藤原忠長卿

新後拾 秋下
ちうきれ一人をはれるはれ乃
きるへ
権大納言実忠

新慶古 雅中 新拾 永 月 尺 新後拾 雅上 新慶古 雅中 風 雅中 新千 雅上 新拾 巡一 月 巡一 月 巡五 月 雅中 月 雅中

かさてもるこ海乃梅のうへの秋のうるとの
ちらすの乃秋の乃葉よりくしかみとまの
はのみをえしの秋とうるををもしうるかみの
いたきんつるもちてほの秋乃門とうしおいの
つるくてうしい老ぬるもちのみ秋を我身を
いかむしとふ心下水乃木かれなとまをしうを
さうとうとう方に数るうて白雲乃中ぬ世をせ
月夢乃くにて夢をそれ下もろを主てにうを
谷うぐや岩らしせくこ行水乃もたの人ぐを
こ心木乃下こふらとれ下をみちうる人を
やうるあ秋の夢乃若むついくらをねん
いきてらたとふり数るぬ方とうた我を

きるこ人なん 無出院小製
きるこ人なん 英門方家
きるこ人なん 入左京権大夫受答
きるこ人なん 法下院運
きるこ人なん 親法師
きるこ人なん 後鳥羽院御口入
きるこ人なん 頼資法師
きるこ人なん 英門左往徒
きるこ人なん 法下定乃
きるこ人なん 二条法親王定助
きるこ人なん 法理実頭季
きるこ人なん 大僧法師

新後拾 巡一 新千 雅中 新拾 巡三 新拾 巡二 新千 巡一 風 巡五 新千 雅下 新後拾 巡一 月 雅上 新慶古 春下 風 秋上 月 秋上

下もとをふ宮こ清乃まかれつうしせたし
若まれ未あをしさかまをを在乃とをを人を
乃をを乃ををの形いたをうの形乃をうとた
むらの秋ふ乃露のさををくををまをたを
伊勢乃うみのうをの人をうををたををうを
ふをしをを我乃こ方代をうををれを恋ゆるをを
数るぬこまかををれををを水ををうををを
ゆみを川神乃をを形るこかをれ世ををとをを
こたをを乃のををれをを乃をれて久わを
花をを代まををををに後ををてをを追を
風ををこんをれ乗をを秋をれを心をを
小心田乃ををを乃をを乃をを乃をを

きるこ人なん 法中宗道
きるこ人なん 中宗師を明石
きるこ人なん 寺文院製
きるこ人なん 入左京権大夫
きるこ人なん 入左京権大夫英政入石
きるこ人なん 水福門院
きるこ人なん 徳義貞
きるこ人なん 権中納言乃重
きるこ人なん 院戸成景
きるこ人なん 後小松院乃製
きるこ人なん 藤乃なを形る
きるこ人なん 基俊
きるこ人なん 藤乃形なる

新千 秋下　秋乃日のうらさびまさるこゝろかな　藤原為明
月 秋下　ゆく秋に音をしらせてこゝろやものこゝろに　鎌倉右大臣
月 秋下　さうるこゝろをうつしてこそ多くなれ　藤原為世
月 秋下　惜しむ秋ゆくに人はなれぬるとなにはの春に　永福門院
新拾 秋下　秋ぞしるこゝろやすみぬ山の下風　藤原為世
月 秋下　たつたの月かげをくもるこゝろかな　後三條為理
月 秋下　月新乃入ぬる後にあらぬ心　入道二宮親王
月 秋上　なれてこそ秋の夜をゆく月の影　左兵衛督為義
月 秋上　ゆくに秋はゆくへをしらぬ夕かな　後三條行能
新後拾 秋上　ゆく秋ぞ秋のこゝろにかはりける　弾正尹有教
月 秋上　秋乃月のゆくへをしるべかな　祝子成光
新続後 秋下　ゆく秋ぞ心入ぬるこゝろに音なき　藤原為成
藤原為 秋下　藤原實教

月 秋下　夕暮ぬるこゝろの秋の月かな　藤原為明
新拾 秋下　ゆく秋ぞ人の心の月かげ　藤原隆忠
月 秋下　うゝしきこゝろの秋の月かな　俊頼朝臣
新千 春上　春乃月かすみの山のこゝろかな　光俊朝臣
月 春下　山もとをゝ海の川のとゝのゝ人命の　惟賢王人
新千 春下　文本ゝとなりたる春をこゝ　藤原定家
月 春下　ゆく里をゝかすみ桜ゆくをしれ　皇太后宮大夫俊成女
新後拾 春下　今を盛りさけばちるとの人のこゝろ　藤原為家
新千 冬　ゆくをしるこゝろやもしをり〳〵　祝子成繁
月 冬下　ゆくをしるこゝろやもしをり〳〵　藤原為世
新拾 冬　音たてゝあらしや松のうるんたる　藤原宣明

月 神代にわかれ初めてとしあまりて ふるさとの
新子 秋下 心なれぬる人の月にまどうみのを氣にてや きみなくん 法延全
月 秋下 そこはとゝにかくるゝや雪のたゆたふさゝの下に きみなくん 校定文明
新拾 秋下 はてもなく孤にのこりぬ一さの風 きみなくん 芳院村雲院 前日本大
新続古 秋下 志のゝくさ秋の月にてけるやすゝきの きみなくん 源家清
月 秋下 あさのゝ秋方にてやうれく月よ きみなくん 無名成家
新後拾 秋下 はるかの月にはまるはるかの雲にうつる月 きみなくん 武乳院内閣
月 秋下 月のわかめとうゝはるはるやうとてはるゝ きみなくん 源頼春朝臣
新続古 秋下 さてはやはるはるの神にてもはるはるの雲にうつる きみなくん 小槻重治
新子 冬 おもしろかりけりはるはるの風吹くゝ きみなくん 刑部卿重
新拾 冬 くれはてゝ長月のうゝの雨にをつりてはる きみなくん 法定宗
新拾 春上 見るめなくはるはるの雲にはるはるの雲にはるはるの きみなくん 日光院入道 前関白太政大臣

新後拾 秋下 かゝる心くらべの秋の月をたゝみくゝ きみなくん 安嘉門院四条
月 雅春 ひとりの心なれの月にあるゝ花ゝ きみなくん 源雅信
月 雅 弱なるてゝうゝあるゝ月にさゝくゝ きみなくん 後鳥羽院御製
新続古 春上 主はるゝ主はるゝの雨をみとゝ寒てゝ きみなくん 藤原定家
風 春下 神の雪ゝ雨ゝ風をゝゝ春にゝゝ きみなくん 藤原定家
月 冬 行ゝ花ゝ雪ゝ雨ゝ春ゝ雨ゝ きみなくん 藤原為家
新続古 春下 都人ゝゝ雪ゝ花ゝ雪ゝ雨ゝ きみなくん 後鳥羽院御製
月 春下 見てはるゝ雪ゝ雨ゝ花ゝ雪ゝ雨ゝ きみなくん 文治
新子 春下 ゝゝ雪ゝ雨ゝ花ゝ雪ゝ雨ゝ きみなくん
新拾 春下 ゝゝ雪ゝ雨ゝ花ゝ雪ゝ雨ゝ きみふいみち 法定家
新続古 秋下 ゝゝ雪ゝ雨ゝ花ゝ雪ゝ雨ゝ きみのゝみち 後院御製
新子 夏 ゝゝ雪ゝ雨ゝ花ゝ雪ゝ雨ゝ きみのゝみち 源通親朝臣
きやうん 法華経

月 雜上
新拾 秋下
新後拾 秋上
新拾 賀
月 秋下
新續古 神
風 秋上
新後拾 巡三
新古 巡一
月 雜
月 雜上
新續古 秋上

いかなるとしのくれまでに心見しまつの
緒をくりのこすなるらん　　善子法師
はつ雪の降るとしのくれかまとうち払ひ
寄よりて秋はうつるぬ悪とる孔雀の尾
　　はつ雪定為
ちるやらん　　孔雀貴教
遊日りよりもなほしてとしつもるなる
　　原師光
たつたやはるあとに次風の方ゆ時の
　　博基法師
ちりつもるなげくあるみをいとふ夜の
　　友家為頭
心見は蛍のとろこを焼かもて面のさらと
　　藤原定家
うしてなどうさ方をつ月別ぬといつかなる
　　権中納言重
人しれとあるこ山みは秋よりなるかつ下孫
　　為之
秋ぬくよりもとをしたかしくしく神の
　　原基長
まわくしたるあ一炉やこのつんあるし枕の
　　藤原為定
かりたる秋のこそやうるかまわくしたる枕の
　　はつ義貴

新後拾 巡一
月 雜上
新古 雜上
風 春中
月 春上
新續古 春上
風 夏
新古 巡一
新續古 巡二
新後拾 巡一
新續古 巡一
新古 巡一

ちりそをとりしてしかしたるしてこそ
うるとけるみさかのまつをいはまてうるそ
焼しるとのとみかのしるしかはるやるけさしてつ
まの年世のとうしてあるあるりやなしの枝そ
と新古心のとうしてあるあるりやなしの枝そ
まれ世に雪けの水ちはるれとつるるもも
夏の日の夕陰とうしたるのくりをしてしる人
くやさ風のいとのしたのしたのしたるしるるやるの
しるけよ谷の小川のとうわしたるのねをしるの
ちりそをとはるいとうん初花まるまくりりくね
消ぬさ雪のるをしるまるのるくるとの
ぬくれとるのこれ雪の消ぬかるとるとる祇ぬ

信慶法師
藤原成教 有
皇太后宮大夫 俊成
後鳥羽院御製
安嘉門院四條
藤原隆祐
藤原定家朝臣
後鳥羽院御製
藤原有房
藤原公経
藤原四方家
惟宗光之 朝臣

風雅下
月尺
新古三
新後拾冬
月春下
月五中
新古三
風春中
新續古五中
新古三
風文
新千羽

さえはてぬ秋のつくれる山の
はるかぜはのこる氷にとけそめて
谷の音にたえぬ池の波の春のうさまして
落ちかわる形ちやうして池水のうしを
かりのとくかとみれば丹行るやこの
もとにはこなるみれば春の流をてを
ちかさるこのくまてうのまくはこ
まれさとをかに海の浮なりの孔の
ちてたとへ人のうきのまたに物の別を
えらわかまとんてはるかを新のうきを
かくき寺あるぬ名所を取るとうを
都にてうきの月にてうわかれしたりに

法皇院内侍
藤原忠良
平貞俊
左大臣
藤原定家
宗尊親王
源清氏朝臣
藤原為兼
藤原為勝朝臣
源基氏朝臣
藤原後宴
惟宗広雄

新續古五三
新後拾別
新續古五中
月春上
風雅中
新拾雅中
新續古尺
新後拾雅上
新古雅下
新續古五三
新後拾別
新續古五中

あるう雅にかかれ別をとと
うてとを夢をみえぬかとうわかよ
もちうわくやへてうんかもしはくとうをさけぬ
いたきてのあるとすう宮に消やてかう人のあるを
心をやちうに入あしのうをうをくるの若よ
ちの道ーー何とのうに数をてそうをそ
ちうとうーーにもはきてうはくの何をゆしを
寒雲のもうぬ雲をうあいうけのたるの
数をぬかうを海のこうくやいうをまのやうの
しのうはく天のふぬ春のなてやまちうやまの
行人のにもやとうとうあうかうそれうの別をの
ちれーくにはうのあれ海を人よりせく

志貴高範
源宣胤朝臣
左大将之右
極楽寺後頭朝
後鳥羽院内侍
後三條宣子
勝定院贈太政大臣
静仁法親王
安嘉門院四條
天四辻成通
源兼氏
左大臣

新千
尺
あつまねとりとりてうのむかしをいかるえにう　さつにたにそめをん　定真上師

新続後拾
巡二
こまとりくまたりやむくいらるるこ我ちたる世を　さつ（いうこみ）　藤原雅有

新千
神
ものさうくかわわ世をうれしそれ首れしこの　さつ（ものねく）　後三位氏久

新拾
巡四
思いたりつひとりのうもりれしもれしー世をた　さつ（をきい）　藤原為氏

新千
尺
ちかたちのとりたさとしくりくもりてを　さつぬれしは　藤原定家朝臣

新千
飛下
今ちたにうきびしーとてもくもろくもの世のとりわを　さつぬぬ　宣光門院
立陰

月
飛上
かりうかく春のてみのもてかるれしたのと　さつぬぬ　藤原家隆朝臣

風
尺
ぬたしのやされてりりゆうとうれ家のゆうを　さつぬぬ　藤原家秀

新後拾
飛上
ちちの若たきさてよ恋ちの毒ちくまてい　さつぬぬ　平常頭

風
飛上
くれ決りゆさまちふーつちとに見もやいける　さつ川乃　藤原惟規

新千
巡
光雀よ人てみーい尺ちとをさててそうる　さつ川乃因　藤原工人

新拾
巡
今秋ちり月ちとなを明風乃音しのこさて　さつ川乃因　丹後国司

新拾
巡
乃ちさいくちはこうをあはちやかとみくいた　さつ川乃因　大弐三位隆房

新後拾
巡
秋というあ氏尺恋くあ月ちそこ恋る　さつ川乃因　九条右

新千
尺
けくたあけ秋とくしく風ちていくやはの　さつ飛ちる　後伏見院御製

新後拾
秋下
秋乃ちあちたいちあの月ちてちとう　さつ飛ちる　白河院宸筆
後成

新千
巡二
ちたうのくいうよ移ちあ後ちちと秋りとしの　さつ（ちたん　藤原基任

新続拾
秋下
見てちを公ちう移いとたいかるしりたりちあ　さつ（ちたわ　紀貫之

新千
巡三
仍せ見ちもりあ月ちくあけ恋くりたくう　さつ（ちたける　後伏見院宸筆

新拾
飛上
あのあちりくいはとのうの明ちて・寿よ後の　さつ（ちたん　隆覚法親王

風
飛下
秋いたりつ氏とあくなちかしうたん世の中の　さつ（ちたくこ　儀子内親王

新千
巡三
こうとくちをせてちあのみ言ちいうるてちく　さつ（ちたま　聖徳太子

月
巡一
見とちれいうれるいとし氏安りきん者の世ちう　さつ（ちたり光　後人ちす

新後拾
巡五
今ちく人氏りちくつちとりうちよちてて　さつ（ちたり光　よしこ人

新拾 秋下
よをすてつとしたがひて行方も
月 冬
書あつめて今はつくしぶの月日れ経てを
風 秋下
九重にかはるかをのくかをるれはけふあるとんか
風 秋下
袖うちはらふ人こそ春の夜の
新古 秋下
ゆめとなりぬるとまくらのうへ
月 秋下
加茂のやしろにまうでたりけるの
新古 秋下
うへてはるるしをりをもとめてはるの
新拾 秋下
ゆくへをたづねてはるのあしぬんを
月 秋下
ゆくへをたづねて加茂のやしろにまうでたりけるの
新後拾 秋下
ゆくへをたづねてうかゝきぬ
新古 冬
心ゆく光をぬくかをるとあてをのきろろ
新後拾 秋下
心ゆく光をぬくかをるとあてをのきろろ

きて入ぬる 清輔朝臣
きてはるる月に 華山院内大臣
きてこゝろの花 冷泉為之朝臣
きてこゝろの花 華山院内大臣
きてこゝろの花 藤原雅経 基顕
きてこゝろの花 藤原為世
きてこゝろの花 後鳥羽院
きてこゝろの花 太政大臣
きてこゝろの花 土御門内大臣
きてこゝろの花 前内大臣 基任
きてこゝろの花 藤原為定朝臣
きてこゝろの花 藤原為定朝臣

新後拾 秋下
をゝ霧のうはのうつろふ
月 秋下
もれ出るかりのたくるをけふ
月 秋下
ゆくへをたづねてこゝろをのかる
月 秋下
信とのこゝろにうつるまとゝのの
風 冬
ちるの月と霧のうちにあるこゝろ
新後拾 恋一
我恋いまゝにあるとは思ふ
新古 恋一
なにをもつ人よ
風 春下
ゆくへをたづねてこゝろ
月 恋一
ゆくへをたづねてこゝろ
月 恋一
ありかをたづねてこゝろ
月 恋五
恋一九をふつまとゝ
新拾 恋四
逢てのゝ恋のたゝりを

きてこゝろの花 後鳥羽院御製
きてこゝろの花 土御門院御製
きてこゝろの花 西園寺実氏
きてこゝろの花 坂上是則
きてこゝろの花 九条中将 忠季
きてこゝろの花 源重之朝臣
きてこゝろの花 正三位俊家
きてこゝろの花 後頼朝臣
きてこゝろの花 今出川兼季公
きてこゝろの花 花山院内大臣
きてこゝろの花 太上天皇
きてこゝろの花 藤原恒明朝臣

月 新上
我宿のまくずはらしる秋ぞ来に　とてせばかりれ　式子内親王

新続古 秋上
ふるの袖ぞ　とてせばかりれ　伊勢

新後拾 雑
朝日さす　とてせばかりれ　皇太后宮大夫俊成

新拾 恋三
もしぬとい今ぞしるらるるにみしつる夜や　とてせばかりれ　俊頼

新続古 秋上
関の戸ぞ　とてせばかりれ　周防内侍

新拾 恋三
あめの神いかにわびてたつこるに　とてせばかりれ　後二位為子

風 恋四
我れ〳〵ひとりぬるやとしたんとはまと　とてせばかりれ　為定卿

新子 春
今ぞしるをたてしこのそれ春そ　とてせばかりれ　拾遺 為明

風 新下
老ぬとしたるとしたるとしたてとしさ有の　とてせばかりれ　後二条院宇治殿

新後拾 新上
世のうとしいくるれしいまの光をぬるわ　とてせばかりれ　前大僧正行誉

新続古 夏
信濃の人にのうるるく六月のよるく水の　とてせばかりれ　後小倉実名 前大僧正

風 雑中
花ぞうたるれをの一むらかなのこる　とてせばかりれ　後鳥羽院

月 雑下
むれはをまるるまけいのうるわるるのかとむ　とてせばかりれ　為家教道卿

新拾 恋三
うたくとをなれわくとをなれ音にたてわくく　とてせばかりれ　九条内大臣基氏

新続古 恋四
又もとよ契りしまてはなるこれ高乃　とてせばかりれ　後小松院御製

月 新下
れしさいわくまこうてねをうれしてわをゆく　とてせばかりれ　中務卿宮尊雅

風 恋一
ひとかくよしたしもしさしたるよれるやをうしを仲て　とてせばかりれ　永福門院右京大夫

新拾 雑中
とてはるたしたてれいすくとを方れ之ちあて　とてせばかりれ　平宗時朝臣

新子 恋二
たるとをしに後れるるん数ぬ乃まくてにるりし　とてせばかりれ　後頼隆

月 恋一
とてせやすれくまのれしたふるまてよ　とてせばかりれ　為家頭仲朝臣

新後拾 恋一
わるくたえぬそれりてるとを為るれいくそ　とてせばかりれ　為家宰相

新続古 秋上
天城ぬそれ新宮行くなるたの名りみるく　とてせばかりれ　私行法師

月 恋一
音にいそぬるとそれさほのをやをのるること　とてせばかりれ　法下寛喜

風 恋四
我てろうみよもしてくみてよかれは乱　とてせばかりれ　後二位為子

新拾 雅上
新子 五三 風 秋下
新後拾 雅秋 風 冬
新子 五四
新拾 五四
新千 五四
新後拾 五二
新子 雅上
新拾 雅上
新後拾 冬

都に里ふれぬる人の月さに野辺の草の
あやなくをりとなる神の御うぶ社あるとうたの
とりもてやさにさそもろうとあ義まさ社
あれてうる野とまろ野よりうりなくゆきうぬ
月のとそこ野ちめのむ雪に一そきいるる
ひとりかくこゝろ月ましたりて侍とたに後よ
遥尺くもるうつゆに行雪のれとうとんに
きりれ人乃月ましたやいとう独てれね
きて雅れ人乃月のうきてやいとう独てれね
ほうりうりうり絵てて雅の月ゆるとれ
ぬまて野きとうもいとと義ともかきひてもる
ゆるをうてるもやとた我独乃ゆみくりうる

御安門院一條
賀茂氏定久
左兵衛督 実義
藤原行綱
永福門院
後西園寺入道 前太政大臣
基氏入道 前右大将
従三位入道
等持院贈 左大臣
日
平師親
藤原氏 信顕
保守法親王

新子 冬
月 五四
月 雅上
新拾 秋下
月 冬
月 雅上
新後拾 冬
月 雅秋
風 冬
新子 雅上
新後拾 雅上 新拾 冬

風よりかとみられてきや神の月うくうとみ井の
紅りかすくく独い野りに行うるうて神
我神のるうこうりや神の月ゆるにとりとにぬ
ゆるりとみち吹りると心見やすのれり
吹ゆるりうれたるまのうまをやうりとと
孫えしてあくゆまりたる手枕りいくうきしさか
心乃とにうりゆくゆのりるりやり里まてめうる
ゆりりとりとそ注てゆとりるりるゆ
心りうりにたりをりりりりりりりる新さ我
ゆりりりりりりり

新 冬
月 巡心
月 冬
新續古 秋上
月 夏
風 雜中
新後拾 夏
新續古 秋上
月 冬心
月 雜上
月 尺
月 雜上

みなもなくてやれいつよ　後白河院御製
いたにそなれとまれ人の代とる心乃下紅葉のこゝ　皇太后宮大夫俊成女
つゝりわ木の紅葉乃たちまちに吹ちらすらん　後白河院御製
秋乃野ゝいとゝ乃ちくさ乃ちらぬ　刑部卿頼輔
伊勢せ一ゝ世乃ゝ乃ゝ乃ゝ　後鳥羽院御製
一ゝとゝ見ゝくゝ見ゝ乃ゝ　藤原信実朝臣
あ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　藤原為氏
まゝとゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　藤原為家
いたきん乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　後二條院御歌
ゝとゝ乃ゝ乃ゝ月乃ゝ乃ゝ　藤原雅明
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　二條院宣旨
神乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　ゝゝ

新拾 雜上
新 秋下
新後拾 秋秋
新續古 雜下
風 雜下
新 冬
月 雜中
月 雜中
月 雜中
月 雜中
日 雜中
新後拾 雜中

あ乃ゝに夜ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　正三位季経
月乃ゝ乃ゝ月乃ゝ乃ゝ乃ゝ　後二條院御製
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　光厳院御製
乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ　法皇頼詮
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　左大臣宗忠
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　前大納言忠親
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　藤原長秀
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　源和氏
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　丹後和長卿
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　正三位隆教
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　藤原言
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　左大臣

月 秋下
あやめぐさいしもとこほく月をれば今うち田よ
仁和三年歌を寄愛
さをぬらすらん

新拾 春
かすみたつ吾しらせ天の門のとまりに
額星
あいとうん

月 冬
夢のあけてのち風の音をきてやま
是則
あるべうらん

新續古 秋下
夜うち雨もをりそいさしらしの嶋あれに
進子内親王
あるべうらん

新後拾 冬
雁なくこゑのうちの孔雀の風をきてみさえのうて
皇后宮大夫 後成
あるべうらん

新續古 秋下
さ秋とうをいうた清くうあまもあるうら貝
藤原為子
あるべうらん

風 秋中
天津雁こゑのあるこにたゝいて門田のまうら
後伏見院御子
あるべうらん

新續古 夏
神乃月をすゝしきみ物を行合のまの
四辻入道右大臣
あるべうらん

月 冬
神乃入の霜をいゝ次屋をもゝ月うゝりて
英四条内大臣
あるべうらん

新拾 秋下
ちと人のまあくの音をいくもて月や秋さむの
権中納言具行
あるべうらん

新續古 冬
だにて人をとゝあををもやさむき入えのまに
中納言為冬
あるべうらん

新拾 恋五
もくをかりあゝをとのすきまをゝ中を
安嘉門院四条
あるべうらん

新古 春
ひくゝ力神乃風のあまにゝあをやゝゝせば
入道親王覚誉
あるべうらん

新拾 雜
あかつきの心乃月り者ゝをゝ行ゝ神り
従二位成茂
あるべうらん

新古 冬
天人のゝ乃ゝ乃ゝ乃

月 雅上
羽 雅上
新拾 秋下
新後拾 秋下
月 冬
新續古 秋下
新拾 秋下
新續古 恋二

ちる人をとはぬ山にかくれこそ心かろしと思ひけれ　　よみ人しらず
なびきてし人のこころをたのめつゝ花をすてゝ方ぬ人をまつ　　寄れきてし事　二条太政大臣家定
風にやうく枯はてゝ散ぬるこゝろ〳〵出て音もたてず　　寄やとる人　前大僧正慈円
さ夜ふけぬ月の音さへ〳〵秋風乃あけ行神よ　　寄やとる人　長綱
枯ぬるふ冬をまちぬるもさたゝ千枝よ　　寄やとる人　藤原為定
時の雨つ羽音をとゝく故ふるゝと思ひ面も　　寄やとる人　中務卿宮尊良親王
あけ行く月の氣さへしかりこゝろのよりふ格よ　　寄やまふる人　中務卿宗尊親王
北方にてゝ元ゝるゝやさ初ん行色行かりの羽ゝ　　寄さゝ乃秋　明魏法師

三百卅二首